

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 1
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	北海道
地区名	黒羽尻線	事業実施主体	南茅部町
関係市町村	北海道茅部郡南茅部町	管理主体	南茅部町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、総延長7,070m、全幅員5.0m、利用区域面積2,021haを有する林道であり、利用区域面積のうち水源涵養保安林が1,029haを占めるなど森林の有する公益的機能の持続的発揮等が強く求められている地域において開設したものである。また、林道沿線に水産系廃棄物リサイクルセンターがある。</p> <p>このため、交通量が多い1,463mで舗装事業を実施し、通行安全性の向上また森林施行の効率性の向上を図ったものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 112百万円 総費用(C) 94百万円 分析結果 1.19</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	維持管理費の軽減が図られたとともに、通行車両の安全が確保された。
-----------	----------------------------------

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、南茅部町が整備した後、南茅部町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回は、草刈りや側溝掃除等が実施されている。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、水産系廃棄物リサイクルセンターでは、これまで砂利道であったが、本林道の整備により安心・安全の確保につながっている。
--------------	--

社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。
-----------	--------------------------------------

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.19と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、水産系廃棄物リサイクルセンターの利用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3-2

事業名	林道舗装事業	都道府県	北海道
地区名	赤川線	事業実施主体	月形町
関係市町村	北海道樺戸郡月形町	管理主体	月形町
事業実施期間	H4～H8(5年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、総延長6,756m、全幅員4.0m、利用区域面積532haを有する林道で、広域的な森林の多面的機能の発揮が期待された林道として位置づけられているが、急勾配、急カーブのため降雨や融雪時に路盤が洗掘され通行に支障をきたしていたため、延長4,128mの舗装整備を実施したものである。</p>
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 303百万円 総費用(C) 253百万円 分析結果 1.20</p>
事業効果の発現状況	<p>急勾配、急カーブのため降雨や融雪時に路盤が洗掘され通行に支障を来していたが舗装整備により森林へのアクセスが容易になった。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、月形町が補助により整備した後、月形町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の農地等の活用、農業の振興にも大きな役割を果たしている。</p>
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.20と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 3
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	北海道
地区名	緋牛内線	事業実施主体	端野町
関係市町村	北海道常呂郡端野町	管理主体	端野町
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本林道は、総延長5,100m、全幅員4.0～5.5m、利用区域面積777haを有する林道である。本事業は、森林へのアクセスの改善と、沿線人家の通学等の安全確保のため舗装事業2,451mを実施したものである。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 319百万円 総費用（C） 308百万円 分析結果 1.04
事業効果の発現状況	施業対象地までの移動時間が短縮された。 林道沿線人家児童の通学の安全が確保された。
事業により整備された施設の管理状況	端野町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になった。
社会経済情勢の変化	森林整備請負業者及び立木購入業者の通行、輸送がスムーズになった。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.04と効率性が認められる。維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 4
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	北海道
地区名	キナシベツ線	事業実施主体	音別町
関係市町村	北海道白糠郡音別町	管理主体	音別町
事業実施期間	H5～H8(4年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本林道は、総延長6,736m、全幅員5.0m、利用区域面積316haを有する林道である。本林道は、利用区域内森林の適切な整備の実施のほか、沿線の一般廃棄物処理場への運搬車両及び一般車両の通行安全確保のため、延長1,910mで舗装事業を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 225百万円 総費用(C) 199百万円 分析結果 1.13
-----------------------	---

事業効果の発現状況	本事業の実施により、林業用車両及び林道沿線にある一般廃棄物処理場への運搬車両の快適性の向上と、通行の安全確保がなされ、林道通行台数が整備前と比べ440%と増えている。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、音別町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	森林及び一般廃棄物処理場へのアクセスが容易になり、森林所有者等の意欲が高まったほか、走行性の向上により林業関係車両及び処理場関係車両の通行が改善された。
--------------	--

社会経済情勢の変化	林業従事者の労働環境及び一般廃棄物処理場への利用環境の整備によって、林業生産性の向上、生活環境の保全等、山村地域の振興に大きな役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な森林整備等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。 また、廃棄物処理施設への運搬車両が増加した場合の安全確保について対策を講じていかなければならない。
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 利用区域の森林整備のに使用する外、隣接一般廃棄物処理場へのアクセス道として役割を果たしていることから、地域住民にとって必要不可欠な林道である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.13と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により、効率的な利用をしていくこととしている。 ・有効性 森林の整備状況、一般廃棄物処理場へ通行状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 5
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	岩手県
地区名	えがら 江柄線	事業実施主体	盛岡市
関係市町村	岩手県盛岡市	管理主体	盛岡市
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>江柄線は昭和52年に森林整備の効率化を目的とし開設した幅員4.0m、延長1,980mの普通林道であり、市道大沢馬場線と市道江柄線を結ぶ連絡線形であり、災害時の迂回路、緊急輸送路としての役割も果たしている。</p> <p>しかし、急勾配区間が多いことから、しばしば路面の洗掘が発生するなど安全通行や維持管理に支障と来していたことから、舗装を実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果の分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 194百万円 総費用（C） 128百万円 分析結果 1.52</p>		
事業効果の発現状況	<p>平成10年、14年に豪雨による激甚な災害が発生したが、舗装箇所は洗掘されることなく機能を充分発揮している。</p> <p>舗装箇所は不陸正整、路盤材補充等の維持管理経費が軽減した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>盛岡市林道管理要領に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>全線舗装がなされたことにより、森林へのアクセスが容易となり林業関係者のみならず、一般住民の利用が増加した。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や農林畜産物の搬入搬出が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>木材価格の低迷や林業労働力の高齢化、担い手不足等により、森林所有者の森林整備の取組みや林業意欲は低下してきている。</p> <p>今後、森林所有者に積極的に普及啓発を行い、森林整備を進めることで、森林の持つ木材生産機能、及び国土保全、水源のかん養といった公益的機能を高度に発揮させる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備は必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.52と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備への活用状況、住民の利用状況からみて有効な施設と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 6
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	岩手県
地区名	おおしお 大塩線	事業実施主体	大船渡市
関係市町村	岩手県大船渡市	管理主体	大船渡市
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>大塩線は昭和31年から42年に森林整備の効率化を目的とし開設した幅員3.6m、延長13.902mの普通林道である。また、利用区域森林内の首頭崎灯台は、海難事故防止に大きな役割を果たしており、灯台管理上も重要な路線となっている。</p> <p>しかし、当路線は、花崗岩が風化したマサ土地帯を通過していることから、急勾配区間では路面侵食が著しいため、舗装を実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果の分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 78百万円 総費用(C) 45百万円 分析結果 1.73</p>		
事業効果の発現状況	<p>平成10年、14年に豪雨による激甚な災害が発生したが、舗装箇所は洗掘されることなく機能を充分発揮している。</p> <p>舗装箇所は不陸正整、路盤材補充等の維持管理経費が軽減した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>大船渡市林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>地域内には、ホンシュウジカの食害による下層植生の消失箇所があり、ここから流出した土砂が太平洋に注ぎ込み沿岸漁場の環境にも影響を与えている。このため、現在、本路線線を利用し治山工事による復旧が行われている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や農林畜産物の搬入搬出が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>木材価格の低迷や林業労働力の高齢化、担い手不足等により、森林所有者の森林整備の取組みや林業意欲は低下してきている。</p> <p>今後、森林所有者に積極的に普及啓発を行い、森林整備を進めることで、森林の持つ木材生産機能、及び国土保全、水源のかん養といった公益的機能を高度に発揮させる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備は必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.73と効率性が認められる。今後維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況からみて有効な施設と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 7
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮城県
地区名	樽水線	事業実施主体	名取市
関係市町村	宮城県名取市	管理主体	名取市
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	当事業は、森林施業を促進し森林の多面的な機能を十分に発揮させるために不可欠な林道について、山村地域の環境改善及び林業従事者の就労環境の改善にも資するために舗装1,060m（幅員3.6m）を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 63百万円 総費用（C） 27百万円 分析結果 2.33
-----------------------	---

事業効果の発現状況	到達時間が整備前の6割程度となり、アクセスが容易になった。 豪雨時の路盤流出や洗掘がなくなり、安全に通行出来るようになった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	年1回程度の草刈りや側溝清掃等を実施している。
-------------------	-------------------------

事業実施による環境の変化	舗装したことにより利便性が向上し、自然観察会などに活用されるようになった。
--------------	---------------------------------------

社会経済情勢の変化	沿線には宅地が隣接しており、林道を舗装したことにより利便性が向上するとともに、悪天候時の安全な走行も確保できるようになり、地域の生活環境の改善等にも役立っている。
-----------	---

今後の課題等	ゴミの不法投棄が行われたことから防止策を講ずる必要がある。
--------	-------------------------------

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林の多面的機能効果の発現の観点からも林道整備は不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が2.33と効率性が認められる。整備により維持管理費の軽減が図られた事から、今後も効率的に維持管理を実施し、施設の適切な管理を行って行くこととする。 ・有効性 利便性、快適性の向上により、これまで以上に林道が活用され有効に利用されている
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 8
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	秋田県
地区名	羽黒線	事業実施主体	秋田市
関係市町村	秋田県秋田市	管理主体	秋田市
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設の林道を舗装したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 317百万円 総費用（C） 147百万円 分析結果 2.16
事業効果の発現状況	舗装整備により走行性が向上し、周辺の森林及び森林レクリエーション施設等へのアクセスが容易になり、森林整備の促進や森林への入り込み者の増加に効果を発揮している。 藤倉集落から秋田市内までの到達時間が、整備前に比べて3割程度短縮され、地域住民の生活環境の改善に効果を発揮している。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、秋田市が林道管理規程に基づき路肩の補修等を実施しており、維持管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
社会経済情勢の変化	森林施業労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。 また周辺には太平山リゾート公園等が整備されており、利用者のアクセスは県道一本に依存していたが、本林道の舗装整備により安心・安全な走行の確保につながり、森林整備への利用のみに止まらず、多岐にわたる効果が現れている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存在することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備、改善が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.16と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 9
------	--------

事業名	林道舗装事業	都道府県	秋田県
地区名	中村線	事業実施主体	五城目町
関係市町村	秋田県南秋田郡五城目町	管理主体	五城目町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設林道の舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 50百万円 総費用（C） 40百万円 分析結果 1.25
事業効果の発現状況	林道の走行性が向上し、整備前に対して森林へのアクセスが容易になったため人工林面積に占める保育・間伐の実施率が向上した。 中村集落から国道285号線までの到達時間が整備前に比べて5割程度短縮され、地域住民の生活環境が改善された。 舗装により、林道の維持管理経費の低減が図られている。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、五城目町が維持・管理しているほか、中村集落も定期的に草刈りを行うなど積極的に関与しており、維持管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、災害時の迂回路にも大きな役割を果たしていることから、周辺の集落にとって重要な役割を果たしている また、中村集落等では、これまで大きく迂回して北側の国道285号線に出ていたが、本林道の整備により、集落等の生活環境の改善にもつながっている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、従事者の環境改善となる林道の利便性の確保が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.25と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な維持・管理を適時に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 10
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	愚場地線	事業実施主体	小野町
関係市町村	福島県田村郡小野町	管理主体	小野町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、小野町大字南田原井地区といわき市下三坂地区を結ぶ連絡林道として昭和53年度に開設が完了されて以来、利用区域内の森林施業はもとより、本林道近隣の地域住民により通勤・通学道として利用されてきている。</p> <p>しかし、砂利道で路面浸食や維持管理費の増嵩などの状況にあったことから、舗装990mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 68百万円 総費用(C) 62百万円 分析結果 1.10</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装したことにより、降雨の度に行っていた路面整地や碎石の敷き均しが必要なくなり、維持管理費が大幅に削減された。</p> <p>舗装による利便性・快適性の向上により、森林施業の実施率が向上した。</p> <p>通勤やその他の生活道としても利用されている。(小野町大字南田原井地区住民～いわき市、いわき市三和町中三坂地区及び下三坂地区住民～小野町等)</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、小野町が林道維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況は良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みが無くなり、砂利の飛散等による農作物への被害や側溝の詰まりが無くなった。</p> <p>また、降雨後の車両通行時の泥はねがなくなり、車両や歩行者の通行が改善された。</p>
社会経済情勢の変化	<p>舗装されたことにより、迂回して遠回りする者がなくなり、地元住民の通勤や生活の効率性が向上した。</p>
今後の課題等	<p>これまで以上に、利用区域内の森林施業の推進を図る必要がある。</p> <p>また、本路線の利用者が増加傾向にあるため、待避所等の整備が必要である。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 降雨時の田畑や側溝への碎石の流れ込みや敷き砂利の飛散等による農作物への被害の低減、維持管理経費の軽減や林道通行の利便性及び安全確保を図るため必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.10と効率性が認められる。今後の維持管理も引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理経費が大幅に削減されたほか、農地への敷き砂利の飛散等による被害の解消、通勤等の利便性の向上等から有効であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 11
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	下小屋線	事業実施主体	大信村
関係市町村	福島県西白河郡大信村	管理主体	大信村
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、大信村下小屋地区と天栄村大里地区を結ぶ連絡林道として昭和63年度に開設が完了されて以来、利用区域内の森林施業はもとより、本林道近隣の地域住民が通勤・通学道や農耕地の管理のために利用されてきている。</p> <p>しかし、路面浸食や維持管理費の増高等の状況にあったことから、舗装1,201mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 66百万円 総費用(C) 59百万円 分析結果 1.12</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装したことにより、降雨の度に行っていた路面整地や砕石の敷き均しが必要なくなり、維持管理費が大幅に削減された。</p> <p>舗装による利便性・快適性の向上により、森林施業の実施率が向上した。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、大信村が維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況は良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>降雨による田畑や側溝への砕石の流れ込みが無くなり、敷き砂利の飛散等による農作物への被害や側溝の詰まりが無くなった。</p> <p>また、降雨後の車両通行時の泥はねが無くなり、降雨時に迂回する者がなくなった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>木材の運搬が容易になったほか、農作物等の運搬についても効率が上がり、林業振興のみならず農業分野にも効果がある。</p> <p>舗装により改善されたため、迂回して遠回りする者がなくなり、地元住民の通勤や生活の効率性が向上した。</p>
今後の課題等	<p>利用区域内の森林施業の推進を図る必要がある。</p> <p>本路線の利用者が増加傾向にあるため、待避所等の整備が必要である。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 降雨時の田畑や側溝への砕石の流れ込みや敷き砂利の飛散等による農作物への被害防止、側溝の維持管理経費の軽減や林道通行の利便性の向上を図るため、必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.12と効率性が認められる。今後の維持管理も引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理経費が大幅に削減されたほか、農地への敷き砂利の飛散等による被害の解消、通勤等の利便性の向上等から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 12
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	山形田代線	事業実施主体	埴町
関係市町村	福島県東白川郡埴町	管理主体	埴町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、埴町山形地区と同町田代地区を結ぶ連絡林道として昭和55年度に開設が完了して以来、利用区域内の森林施業のために利用されてきている。</p> <p>しかし、路面浸食や維持管理費の増高等の状況にあったことから、舗装679mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 42百万円 総費用(C) 37百万円 分析結果 1.14</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装したことにより、降雨の度に行っていた路面整地や碎石の敷き均しが必要なくなり、維持管理費が大幅に削減された。</p> <p>舗装による利便性・快適性の向上により、森林施業の実施率が向上した。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、埴町が補助事業により整備した後、維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況は良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みが無くなり、敷き砂利の飛散等による農作物への被害や側溝の詰まりが無くなった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>木材や農作物等の運搬高率が向上し、地域産業の振興にも効果がある。</p> <p>舗装されたことにより、利用区域内住民の通勤や生活の効率性が向上した。</p>
今後の課題等	<p>これまで以上に、利用区域内の森林施業の推進を図る必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みや敷き砂利の飛散等による農作物への被害、側溝の維持管理経費の軽減、林道通行の利便性の向上を図るため、必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.14と効率性が認められる。今後の維持管理も引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理経費が大幅に削減されたほか、農地への敷き砂利の飛散等による被害の解消、通勤等の利便性の向上等から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 13
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	おおまき 大牧線	事業実施主体	下郷町
関係市町村	福島県南会津郡下郷町	管理主体	下郷町
事業実施期間	H2 ~ H8 (7年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、下郷町の北東部に位置し男女川流域の森林面積をカバーする突っ込み線形の林道であり、利用区域内の森林施業はもとより、下郷町簡易水道施設の水源管理及び根ワサビ栽培畑への通行のためにも利用されてきた。</p> <p>しかし、降雨時の路面浸食や維持管理費の増高等の状況にあったことから、舗装3,210mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 180百万円 総費用(C) 166百万円 分析結果 1.08</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装したことにより、降雨の度に行っていた路面整地や碎石の敷き均しが必要なくなり、維持管理費が大幅に削減された。</p> <p>舗装による利便性・快適性の向上により、森林施業の効率化が図られた。</p> <p>下郷町簡易水道施設の水源管理や、沿線行われている根ワサビ栽培畑への通行にも利用されている。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、下郷町が維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回(7月頃)程度、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>
事業実施による環境の変化	<p>森林施業のために通行が容易になり、森林所有者の意欲の向上、簡易水道利用の改善が図られた。また、降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みが無くなり、碎石による農作物への被害や側溝の詰まりが無くなった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>森林施業への意欲と関心が高められ、利用区域内の施業が積極的に進められた。</p>
今後の課題等	<p>樹木の生長のため視距の確保が困難となり、安全施設としてカーブミラーの設置を行う必要がある。</p> <p>また、小型自動車の実走行速度が上昇してきていることから、走行車の安全を確保するため、ガードレール等の防護施設の設置を行う必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 側溝の維持管理軽減や森林管理道としての利便性、通行者の安全確保を図るため、必要性が高い。 ・効率性 費用対効果の分析の結果が1.08と効率性が認められている。今後の維持管理引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理経費が大幅に削減されたほか、生活道路並びに下郷町簡易水道施設の水源管理にも活用されており有効性が高い。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 14
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	こばやし 小林線	事業実施主体	只見町
関係市町村	福島県南会津郡只見町	管理主体	只見町
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、連絡線形であり沿線には保育管理が必要な森林のほか、野の沢集落、耕地もあることから利用度も高い。</p> <p>このため、通行の安全性・利便性を確保し、林業経営の効率化を図るため、舗装2,404mを実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 270百万円 総費用（C） 119百万円 分析結果 2.27</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装したことにより、降雨の度に行っていた路面整地や碎石の敷き均しが必要なくなり、維持管理費が大幅に削減された。</p> <p>舗装による利便性・快適性の向上により、森林施業の効率化が図られた。</p> <p>只見町野の沢地区住民の通勤やその他の生活道、沿線農地への農作業道としても利用されている。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、只見町が補助事業により整備した後、維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回（7月頃）程度、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>
事業実施による環境の変化	<p>降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みが無くなり、碎石による農作物への被害や側溝の詰まりが無くなった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>木材の運搬が容易になったほか、農作物等の運搬についても効率が上がり、林業振興のみならず農業分野にも効果がある。また、地元住民の生活道路として通勤等にも利用されている。</p>
今後の課題等	<p>利用区域内の森林施業の推進を図る必要がある。</p> <p>小型自動車の実走行速度が上昇してきていることから、走行車の安全を確保するため、ガードレール等の防護施設の設置を行う必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 降雨による田畑や側溝への碎石の流れ込みによる農作物への被害や側溝の維持管理軽減や森林管理道としての利便性及び通行者の安全確保を図るため、必要性が高い。 ・効率性 費用対効果の分析の結果が2.27と効率性が認められている。今後の維持管理も引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理経費が大幅に削減された外、農地等への碎石流れ込みによる被害の解消、通勤等の利便性の向上等有効性が高い。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 15
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	福島県
地区名	おおす 大州線	事業実施主体	相馬市
関係市町村	福島県相馬市	管理主体	相馬市
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、相馬市の東部に位置し、松川浦沿岸を走る総延長2.1kmの林道であり、利用区域森林面積52haは全て潮害防備保安林及び保健保安林に指定されていることから、これら森林の適切な管理のため利用されている。</p> <p>しかし、降雨時の路面浸食や維持管理費の増高等の状況にあったことから、舗装を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 464百万円 総費用(C) 76百万円 分析結果 6.11</p>
事業効果の発現状況	<p>維持管理費が整備前5ヵ年(H4～8)で574千円あったのに対して、整備後5ヵ年(H9～13)では216千円と軽減された。</p> <p>治山事業により生活環境保全林を整備する際、整備前は森林内部への重機搬入が不可能であったが、整備後可能となった。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の維持管理は、相馬市が補助事業により整備した後、相馬市林道維持管理規程に基づいて管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>利用区域内にある相馬海浜自然の家では、年間を通して様々な研修が行われ、特に森林を活用した研修も行われるようになった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>松川浦は海岸松林と干潟からなる県立自然公園である。平成9年の松川浦大橋開通や平成12年の全国豊かな海づくり大会開催などを通じて林道の周辺整備が進められている中、重要な観光資源の一つである松林の保全にも注目が集まっている。</p> <p>こうした中、県立公園内に存する本林道には、松林を保全するための林道として大きな期待がかかっている。</p>
今後の課題等	<p>利用区域内は保健保安林・潮害防備保安林に指定されており、これまで生活環境保全林整備事業が行われてきた。今後も引き続き治山事業との緊密な連携による適切な森林施策を行う必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 維持管理費を軽減し、路面洗掘等がまねく林道災害を整備により未然に防止するとともに、林業就業条件の改善等のために舗装は不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析の結果が6.11と効率性が認められている。今後の維持管理も引き続き効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 維持管理費の軽減のみならず、治山事業への活用状況、近隣公共施設による利用状況等から見て有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 16
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	群馬県
地区名	住居附線	事業実施主体	上野村
関係市町村	群馬県上野村	管理主体	上野村
事業実施期間	H2～H8（7年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の生活環境改善及び他市町村への連絡道として、既設林道を舗装8,015mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 643百万円 総費用（C） 272百万円 分析結果 2.36
事業効果の発現状況	整備前と比較して安全性の向上とともに走行時間が短縮した。また、維持管理費では38%の低減となった。 資材運搬等が容易なため、治山事業・河川事業の迅速な対応が図られている。 地域に対する生活道としての効果も大きく、また、災害時の迂回路として安全で安心な生活の確保につながっている。 整備前と比較して利用率は24%増加した。
事業により整備された施設の管理状況	上野村では村道及び林道を含め、雇用対策から高齢者の活用を図った維持管理を行っており、現在は13人体制で道路パトロールや落石除去・側溝清掃・草刈等を実施しているため、管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	走行性の向上により他町村への連絡道としての利用が増加している。
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動が可能になった他、除間伐により伐採された素材の搬出が容易になったため、切り捨て間伐が収入間伐へと移行した。
今後の課題等	治山事業を含めた森林整備を進めているが、まだ整備不十分な森林が存在するため、積極的に活用するようPRが必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備のほか、生活道としても重要な路線であり、山村環境の改善にとって必要な事業である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.36と効率性が認められる。また、今後の維持管理においても適時に必要な改良等を実施しつつ効率的に行うこととしている。 ・有効性 利用状況からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 17
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	群馬県
地区名	小野子山線	事業実施主体	高山村
関係市町村	高山村	管理主体	高山村
事業実施期間	S55～H8（17年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため舗装8,905mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 752百万円 総費用（C） 466百万円 分析結果 1.61
事業効果の発現状況	砂利道から舗装道となり、木材搬出・森林整備・管理等の走行時間が短縮された。 本林道終点付近には、県立青年の家や国民宿舎・ゴルフ場等が隣接しており一部利用者がアクセス道として利用するようになり通行台数が大幅に増えている。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、林道維持管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、通行台数の増大に伴い林道沿線の修景美化が進んでいる。
社会経済情勢の変化	事業開始当時は、木材価格も安定し、スギ・ヒノキの植林が盛んに行われるなど林業従事者の利用が主であったが、現在は沿線にある村営牧場や森林レクリエーションを目的とした不特定多数の利用がある。
今後の課題等	管理に関して、木材価格の低迷などから沿線所有者の自発的な管理が期待し難いこと、村の財政上の理由から維持管理費の削減が求められていることから、効率的な管理が必要である。また、廃棄物の不法投棄に苦慮している。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続くなかで効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うための林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.61と効率性が認められる。今後の維持管理にあって、沿道の下刈りや安全対策等を適切に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、住民の利用状況、保健休養の利用の状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 18
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	千葉県
地区名	南条線	事業実施主体	千葉県
関係市町村	千葉県館山市	管理主体	千葉県
事業実施期間	S58～H8（14年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の走行性等の機能向上を図り、林業従事者の就業環境や林産物等の運搬効率の改善に資するため舗装2,055mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 87百万円 総費用（C） 80百万円 分析結果 1.09
事業効果の発現状況	林道の走行性が向上し、林産物等の運搬が効率的に実施されるようになった。また、林業従事者の就業環境が改善されたことから、森林施業の実施率が向上している。 維持管理経費が減少した。 大戸地区から館山市の市街地までの到達時間が短縮されたことにより、林業関係者以外の利用も増加している。
事業により整備された施設の管理状況	県が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状態は良好である。
事業実施による環境の変化	林道沿線に存する桜の名所へ訪れる者が増加しているほか、土埃りが立たなくなり養蜂家にも喜ばれている。
社会経済情勢の変化	森林の多面的機能が最近見直されてきているが、それらは十分な間伐等の施業の上に成立するものであり、森林整備とこれに必要な路網整備は必要不可欠なものとなっている。
今後の課題等	通勤等、地域住民の生活道路として利用が増加していることから、林道通行に係るマナーの普及啓発を行う必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備や木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の試算結果が1.09と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な改良等を実施し、効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民等による利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 19
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	東京都
地区名	浅間線	事業実施主体	桧原村
関係市町村	桧原村	管理主体	桧原村
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の急勾配区間について路面の洗掘防止を図り、林道通行の安全性の確保及び走行性の向上を図るため舗装676mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 25百万円 総費用(C) 17百万円 分析結果 1.47
事業効果の発現状況	降雨等による路面洗掘が解消され、林道通行の安全性、走行性の向上が確保された。 路面洗掘による林道維持管理経費の縮減が図られた。
事業により整備された施設の管理状況	東京都林道管理基準に基づき適切に管理されている。
事業実施による環境の変化	舗装を実施したことにより、林道通行の安全性や走行性が確保され、林業従事者等の利用者から喜ばれている。
社会経済情勢の変化	舗装施工後は、利用者が増加した。
今後の課題等	林道は、森林整備や地域住民の生活において必要不可欠な施設であり、林道通行の安全性や走行性の確保は重要である。 今後も、必要な改良や維持管理の補修等を適切に実施していく必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林道通行の安全性や走行性の確保を図るうえで必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.47と効率誠意が認められる。今後の維持管理においても、必要な改良等を適時に実施しつつ効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林施業への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 20
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	東京都
地区名	栗平線	事業実施主体	青梅市
関係市町村	青梅市	管理主体	青梅市
事業実施期間	S60～H8年度（12年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道について、林道通行の安全性の確保、走行性の向上を図ることを目的に急勾配箇所や路面洗掘が著しい区間について舗装2,199mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおり。 総便益（B） 68百万円 総費用（C） 67百万円 分析結果 1.01
事業効果の発現状況	急勾配箇所や路面洗掘が恒常的に発生している箇所の舗装が行われ、林道通行の安全が確保されるとともに走行性が向上し、利用者から喜ばれている。 走行性が向上したことにより、林産物等の効率的な運搬が可能となった。 林業従事者以外の利用者が増加している。
事業により整備された施設の管理状況	東京都林道管理基準に基づき適切に管理されている。
事業実施による環境の変化	舗装を実施したことにより、林道通行の安全性が確保されるとともに走行性が向上し、林業従事者以外の者が森林への入り込みに利用する機会が増加している。
社会経済情勢の変化	林道通行の走行性が向上したことにより、林産物等の運搬効率が向上した。また、林道沿線の住民が安心して林道を利用できるようになった。
今後の課題等	林道通行の安全性が確保され、走行性が向上したことから、林業従事者以外の者の利用が増加しており、林道通行に係るマナーの向上に係る普及啓発が必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林道通行の安全性の確保や走行性の向上を図るうえで必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.01と効率性は認められる。今後とも、改良や維持管理にあっては、コスト縮減等を図りながらより効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備や地域住民の活用状況等から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 21
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	明神線	事業実施主体	神奈川県
関係市町村	神奈川県南足柄市	管理主体	神奈川県
事業実施期間	S51～H8（13年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進と林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善等に資するため、林道舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 12,192m</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 2,509百万円 総費用（C） 661百万円 分析結果 3.80</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>平成9年度から実施されている「水源の森林づくり事業」による森林整備の円滑な促進の基盤となっている。</p> <p>当林道に接続する南足柄市管理の林道の舗装が実施され、市が管理する他の林道の整備を促進させている。</p> <p>資材運搬路の重複する治山、砂防事業の円滑な実施を可能にしている。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は、南足柄市から箱根町に至る地域の基幹林道であり、国庫対象外の部分についても舗装を完了している。毎年実施する必要箇所除草と軽微な維持工事で良好に管理されている。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>当林道の機能の向上により、「水源の森林づくり事業」を実施している地域に至る他の林道との接続などが円滑となり、沿線森林のみならず広範な森林整備の促進を可能にしている。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>本県においては、森林・林業を取り巻く環境の変化から、特に私有林の手入れが行き届かないという事態に対処するため、平成9年度から「水源の森林づくり事業」を実施している。水源地域の私有林を対象に公的な森林管理や支援を行い、流域を単位とした面的、集中的な森林整備を進めている。</p> <p>当林道は、この事業を進めるための基幹林道であり、舗装事業による機能の向上により森林整備の促進が期待できる。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>公的に管理されている森林とその他の森林において整備状況において大きな差が生じており、当林道の沿線においても同様の傾向が見受けられる。特に、私有林の整備が課題である。</p> <p>林道のより広範な開放とゴミ問題が課題である。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な森林整備等を行うため、地域の他の林道とネットワークを形成するための基幹となっており、必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が3.80と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な改良等を実施しつつ効率的に行うこととしている。 ・有効性 利用区域内森林の森林整備の推進状況、地域住民等の利用状況等からみて有効性が認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 22
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	鷹ノ巣山線	事業実施主体	神奈川県
関係市町村	神奈川県足柄下郡箱根町	管理主体	神奈川県
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進や林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善に資するため、舗装1,875mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 229百万円 総費用（C） 53百万円 分析結果 4.32
事業効果の発現状況	林道通行の走行性が向上したことにより、森林施業に必要な労働力の移動や林産物等の運搬が効率的に行えるようになった。 林道通行の走行性の向上により、森林施業の実施率が向上している。 林道の維持管理経費については、事業実施前の979千円/年から事業実施後の147千円/年へと大きく減少した。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、神奈川県が間伐林道として開設し、引き続き管理を行っており、維持管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	当該林道は県営林内に所在しており、従前から森林整備に活用されているが、林道通行の走行性が向上し、林業労働力の効率的な移動が可能となったことから、従前よりきめ細かな森林の手入れが行えるようになった。
社会経済情勢の変化	林道通行の走行性の向上により、林業従事者以外の者が森林浴等の目的で入り込むようになり、林業以外の森林の活用も増加している。
今後の課題等	間伐・枝打ち等の森林整備は行われているが、木材価格の低迷等により、林業生産活動が十分に行われているとは言えず、今後の課題となっている。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が4.32と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 23
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	片浦線	事業実施主体	神奈川県
関係市町村	神奈川県小田原市、足柄下郡湯河原町、真鶴町	管理主体	神奈川県
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>既設林道の走行性の向上を図り、森林施業の促進や林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善に資するため、舗装1,376mを実施したものである。</p> <p>舗装延長 1,376m</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 169百万円 総費用（C） 32百万円 分析結果 5.28</p>
事業効果の発現状況	<p>森林整備に必要な労働力の移動や林産物等の運搬が効率的に行えるようになり、森林施業の実施率が向上している。</p> <p>林道の維持管理経費については、事業実施前の1,659千円/年に対して事業実施後は、108千円/年と減少した。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、神奈川県が間伐林道により開設した後引き続き管理を行っており、維持管理状況は良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>当該林道は県営林内に所在しており、従来から森林整備に活用されてきたが、林道通行の走行性が向上し、林業労働力の移動が効率的に実施できるようになったことから、従前に比べてさらにきめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>林道通行の走行性が向上したことから、林業従事者以外の者が森林浴等の目的で森林を利用する機会も増加している。</p>
今後の課題等	<p>間伐・枝打ち等の森林整備は行われているが、木材価格の低迷等により、林業生産活動が十分に行われていない森林もあることから、今後の課題となっている。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が5.28と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 24
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	中沼線	事業実施主体	南足柄市
関係市町村	神奈川県南足柄市	管理主体	南足柄市
事業実施期間	H5～H8(4年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進や林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善に資するため舗装2,647mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 208百万円 総費用(C) 191百万円 分析結果 1.09
事業効果の発現状況	事業実施前の舗装率は、全延長に対して18%であったが、全線舗装によって走行性が向上したことから林業労働力の移動が効率的に行われるようになった。 人工林面積に占める保育・間伐の実施率が21%に向上している。 本林道から分岐する支線林道では、森林施業以外にも治山事業(平成10～12年度に実施)、砂防事業(平成13～22年度の計画で実施中)が実施されている。 完了後5年間に本林道から分岐する作業道(南足柄市森林組合)2,296mの整備が行われ、森林整備を効率的に実施するための路網が形成されている。
事業により整備された施設の管理状況	南足柄市林道巡視員設置要綱に基づき林道巡視員の委嘱により、本林道の巡回を年6回実施している。その結果報告等に基づき、林道通行に支障のある倒伏木等の撤去、草刈、軽微な補修等を行い、適切に管理している。
事業実施による環境の変化	全線舗装により林道の走行性が向上し、森林へのアクセス時間が短縮されたことから、森林所有者の林業経営意欲が高まっている。
社会経済情勢の変化	森林施業や治山事業及び砂防事業等の実施に必要な労働力等の効率的な移動が可能となり、より円滑な事業実施が推進されるようになっている。 一般者の入林が促進され、森林が保健休養の場として活用される傾向が見受けられる。
今後の課題等	管理人員や維持管理費が縮小していることから、管理業務の効率化についてより一層検討する必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、水源かん養保安林や自然環境保全地域にも指定されている森林の整備を効率的・効果的に行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.09と効率性が認められる。舗装事業実施により発生した残土は沿線の作業道補修に流用して利用するとともに、残土運搬距離を短縮するなどコスト縮減に努めた。 ・有効性 森林整備及び治山事業及び砂防事業への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 25
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	最明寺線	事業実施主体	松田町
関係市町村	神奈川県松田町	管理主体	松田町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進と林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善に資するため、舗装1,058mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 113百万円 総費用(C) 39百万円 分析結果 2.90
事業効果の発現状況	林道の走行性が向上したことにより、森林整備等に必要な林業労働力の移動が効率的となり、よりきめ細かな森林施業が実施されるようになった。 平成9年度から実施されている「水源の森林づくり事業」による森林整備が円滑に促進されている。 一般者が保健休養の場等として森林を活用する機会も増加している。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、松田町の管理の下、年2回の草刈、年数回の側溝清掃等を行っており、維持管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	全線舗装により森林への到達時間が短縮され利便性が高まった。
社会経済情勢の変化	森林・林業の情勢は、木材価格の低迷や採算性の悪化等により、林業生産活動が停滞しているが、一方で森林を保健休養の場として利用する者が増加しており、より森林整備の重要性が増してきている。
今後の課題等	管理人員や維持管理費が縮小していることから、管理業務の効率化についてより一層検討する必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、水源かん養保安林や自然環境保全地域にも指定されている森林の整備を効率的・効果的に行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.90と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備や治山事業及び砂防事業への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 26
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	おおばやし 大林線	事業実施主体	小田原市
関係市町村	小田原市	管理主体	小田原市
事業実施期間	H5～H8(4年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進と林産物等の効率的な運搬、林業従事者の就労環境改善に資するため舗装1,771mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 115百万円 総費用(C) 80百万円 分析結果 1.44
事業効果の発現状況	林道の走行性が向上したことにより、森林への到達時間が短縮されたことから間伐9.6ha、枝打9.2ha、下刈0.2ha等の森林整備が実施されている。 森林施業等に必要な労働力の移動が効率的に行われている。 一般者が保健休養の場として森林を利用する機会も増加している。
事業により整備された施設の管理状況	小田原市が管理し、毎月、巡回を行っているほか、委託による草刈業務も行っており、管理状況は良好である。
事業実施による環境の変化	林道の走行性が向上し、軽四輪やバイク等による通行が用意となったこと、森林への到達時間が短縮されたこと等から森林所有者の林業経営意欲が高まった。
社会経済情勢の変化	森林施業に必要な労働力や林産物等の効率的な移動が可能となり、林業経営の効率化が図られつつある。 一般者の森林への入り込みが増加している。
今後の課題等	効率的な林業経営が図られつつあるが、木材価格の低迷等から未だに間伐等の森林整備が実施されていない森林が見受けられることから、森林施業に係るPRを行い、森林施業の推進を図る必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備を効率的に行うため、林道の整備は不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.44と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に実施すること等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 27
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	神奈川県
地区名	こまいりさわ 駒入沢線	事業実施主体	津久井町
関係市町村	神奈川県津久井郡津久井町	管理主体	津久井町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性の向上を図り、利用区域内森林の森林整備の促進や林産物等の運搬効率の向上、林業従事者の就労環境の改善に資するため舗装1,065mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 65百万円 総費用(C) 44百万円 分析結果 1.48
事業効果の発現状況	林道の走行性が向上し、森林への到達時間が短縮されたことから森林施業の実施率が向上している。 林業労働力の移動が効率的になるとともに林業従事者の労働環境が改善された。 林道の舗装により、維持管理経費が軽減された。
事業により整備された施設の管理状況	津久井町が管理しており、年数回の林道パトロールのほか、必要な補修工事を適時に実施するなど、適切に維持管理が行われている。
事業実施による環境の変化	森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽車両で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
社会経済情勢の変化	森林施業に必要な労働力や林産物等の効率的な移動が可能となり、林業経営の効率化が図られつつある。 一般者の森林への入り込みが増加している。
今後の課題等	森林所有者による森林整備や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷により未だ十分とはいえず、必要な間伐等が遅れている森林も存在することから、積極的な施業の実施についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、水源かん養保安林にも指定されている森林の整備を効率的・効果的に行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.48と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に実施すること等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備や治山事業及び砂防事業への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 28
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	新潟県
地区名	菱潟線	事業実施主体	鹿瀬町
関係市町村	新潟県東蒲原郡鹿瀬町	管理主体	鹿瀬町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>菱潟線は、鹿瀬町、津川町の町村界に位置する総延長2.7kmの林道であり、多面的な機能を発揮する森林の整備を促進するとともに地域の生活道としても活用するよう整備したものである。</p> <p>しかし、急勾配箇所が多く、大雨の都度通行止めとなるなど通行に支障が生じていたことから、林業用車両及び一般通行車両の安全を確保し、敷砂利等の維持管理費用の低減を図るため舗装2,690mを実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである</p> <p>総便益（B） 298百万円 総費用（C） 102百万円 分析結果 2.92</p>
事業効果の発現状況	<p>舗装により林道通行の走行性が向上したことから、森林施業を実施する森林までの到達時間が短縮され、森林施業の実行率が向上した。</p> <p>急勾配箇所（延長2,223mの区間）の路面洗掘に対する敷き砂利等の維持管理経費について173千円/年の低減が図られた。</p> <p>雨天時に通行する車両の安全確保が図られたことから、7,665台/年の利用台数の増加が見られる。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>鹿瀬町が林道維持管理規程に基づき林道沿線の除草等を実施し、適切に管理している。</p>
事業実施による環境の変化	<p>施業対象地への到達時間が短縮されことから、森林所有者の森林施業の実施に係る意欲が向上し、間伐等の森林整備が促進された。</p>
社会経済情勢の変化	<p>一般車両の通行も走行性が向上したことから、地域の生活道としてより活用されるようになった。</p>
今後の課題等	<p>一般車両の通行の増に伴い、一部マナーの悪いドライバーによるごみ等の投棄が多く見受けられるようになったことから、マナーの向上に資する標識や見回り等が必要である。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の労働負担の軽減、通行車両等の走行性の確保、維持管理費の低減等から必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.92と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民による利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 29
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	新潟県
地区名	赤崎線	事業実施主体	鹿瀬町
関係市町村	新潟県東蒲原郡鹿瀬町、津川町	管理主体	鹿瀬町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>赤崎線は、鹿瀬町、津川町の町村界に位置する総延長2.0kmの林道であり、多面的な機能を発揮する森林の整備促進や森林公園へのアクセス道として整備されたものである。</p> <p>しかし、急勾配箇所が多く、大雨の都度、路面洗掘等により通行止めとなるなど通行に支障が生じていたことから、林業用車輛及び森林公園利用者の通行を確保し、敷砂利等の維持管理費用の低減を図るため、舗装1,832mを実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである</p> <p>総便益(B) 204百万円 総費用(C) 113百万円 分析結果 1.81</p>
事業効果の発現状況	<p>林道通行の走行性の向上により、森林施業地への到達時間が短縮されたことから、民有林人工林における間伐や木材生産の実施率が向上している。</p> <p>舗装完了後の5年間に本林道から分岐する作業道1路線が開設され、効率的な森林整備等を実施するための基盤が整備されつつある。</p> <p>林道を舗装したことにより、路面洗掘等に対する路面整備が不要となり、林道維持管理経費の低減が図られている。</p> <p>林道終点に存する森林公園の利用者が約7,000人増加しており、森林を保健休養の場等として活用する者が増加している。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>鹿瀬町が林道維持管理規程に基づき除草等を実施しており、適切に管理している。</p>
事業実施による環境の変化	<p>舗装により林道通行の走行性が向上したことから、森林所有者の森林整備の実施に対する意識が高まり、林道の活用状況が向上してきている。また、本林道と接続する支線が整備され、更に本林道の効果の発現が期待される。</p> <p>林道の走行性の向上により、森林が学校の遠足やキャンプ等の野外活動の場として活用されるようになった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>森林の有する保健休養機能を享受するため入り込み客の増加へつながら、森林公園での自然とのふれあい教室の実施等が頻繁に行われるようになった。</p>
今後の課題等	<p>入込者の増加に伴い、林道通行に係るマナーの低下が見受けられることから、マナーの向上に資する標識の設置やパトロールの強化を行う必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の労働負担の軽減、通行車輛等の走行性の確保、維持管理費を低減するために必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.81と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な改良等を実施しつつ効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民、都市住民による利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 30
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	富山県
地区名	安楽寺塔ノ橋線	事業実施主体	小矢部市
関係市町村	富山県小矢部市	管理主体	小矢部市
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	既設林道の走行性を改善し、林産物等の運搬効率の向上や林業従事者の就労環境の改善、林道の維持管理経費の低減を目的に舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 140百万円 総費用(C) 85百万円 分析結果 1.65
事業効果の発現状況	林道の走行性の向上により、施業を要する森林への到達時間が短縮されたことから、利用区域内の人工林面積に占める保育施業や間伐施業の実施率が55%と向上している。 林業従事者の効率的な移動が可能となり、林業労働の軽減が図られている。 林道の維持管理経費が低減している。
事業により整備された施設の管理状況	小矢部市が林道管理規程に基づき適切に管理している。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れが行われるようになった。
社会経済情勢の変化	林道の都市住民等が自然とふれあいを求めている中で、林道整備によって、当該地区内のため池や森林を保健休養の場等として活用する者が増加している。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ必要な間伐等の森林整備の推進は十分と言えない状況であることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備の促進や林道の維持管理経費の低減等から必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.65と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民等の利用状況、維持管理経費の低減等から有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 31
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	石川県
地区名	雨の宮線	事業実施主体	鹿西町
関係市町村	石川県鹿島郡鹿西町	管理主体	鹿西町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	当該林道は、林業の生産性の向上と、山村地域の生活環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善を図るため、舗装1,585mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 85百万円 総費用（C） 50百万円 分析結果 1.70
-----------------------	---

事業効果の発現状況	林道の走行性が向上し、起点～終点までの走行時間が7分となり整備前に比べて5割の時間短縮となった。ま 林道維持管理費用が半減した。 保健休養利用等のアクセスとしての利用が増加した。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	管理主体である鹿西町による管理のほか、年1回地元住民のボランティアによる除草や空き缶回収等の清掃が行われており、管理状況は良好である。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	本林道の整備により、森林へのアクセスが容易になり、林業生産コストの低減も図られたため、森林所有者の森林整備・管理に対する意欲が高まってきた。 県道から雨の宮古墳群へのアクセスが容易になり、ハイキング等森林レクリエーションによる利用者が増加した。
--------------	---

社会経済情勢の変化	森林整備に必要な労働力の確保及び養成が課題となっている。また、林業労働の軽減を図るため、路網整備が不可欠となっている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、経営規模が零細であり、林業従事者の高齢化も進んできていることから、森林施業の共同化、労働力の組織化等の体質強化を図る必要がある。
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 適正な森林施業の推進や効率的な林業経営を行うためには、林道網の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.70と効率性が認められている。今後の維持管理においても必要な改良を適宜行うこと等により、効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等から有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 32
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	石川県
地区名	ベッコだけ 別所岳線	事業実施主体	中島町
関係市町村	石川県鹿島郡中島町	管理主体	中島町
事業実施期間	S56～H8（16年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	林業の生産性の向上と山村地域の生活環境の改善及び林業従事者の就労環境の改善を図るため、舗装1,089mを行った。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 51百万円 総費用（C） 35百万円 分析結果 1.46		
事業効果の発現状況	路網から500m未満となる森林の面積が整備前の20%に対して80%となり、森林へのアクセスが容易になった。 人工林面積に占める保育・間伐の実施率が78%となり、近隣の路網未整備森林の5%を大きく上回っている。 別所集落から中島町市街までの到達時間が30分となり、整備前に比べて22分短縮された。 完了後6年間に本林道を起点として、作業道等3路線の整備が行われてきている。		
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、林道管理規程に基づき中島町が管理しており、維持管理状況は良好である。また、林道沿線に別所岳森林公園があり、年1回程度、地元住民のボランティアによる除草や空き缶回収等の清掃が行われている。		
事業実施による環境の変化	本林道の整備により、森林へのアクセスが容易になり、林業生産コストの低減も図られたため、森林所有者の森林整備・管理に対する意欲が高まってきた。別所岳集落では、これまで県道の迂回路がなかったが、本林道の整備により、中島町市街地や七尾市等の近隣市町村へ通じている国道への代替路としての利用が可能となった。		
社会経済情勢の変化	森林所有者、森林組合の労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の森林公園の活用、地域振興にも大きな役割を果たしている。		
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、経営規模が零細であり、労務は高齢者、女性が主体となっている。このため、森林施業の共同化、森林所有者の組織化等の体質強化を図る必要がある。 林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業労働者は年々減少しており、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道網の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.46と効率性が認められている。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 33

事業名	林道舗装事業	都道府県	石川県
地区名	五十谷線	事業実施主体	白峰村
関係市町村	石川県石川郡白峰村	管理主体	石川県
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林業従事者の就業条件の改善、地域の生活環境の改善のため舗装1,024mを実施したものである。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 472百万円 総費用（C） 395百万円 分析結果 1.19
事業効果の発現状況	走行の快適性が確保され、森林整備等に活用されている。 地域住民はもとより、一般利用者の入り込みも増加し、森林に対する理解が高まっている。 維持管理経費等が縮減された。
事業により整備された施設の管理状況	県有林道として石川県が管理をし、おおむね2回/月に加え、豪雨及び気象条件の変化に応じてパトロールを行っている。 毎年草刈等を実施し、走行の安全を図っている。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、林業生産コストの低減も図られたため、森林所有者の森林整備・管理に対する意欲が高まってきた。
社会経済情勢の変化	森林整備に必要な労働力の確保及び養成が課題となっている。また、林業労働の軽減を図るため、路網整備が不可欠となっている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、経営規模が零細であり、林業従事者の高齢化も進んできていることから、森林施業の共同化、労働力の組織化等の体質強化を図る必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 適正な森林施業の推進や効率的な林業経営を行うためには、林道網の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.19と効率性が認められている。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 34
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	山梨県
地区名	東山中郡線	事業実施主体	山梨市
関係市町村	山梨県山梨市	管理主体	山梨市
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、山梨市に存し、県道甲府山梨線と町道牧丘線を結んでおり、森林整備に活用されるのみならず、国道や県道の迂回路として利用されているため通行車両が多い。</p> <p>このため、通行車両の走行性や林道施設の耐久年数の向上、維持管理費の縮減を図るため舗装2,287mを実施したものである。（利用区域森林面積 1,329ha）</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 17百万円 総費用（C） 13百万円 分析結果 1.31</p>
事業効果の発現状況	<p>林道走行の安全性が向上するとともに、山梨市切差集落から牧丘町牧平集落までの到達時間が12分となり、舗装前に比べて4割程度の時間短縮が図られた。</p> <p>降雨による洗掘の防止等により維持管理費が縮減された。</p> <p>車両及び乗員への疲労・負担が軽減された。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、山梨市により舗装事業を実施したあと、同市が管理しており、維持管理は適切である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>本林道は、県道甲府山梨線と牧丘町道を結んでおり、舗装事業を実施する前に比べて、国県道の迂回路として、安心・安全な暮らしの確保に寄与しており、利用率も向上している。</p>
社会経済情勢の変化	<p>森林整備や木材搬出の経費が増高し、奥地での施業はますます難しくなっている中で、林道の果たす役割は重要である。</p> <p>本事業では、既設林道の舗装を実施したことにより、利便性及び快適性が向上し、山村住民に大変喜ばれている。</p>
今後の課題等	<p>森林及び林道を地域ぐるみのイベントに活用するなどの取り組みについて検討する必要がある。</p> <p>林道沿線において家庭電化製品等の不法投棄が見られることから、防止策を講ずる必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備に供することはもとより、生活道路として果たす役割が大きいことから、走行性を向上させるための舗装事業は必要である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.31と効率性が認められる。今後も側溝清掃等を適時に行うことにより、効率的な維持管理が期待される。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて、有効であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 35
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	山梨県
地区名	無入沢上芦川線	事業実施主体	山梨県
関係市町村	山梨県東八代郡御坂町	管理主体	山梨県
事業実施期間	S56～H8（16年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、御坂町黒駒集落と芦川村上芦川集落を結んでおり、森林整備のみならず、地域間の交流に多数の者が利用している。</p> <p>このため、通行車両の走行性や林道施設の耐久性の向上、維持管理費の縮減を図るため、舗装9,869mを実施したものである。（利用区域森林面積 691ha）</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 38百万円 総費用（C） 30百万円 分析結果 1.27</p>
事業効果の発現状況	<p>御坂町上黒駒集落から、芦川村上芦川集落までの到達時間が30分となり、舗装前に比べて4割程度時間短縮が図られた。</p> <p>路面の洗掘等が防止され維持管理経費が縮減された。</p> <p>車両及び乗員への疲労・負担が軽減された。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、山梨県により舗装事業を実施した後、同県が管理しており、維持管理は適切に実施されている。（舗装事業実施後の災害発生はない。）</p>
事業実施による環境の変化	<p>本林道は、国道137号線と芦川村道を結んでおり、森林整備に活用されるばかりでなく、国県道の迂回路として安全・安心な暮らしの確保に寄与している。</p>
社会経済情勢の変化	<p>森林整備や木材搬出の経費が増嵩し、奥地での施業はますます難しくなっている中で、林道の果たす役割は重要である。</p> <p>本事業では、既設林道の舗装を実施したことにより、利便性及び快適性が向上し、山村住民に大変喜ばれている。</p>
今後の課題等	<p>森林及び林道を地域ぐるみのイベントに活用するなどの取り組みについて検討する必要がある。</p> <p>林道利用者が増加していることに伴い、林道情報の提供等が必要となっている。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備に供することはもとより、地域生活や森林レクリエーションに果たす役割も大きいことから、走行性を向上させるための林道舗装は必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析結果が1.27と効率性が認められる。今後も側溝清掃等を適時に行うことにより、効率的な維持管理が期待される。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて、有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 36
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山梨県
地区名	とよおかうめがしま 豊岡梅ヶ島線	事業実施主体	山梨県
関係市町村	山梨県南巨摩郡身延町	管理主体	山梨県
事業実施期間	S62～H8（10年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 1,581百万円 総費用（C） 487百万円 分析結果 3.25
事業効果の発現状況	路面浸食の激しい砂利道からアスファルト舗装路になったことにより、車輛の走向性が改善され林業関係車両はもとより、一般車両の円滑な通行に寄与している。 林道起点から終点までの到達時間が1時間10分となり整備前より3割程度短縮された。 災害に対する耐久性の向上により、施設災害の発生が減少した。 路面整備に係る維持管理経費の節減が図られた。
事業により整備された施設の管理状況	山梨県が適切に管理している。
事業実施による環境の変化	静岡県と連絡する主要道路として利用者の増加が顕著であり、山村地域の活性化に寄与している。
社会経済情勢の変化	環境保全の面から森林の適正な整備が求められている。
今後の課題等	当事業の実施により一般車両の通行台数が増加していることから、利用者へ林道情報を迅速かつ正確に提供することが必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林道の走行性の向上による森林施業の効率化、維持管理経費の節減のため林道整備の必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が3.25と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良や補修等を適時に実施しつつ効率的に行うこととしている。 ・有効性 静岡県と連絡する交通ネットワーク形成に寄与しており、森林整備への活用状況や地域住民等の利用状況等からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 37
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	山梨県
地区名	正楽寺三之蔵染線	事業実施主体	明野村
関係市町村	山梨県北巨摩郡明野村	管理主体	明野村
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び就業環境の改善を図るため、全延長4,207mの内、昭和63年の町単独事業による477mの施工に引き続き、3,730mの林道舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 24百万円 総費用（C） 21百万円 分析結果 1.14
事業効果の発現状況	林道が舗装され、乗り入れが容易になった。 本林道を起点として作業道の開設がされ、森林整備や林産物の輸送等に利用されている。 林業関係者以外の者による森林レクリエーションへの林道の利用台数も増加している。
事業により整備された施設の管理状況	村により、法面の草刈り及び側溝の清掃等が実施され、適切に維持管理されている。
事業実施による環境の変化	間伐及び椎茸原木の搬出等、森林整備や林業生産活動に積極的に利用されている。また、森林レクリエーションのため林道を利用する者が増加してきている。
社会経済情勢の変化	森林整備や木材搬出の経費が増高し、奥地での施業はますます難しくなっている中で、林道の果たす役割は重要である。 本事業では、既設林道の舗装を実施したことにより、利便性及び快適性が向上し、山村住民に大変喜ばれている。
今後の課題等	間伐等森林整備のより一層の推進を図るためのPRを行う必要がある。 また、林道利用者の増加に伴い、林道情報の提供等について検討する必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 当林道は、三之蔵・正楽寺の2集落を連絡する林道で、森林整備をはじめ、山村地域の生活環境の改善等に必要不可欠である。また、災害時の迂回路としても重要な路線である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.14と効率性が認められる。また、舗装することにより、林道走行時間が短縮され、林産物の輸送能力が向上している。 ・有効性 過疎化・高齢化が進む中、山村地域の生活環境の改善及び就業環境の整備を図るうえで有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 38
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山梨県
地区名	マリコ線	事業実施主体	丹波山村
関係市町村	山梨県北都留郡丹波山村	管理主体	丹波山村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林業労働者の高齢化が進んでいるため、林道の整備を行うことで、森林施業地までの歩行時間の縮減、林道の耐用年数の延長、維持管理費の縮減を図るため舗装364mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 81百万円 総費用(C) 36百万円 分析結果 2.25
事業効果の発現状況	利用区域内の間伐実施率が概ね20%となり、近隣の山林より森林整備が進んでいる。 完了後5年間に本林道を起点とした農道1路線も整備され、農林業両面からの利用が行われている。
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、丹波山村が管理しており、維持管理状況は適切である。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや、軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
社会経済情勢の変化	木材価格の低迷から、森林整備がされなくなってきていたが、森林の公的価値の見直しにより、森林所有者の意識にも変化が見られ、森林整備に対する意欲も高まりつつある。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ充分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存在することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析結果が2.25と効率性が認められる。 ・有効性 舗装により走行性が確保されるとともに、林道走行時間が短縮され、要施業森林へのアクセスが容易になったことから森林整備に対する意欲が高まり、森林施業の実績も上がった。 森林整備への活用状況、住民による利用状況からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 39

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	中樽線	事業実施主体	箕輪町
関係市町村	長野県箕輪町	管理主体	箕輪町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道中樽線は箕輪町福与から東箕輪を結ぶ林道で、地域の森林整備に欠かせない林道である。本事業は、走行の快適性、維持管理費の縮減等のため、路面の洗掘が激しく通行に支障がある部分について舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 33百万円 総費用(C) 23百万円 分析結果 1.43
-----------------------	---

事業効果の発現状況	従来の砂利道に比べて、走行に伴う疲労が軽減され、林業生産性の向上につながっている。 路面・側溝修繕費等が縮減され、また、当該個所の災害も発生していない。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	箕輪町が財務規則に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。
-------------------	----------------------------------

事業実施による環境の変化	森林整備等の車両が安全に通行できるようになった。
--------------	--------------------------

社会経済情勢の変化	当該林道の中間部分にある町営宿泊施設における入込み客が増加傾向にある。
-----------	-------------------------------------

今後の課題等	利用台数が増加していることから、適時適切に改良や維持管理を実施する必要がある。
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備等の車両の通行性を向上するためには、林道舗装事業が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.43と効率性が認められる。 ・有効性 車両の通行性・安全性が向上し、かつ、維持管理経費の縮減等から有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 40
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	売木うつぼ線	事業実施主体	平谷村
関係市町村	長野県平谷村	管理主体	平谷村
事業実施期間	H3～H8（5年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	維持管理費の縮減及び走行時間の短縮等のため、舗装を実施したものである。
----------	-------------------------------------

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 266百万円 総費用（C） 226百万円 分析結果 1.18
-----------------------	---

事業効果の発現状況	路面洗掘が防止され、維持管理費が縮減や災害発生の防止に役立っている。 通行の安全や快適性が確保されている。
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	平谷村が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。また、森林組合が草刈、側溝整備を行っている。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	通行の安全性や快適性が確保されたことから、森林整備関係の車両だけではなく、県外からの観光客の入込み利用も増加している。
--------------	---

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、地域産物の輸送が可能となった。また、起点側の阿南町では生活道路として重要な役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備への取組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により未だ充分とはいえず、必要な間伐等が行われていない林分も存する事から、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 災害防止、維持管理費の軽減、安全の確保等の観点からみて必要性が高い。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.18と効率性が認められる。 ・有効性 維持管理費の軽減、通行の安全などに役立っており、有効性が認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 41

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	本谷線	事業実施主体	豊丘村
関係市町村	長野県豊岡村	管理主体	豊岡村
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	維持管理費の縮減及び走行時間の短縮のため、舗装を実施したものである。
----------	------------------------------------

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td>134百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td>81百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td>1.65</td> </tr> </table>	総便益（B）	134百万円	総費用（C）	81百万円	分析結果	1.65
総便益（B）	134百万円						
総費用（C）	81百万円						
分析結果	1.65						

事業効果の発現状況	<p>路面洗掘が防止され、維持管理費の縮減とともに災害発生の防止効果がでている。</p> <p>走行の安全性や快適性が確保されている。</p> <p>沿線にある野田平キャンプ場・新九郎の滝への入込み客が舗装施工前に比べて3割増加した。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	豊丘村が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。また、地元関係者が草刈、側溝整備を行っている。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	沿線にある野田平キャンプ場・新九郎の滝への観光客が増加し、人々の自然環境に対する関心が高まった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	舗装事業の実施により、主に中京圏からの観光客も増加し、豊丘村の観光等の収入が増加した。
-----------	---

今後の課題等	<p>一般の人々が山に入りやすくなったことから、ボランティア等による森林整備の促進についてPRする必要がある。</p> <p>また、近隣の山で山火事が発生していることから、看板等で注意を呼びかけるなどの防火対策が必要である。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 災害防止、維持管理の軽減、安全の確保等の観点から必要性が高い。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.65と効率性が認められる。 ・有効性 維持管理の軽減、通行の安全など、有効な施設といえる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 42

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	日吉金谷線	事業実施主体	阿南町
関係市町村	長野県阿南町	管理主体	阿南町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	維持管理費の縮減及び走行時間の短縮を目的とし、舗装を実施したものである。
----------	--------------------------------------

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 45百万円 総費用(C) 38百万円 分析結果 1.18
-----------------------	---

事業効果の発現状況	日吉集落と鈴ヶ沢集落の到達時間が20分となり、整備前に比べ7割程度となった。 雨水による路面浸食がなくなり、維持管理費の縮減や災害の防止が図られた。 毎年4月29日に行われる、町指定無形文化財「日吉の御鞆祭り」に訪れる観光客が整備前に比べ3割程度増となった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、町の林道維持管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は概ね良好である。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	事業実施により、日吉集落と鈴ヶ沢集落の行き来が容易となった。また、山菜茸狩り等の一般車両の通行も多くなった。 また、町外者の入込みの増により、ゴミ等の放棄が多くなり環境悪化が懸念されている。
--------------	--

社会経済情勢の変化	林業経営者の高齢化に伴い、森林施業が遅れていたが事業実施により間伐材の搬出等が容易となった。
-----------	--

今後の課題等	木材価格の低迷等により林業経営意欲が停滞しており、要間伐林分があることから、積極的にPRを行い要間伐林分の解消を図る。 また、町外よりの入込み客に対し、ゴミ等の放棄解消のための看板設置等を行いたい。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.18と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時行い効率的に実施して行く。 ・有効性 地域住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 43

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	西沢線	事業実施主体	三岳村
関係市町村	長野県三岳村	管理主体	三岳村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道舗装・舗装による走行時間短縮及び維持管理費の縮減を図るため、舗装を実施したものである。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 17百万円 総費用(C) 13百万円 分析結果 1.31
事業効果の発現状況	正又集落から野中集落までの到達時間が11分となり整備前に比べ7割程度となった。 維持管理費が、整備前の砂利道に比べ1割以下となった。
事業により整備された施設の管理状況	村が一般財源により維持管理を適切に実施している。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり軽四で現場へ入れることから、きめ細かな森林の手入れが可能になった。また、災害時の迂回路として、住民生活の安全性が向上した。
社会経済情勢の変化	森林組合は、広域合併し経営体制の強化が図られ、また、林道の整備によって労働力の効率的な移動が可能となったことから、地域の森林整備がより一層効率的に進みつつある。
今後の課題等	木材価格の低迷等により山ばなれの傾向にあるが、水源かん養、国土保全等公益的機能の一層の発揮のため森林整備の促進が必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行なうためには、林道舗装が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が、1.31と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても必要な改良を適時に行いより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民等による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 44

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	恋路峠線	事業実施主体	大桑村
関係市町村	長野県大桑村	管理主体	大桑村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	就業条件の改善、走行時間短縮及び維持管理費の縮減等を図るため、舗装を実施したものである。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 37百万円 総費用(C) 27百万円 分析結果 1.37
事業効果の発現状況	阿寺集落から本谷集落までの到達時間が6分となり整備前に比べ7割程度となった。維持管理費が、整備前の砂利道に比べ7割程度となった。 路面の洗掘がなくなり、維持管理費の縮減や災害の防止が図られている。
事業により整備された施設の管理状況	村が一般財源により適切に維持管理を実施している。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり軽四で現場へ入れることから、きめ細かな森林の手入れが可能になった。また、災害時の迂回路として安全性が向上した。
社会経済情勢の変化	林道の周辺には、阿寺溪谷や柿其溪谷があり、自然環境に配慮して林道整備をおこなってきた結果、森林レクリエーション等の利用者も多く、地域振興上からも重要な役割を果たしている。
今後の課題等	木材価格の低迷等により山ばなれの傾向にあるが、水源かん養、国土保全等公益的機能の一層の発揮のため森林整備の促進が必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行なうためには、林道舗装が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が、1.37と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても必要な改良を適時に行いより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民等による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 45

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	十二沢線	事業実施主体	四賀村
関係市町村	長野県東筑摩郡四賀村	管理主体	四賀村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	舗装事業を実施することにより、路面の浸食を防止し、走行性の安定を図る。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 14百万円 総費用(C) 11百万円 分析結果 1.27
事業効果の発現状況	舗装後、路肩決壊等の災害がなくなり、災害復旧経費が軽減された。 舗装事業を実施した結果、通行性が向上し、本林道を利用する通行車両が増加した。
事業により整備された施設の管理状況	事業実施後も補助事業により全路線舗装され、路面の浸食がなくなり、通行性の安全が確保された。
事業実施による環境の変化	本路線は二つの集落を結ぶ林道であり、舗装工事により車両の安全性が向上したため、一般車両の利用が増加している。
社会経済情勢の変化	きのこや山菜採りで周辺の森林へ入る村民が増加し、舗装工事により通行性が向上したことにより、本林道を利用する一般車両が増加している。
今後の課題等	本林道沿線を大型車両が通行する際、路面が破損する恐れがあるため、その場合は、部分的に修復工事を行う必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 本林道は、森林整備に不可欠であるとともに、集落を結ぶ生活道としても重要であることから、林業就業条件の改善や通行の安全を確保するために舗装することが必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.27であり、効率性が認められる。 ・有効性 森林整備の状況及び地域住民の利用状況をみると、有効であったと認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 46

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	西山線	事業実施主体	小谷村
関係市町村	長野県小谷村	管理主体	小谷村
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	当該林道は、小谷村西山一帯の森林施業の動脈であるほか、集落間をつなぐ生活道及び災害発生時における国道148号線の迂回路としても重要であることから、就業条件の改善、走行の快適性の確保等のため、舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 205百万円 総費用（C） 177百万円 分析結果 1.16
-----------------------	---

事業効果の発現状況	舗装事業により起点から終点までの到達時間が24分短縮され、沿線の土倉、虫尾、池原、石坂の各集落間の走行性が高まった。 平成7、8年度の災害発生時に、沢沿いの各集落から国道へのアクセス道が不通となった際、迂回路及び物資搬入路として活用された。 柵池高原、白馬乗鞍スキー場等の有数な観光地を横に結ぶアクセス道として、観光シーズンの利用が高まった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、小谷村が林道規程に基づき管理しており、当該事業実施後の維持管理状況は良好である。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	近年、社会的に環境意識が高まっている中で、森林へのアクセスが容易になったことから、当該林道をフィールドとして村主催のハイキング・自然観察会が催されている。 また、終点側にも足坂森林探検村があり、村内外への森林レクリエーションのフィールドとして活用されている。
--------------	--

社会経済情勢の変化	長期にわたる林業の低迷により、奥地の森林整備が行われ難くなっているが、森林へのアクセスが改善されたことにより、森林所有者の森林整備意欲や住民の森林への関心が高まってきている。
-----------	---

今後の課題等	今後とも、沿線の森林整備を進める必要がある。
--------	------------------------

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林施業地までのアクセスの改善等による効率的な森林整備を行うためには林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.16と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備の実施のほか、国道148号線の迂路的な役割をもち、土倉、虫尾、池原、石坂を結ぶ連絡道としても活用されていることから、地域住民の利用状況等からみても有効であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 47

事業名	林道舗装事業	都道府県名	長野県
地区名	花岡山線	事業実施主体	池田町
関係市町村	長野県池田町	管理主体	池田町
事業実施期間	H4 ~ H8 (5年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	走行の快適性の確保、維持管理費の縮減等のため、舗装を実施したものである。
----------	--------------------------------------

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益 (B) 102百万円 総費用 (C) 98百万円 分析結果 1.04
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>森林へ到達する際の疲労が軽減されたことにより、効率的な森林整備の実施に寄与している。</p> <p>造林を主とする治山事業が可能となり6haを新たに保安林に編入し、森林の広域的保全が促進された。</p> <p>大字池田地区から大峰高原までの到達時間が7分となり、整備前に比べ1/3程度の時間短縮となりアクセス道としての利用が高まった。</p> <p>地域の特産物である松茸の発生環境を整えるため、約2haの松茸山せいびが行われた。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	池田町が管理者となり、1年に2回程度の維持管理作業とともに、必要に応じてパトロールを実施している。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になったことから今まで整備が進まなかった森林についても、整備が推進されてきている。</p> <p>走行性の向上により、町内観光資源である大峰高原へのアクセス道としても利用度が上がった。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	森林所有者の高齢化が進み森林の整備が困難になりつつある中で、林道の整備が進むにつれ、保安林指定や森林整備が促進されている。
-----------	---

今後の課題等	<p>森林所有者の高齢化及び木材価格の低迷などから、自力による森林整備が困難な状況にあるため、様々な事業を活用した森林整備を進める必要がある。</p> <p>これまで、概ね良好な状態で管理・利用されてきたが、経年変化から、今後維持修繕の必要性が高まってくることから、定期的な適時適切な維持管理に努める必要がある。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業の低迷が続く中で森林整備を促進するためには、施業地までの通勤の時間短縮、疲労軽減を図る必要があり、林道整備の必要性は高い。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.04と効率性が認められる。今後の適切な維持管理を行うことにより、効率的な管理をしていくこととしている。 ・有効性 治山事業等を含めた森林整備の実施状況、大峰高原への利用の増等からみて、有効な事業と認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 48
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	岐阜県
地区名	若柘～和佐道線	事業実施主体	下呂町
関係市町村	下呂町	管理主体	下呂町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道機能を向上し、山村生活環境の改善を図るため、舗装4,322mを実施してものである。						
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">75百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">24百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td style="text-align: right;">3.13</td> </tr> </table>	総便益（B）	75百万円	総費用（C）	24百万円	分析結果	3.13
総便益（B）	75百万円						
総費用（C）	24百万円						
分析結果	3.13						
事業効果の発現状況	<p>路面の洗掘等がなくなり、維持管理費の縮減（約半分）や災害の防止が図られている。</p> <p>走行の快適性が高まり、森林整備のほか、通勤等の生活道に利用され、通行車両が年間平均約750台から1500台に増加した。</p> <p>ウォーキング大会も実施されており、町内外より200人の参加があった。</p>						
事業により整備された施設の管理状況	地元集落を中心に、定期的に草刈り作業等が行われている。						
事業実施による環境の変化	通行の安全性、走行性が向上し、森林整備や地元住民の生活に大きく寄与している。						
社会経済情勢の変化	森林所有者の高齢化が進み森林の整備が困難になりつつある中で、林道の整備が進むにつれ、保安林指定や森林整備が促進されている。						
今後の課題等	木材価格の低迷により、必要な間伐等の行われていない林分も存在することから、積極的な活用についてPRする必要がある。						
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備のほか、生活基盤としても利用度が増しており、必要性が認められる。 ・効率性 費用対効果分析の結果が3.13と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備への利用、ウォーキング大会等の森林の総合利用の推進等からみて有効性が認められる。 						

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 49

事業名	林道舗装事業	都道府県	静岡県
地区名	矢倉線	事業実施主体	森町
関係市町村	森町	管理主体	森町
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	本路線（6,788m）は、利用区域325haの森林資源を有しているが、これら森林の適切な整備、森林への到達時間の短縮等のほか、災害発生時の迂回路としても活用が期待されていることから、舗装を実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 301百万円 総費用（C） 163百万円 分析結果 1.85		
事業効果の発現状況	当該路線を活用し、平成9年度～平成13年度にかけて、35.8haの間伐が行われ、健全な森林として育成されている。 当該路線は、県道藤枝天竜線の迂回路としても周辺集落の人々に活用されている。 沿線では一般県民を対象とした森林視察・炭焼き体験なども開催されるようになり、都市住民の森林整備の理解・交流が進んでいる。		
事業により整備された施設の管理状況	当該路線は、適切な管理を行っており、林道の安全で効率的な利用が確保されている。		
事業実施による環境の変化	路面水等の排水が円滑となり、土砂等の流出がなくなったため、下層植生の繁茂が認められた。		
社会経済情勢の変化	森林所有者の高齢化が進み森林の整備が困難になりつつある中で、林道の整備が進むにつれ、保安林指定や森林整備が促進されている。		
今後の課題等	森林管理や木材利用は、国産材需要の低迷等から停滞しているため、造林、間伐等と林道の一体的整備や連携を一層深めていく必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林道の適切な維持管理、経費の縮減、走行の快適性の確保等からみて必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.85と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備への活用状況、維持管理費の縮減等からみて有効である。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 50
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	静岡県
地区名	元沢金石線	事業実施主体	清水市
関係市町村	清水市	管理主体	清水市
事業実施期間	H3～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道元沢金石線は、河内地区と中河内地区を結ぶ路線であり、森林整備の促進、林業の生産性を向上させるとともに生活道路としても重要であることから、舗装6,229mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">282百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">183百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td style="text-align: right;">1.54</td> </tr> </table>	総便益（B）	282百万円	総費用（C）	183百万円	分析結果	1.54
総便益（B）	282百万円						
総費用（C）	183百万円						
分析結果	1.54						

事業効果の発現状況	河内地区から中河内地区への移動時間が、13分になり整備前に比べ、6割程度になった。 県道大向富沢線が災害時不通になった場合の迂回路として利用できる。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、清水市が管理しており地元住民による草刈等の自主協力もあるなど管理状況は良好である。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になったことから、森林所有者、特に高齢者の入山率が多くなり、きめ細かな森林の手入れができるようになった。 河内地区と中河内地区の連絡が安全かつ短時間になったため、利用者が増加している。
--------------	--

社会経済情勢の変化	森林へのアクセスが容易になったことから、地区外からも自然観察、森林浴等の入山者が多く見られるようになった。
-----------	---

今後の課題等	近年、木材の低迷、林業経営費の上昇等により生産活動が停滞し、適切な管理をされていない森林が増えている。このため、本市の生活水源である興津川流域でも森林の多面的機能が十分に発揮されていない状況が見受けられることから、間伐等の保育を積極的に実施する必要がある。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 通行の安全、快適性の確保及び維持管理費の縮減等からみて必要性が認められる。 ・効率性 費用対効果分析の結果1.54と効率性が認められる。今後も適切に維持管理をしていくこととしている。 ・有効性 森林整備及び地域住民の生活面での活用状況からみて有効性が認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 51
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	静岡県
地区名	天竜線	事業実施主体	水窪町
関係市町村	水窪町	管理主体	水窪町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、天竜市東雲名を起点として、標高1,200mの雄大な稜線づたいを縦断し、水窪ダムに至る総延長52.9kmの林道である。</p> <p>気象条件が厳しく、路面浸食、災害の発生等が多い林道であり、これらの防止と、森林整備や保健休養利用における快適性の確保等のため、佐久間町境から山住峠までの間の舗装5,769mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 150百万円 総費用（C） 61百万円 分析結果 2.46</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>路面の浸食、荒廃等が少なくなり、維持管理等に要する費用が大幅に減少した。</p> <p>走行時間の短縮が図られ、都市部から保健休養等を目的とする通行車輛が増加した。</p> <p>県道水窪森線の迂回路として、門桁集落の人々に活用されている。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>管理主体である水窪町により適切な管理が行なわれ、林道の安全で効率的な利用が確保されている。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>走行の快適性が確保されたことにより、都市部からの利用者が年々増加している。</p> <p>地域内に自然環境に対する理解を深め、地域の歴史や文化を楽しむ学ばための施設が完成している。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>事業効果の早期発現、コストの縮減など、効率的・効果的に事業を推進することが強く求められている。さらに、環境意識の高まりとともに、自然環境に配慮した実施が必要となっている。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>森林整備のほか、森林の総合利用等のための通行車輛が年々増加しているが、急カーブ箇所が多いため、木材を利用したガードレール等の安全施設や緑化を目的とした法面保護工等を計画する必要がある。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備のほか、都市部からの保健休養を目的とした通行車輛が年々増加してきており、舗装の必要性が認められる。 ・効率性 費用対効果分析の結果が2.46と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行なうこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 都市部からの観光目的等の利用状況からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 52
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	静岡県
地区名	熊平線	事業実施主体	天竜市
関係市町村	天竜市	管理主体	天竜市
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	熊平線は、熊平地区と大栗安地区の集落間を連絡する林道であり、県道災害時の迂回路としての機能も有しているが、縦断勾配が急なため、降雨による路面洗掘等が発生していることから、舗装1,277m（W=3.0m）を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 61百万円 総費用（C） 48百万円 分析結果 1.27
-----------------------	---

事業効果の発現状況	熊平地区から大栗安地区の集落間における到達時間が10分程度となり整備前に比べて3割程度短縮となった。 急勾配区間における路面洗掘がなくなり、維持管理費の縮減、災害発生の防止等が図られている。
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	天竜市の林道管理規程に基き適切に管理されており、また、年に1回地元住民及び森林所有者による草刈りが実施されている。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	熊平地区は、県道1路線に依存していたが、本林道の整備により、災害時の迂回路として安心、安全な暮らしの確保につながっている。
--------------	---

社会経済情勢の変化	林道沿線の森林を活用した滞在施設や森林整備のための作業路等が建設され、地元の振興及び森林整備に大きな役割を果たしている。
-----------	--

今後の課題等	林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われる恐れがあることから防止策を講ずる必要がある
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備のほか、山村住民の生活道や災害時における迅速かつ安全な移動経路の一つとして重要な路線であることから、舗装の必要性が認められる。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.27と効率性が認められる。今後も適切な維持管理を行い、効率的・効果的な利用が図られるよう努めていくこととしている。 ・有効性 勾配のきつい当路線において舗装事業は、降雨時の路面洗掘等の防止や走行の快適性の確保等からみて有効性が認められる
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 53
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	三重県
地区名	しみずだに 清水谷線	事業実施主体	熊野市
関係市町村	三重県熊野市	管理主体	熊野市
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	就業条件の改善や林道の路面浸食を防ぎ通行の安全性を高めるため、既設林道の舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 202百万円 総費用（C） 27百万円 分析結果 7.48
事業効果の発現状況	舗装されたことにより路面の浸食が防止された。 走行性が改善され、施業対象地までの時間が整備前に比べ1/2程度に短縮された。
事業により整備された施設の管理状況	熊野市が林道管理規程に基づき維持管理している。
事業実施による環境の変化	走行性が向上したことで、軽車両等（バイク）の走行が可能となり高齢者等でも手軽に現場まで行き森林施業が出来るようになったため森林施業の意欲が増し森林整備が進んだ。
社会経済情勢の変化	木材価格の長期低迷により、経営意欲が減退している。
今後の課題等	森林整備が適切になされるよう、森林所有者の経営意欲を高める必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備に携わる作業員、所有者が高齢化する状況の下で、適切な森林整備を確保するためには、安全かつ快適に森林へアクセスできる林道の整備が必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が7.48と効率性が認められる。当地域は、降水量の多い地域であるため、路面浸食の防止と維持管理経費を縮減するためには、舗装が効果的・効率的である。 ・有効性 高齢化した作業員や森林所有者が、軽車両等で安全に森林へアクセス可能となり、適時適切な森林整備が行われるようになった。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 54
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	三重県
地区名	よこやま 横山線	事業実施主体	海山町
関係市町村	三重県北牟婁郡海山町	管理主体	海山町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	当路線は、森林整備や木材生産のほか、キャンプ場へのアクセス道路としての機能を併せ持っていることから、安全かつ快適な走行の確保と路面浸食を防止するため、舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 48百万円 総費用(C) 31百万円 分析結果 1.55
事業効果の発現状況	快適な走行が確保され、林業従事者の通勤疲労が軽減された。 約2haの間伐が実施された。 沿線のキャンプ場は、年間8千人以上の利用がある。
事業により整備された施設の管理状況	海山町により適切に管理されている。
事業実施による環境の変化	間伐等実施により林内照度が増し、林内植生が増加した。
社会経済情勢の変化	木材価格の長期低迷により、経営意欲が減退している。
今後の課題等	今後とも維持管理を万全にし、環境に配慮しつつ森林整備を実施する必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 利用区域内の森林施業の効率化及び、林業生産性の向上等林業振興はもとより、一般車両を含めた通行安全の発揮のため当事業は必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.55と効率性が認められる。 ・有効性 事業に実施により森林整備が促進されるとともに、保健休養の利用者が増大していることから、事業の有効性が認められる。また、キャンプ場の開設と合わせて、当事業を実施しているので、事業完了後速やかに効果の発現が図られている。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 5 5

事業名	林道舗装事業	都道府県	滋賀県
地区名	正福寺線	事業実施主体	甲西町
関係市町村	甲西町	管理主体	甲西町
事業実施期間	H 6 ~ H 8 (3 年間)	完了後経過年数	5 年間

事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善および林業従事者の就業環境の改善に資するために既設林道を舗装するものである。</p> <p>正福寺線は、県道野洲甲西線と林道十二坊線を結ぶ総延長 2 , 9 6 9 m の林道であり、利用区域面積は 6 0 h a である。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 6 7 百万円 総費用 (C) 5 8 百万円 分析結果 1 . 1 6</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>砂利道を舗装したことにより、走行性が改善され、起点から終点までの走行時間が 5 分間短縮となった。</p> <p>森林整備に従事する者の作業現場への移動に伴う疲労が軽減され、作業効率や安全性が高まった。</p> <p>草刈りなどの維持管理経費が年間 1 5 0 千円程度縮減された。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>甲西町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に 1 回 (8 月頃) は、草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>林道の安全な通行が可能となり、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動が可能となり、林業振興にも大きな役割を果たしている。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用について P R する必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の安全な通行の確保が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が 1 . 1 6 と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 5 6

事業名	林道舗装事業	都道府県	兵庫県
地区名	おおどおりなかえ 大通中江線	事業実施主体	千種町
関係市町村	千種町	管理主体	千種町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	本事業は、大通中江線の機能向上を図り、農山村地域の生活環境及び林業従事者の就業環境の改善に資するために実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 1,189百万円 総費用（C） 629百万円 分析結果 1.89		
事業効果の発現状況	利用区域内の森林整備の実施に当たり、人員輸送車の通行が容易になり、また、林業従事者の通勤に伴う疲労が大幅に軽減された。 河内集落より鳥取市まで1時間程度となったため、整備前はほとんどなかった一般通行車両が年間1,000台近くになっている。		
事業により整備された施設の管理状況	整備後は、千種町が林道パトロールを実施し、危険箇所、落石状況等を確認するとともに、修繕、草刈作業を定期的に行っているため維持管理状況はおおむね良好である。		
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり森林所有者の造林、保育等の森林経営に対する意欲が高まったほか、県境に位置する林道であり、兵庫、鳥取両県の交流が増加している。		
社会経済情勢の変化	林道終点部分は、豊かな森林を有し、自然景観に富んでいることから、多数の入込みがある。また、森林整備等のほか豊かな自然を活用してパラグライダーズクールが開かれるなどスカイスポーツにも利用されている。		
今後の課題等	森林整備の取組や林業経営意欲の向上が図られているが木材価格の低迷等により整備の未実施の林分もあり実施に向けたPR等が必要である。また、林道沿線へのゴミの不法投棄が予測されるため定期的な巡視活動が必要である。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中、効率的、効果的な森林整備、素材生産を行うためには、森林へのアクセスを改善する林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.89と効率性が認められる。今後とも、効率的な維持管理を推進しつつ、林道利用を促進することとしている。 ・有効性 森林整備での活用状況、山林住民による利用状況及び豊かな森林を活用した野外スポーツ等の利用状況からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 57

事業名	峰越連絡林道整備事業	都道府県	兵庫県
地区名	黒川新田線	事業実施主体	神崎町、生野町
関係市町村	兵庫県神崎郡神崎町、朝来郡生野町	管理主体	神崎町、生野町
事業実施期間	S62～H8（10年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>峰越連絡林道は、既設林道と他の既設林道等の相互間を峰越で連絡し、市場距離の短縮等を測るために開設するものである。</p> <p>本林道は、神崎町と生野町を連絡するもので、利用区域内森林の有する多面的機能の発揮のための森林整備や林業経営の合理化等に不可欠である。</p> <p>利用区域森林面積 763ha 開設延長 8,530m 全幅員 3.6～5.0m</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 2,225百万円 総費用（C） 1,542百万円 分析結果 1.44</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>開通後には、森林へのアクセスが改善され、利用区域森林内の森林の整備が徐々に進められてきている。</p> <p>両町間の移動や森林の総合利用を目的とした一般車両の通行が年間1,000台以上となっている。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>管理主体である神崎町及び生野町が修繕、草刈作業等の維持管理を定期的実施されているため、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり森林所有者の森林整備に対する意欲の高まりが伺える。また、本林道の整備により両町を結ぶネットワークの形成等安心、安全の路網が確保できた。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>林業労働力の効率的な移動の確保や林産物の輸送が容易になった。また、両町の森林レクリエーション施設が整備されつつあり、森林の総合利用のアクセス道としてもますます利用が見込まれる。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>木材価格が長期にわたり低迷する中で、森林整備の取り組みや林業経営意欲が徐々に改善されるようにPRする必要がある。また、一般車両の通行増加に伴い、法面、路面の不安定箇所の改良・管理による走行安全の確保が課題である。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中、森林所有者の意欲の改善、効率的、効果的な森林整備、素材生産を行うためには基幹となる林道が必要である。また、路網整備に当たっては、林道と作業道等を組み合わせた効果的な配置が必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.44となっており、効率性が認められる。今後の維持管理についても必要な改良の効率的な実施を進めていくこととしている。 ・有効性 森林整備での活用状況、山林住民による利用状況及び観光スポーツ等の利用状況からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 58
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	奈良県
地区名	内ヶ谷線	事業実施主体	上北山村
関係市町村	上北山村	管理主体	上北山村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	本林道は、既設林道の機能向上を図り、山村地域の環境の改善を図るために整備したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 63百万円 総費用(C) 17百万円 分析結果 3.71</p>		
事業効果の発現状況	<p>森林整備に従事する者の移動に伴う疲労が軽減され、労働の効率化等が測られてきている。</p> <p>本林道を起点として平成11年度に乗用モノレール(L=780m)を新設し、間伐事業等の森林整備が進められてきている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	砂利道を舗装したことによって、台風や集中降雨時等による路面の洗掘がなくなり災害等の抑制や路面清掃等の維持管理経費の縮減が図られた。		
事業実施による環境の変化	路面水による濁水が緩和され、水道施設(取水口)への流入が縮減された。		
社会経済情勢の変化	<p>林道が整備されたため、水道施設への巡視等及び山林労働者の通勤時の安全な走行に役立つ。</p> <p>また、集中豪雨時における水の汚濁が減少したこと等を受け、地元漁業組合も稚魚の放流に取組みなど、一般釣り客の増加につながっている。</p>		
今後の課題等	長期化する林業界の不況低迷は最も深刻な問題であり、林業労働者の不足や高齢化等による保育・間伐の遅れが目立っていることから、今後各種事業を積極的に取り入れ、森林整備を活性化する必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が3.71と効率性が認められる。今後の維持管理にあっては、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備や活用状況、山村住民による利用状況からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 59

事業名	林道舗装事業	都道府県	和歌山県
地区名	瀬ノ谷線	事業実施主体	花園村
関係市町村	花園村	管理主体	花園村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するために既設林道を舗装するものである。</p> <p>本林道は、有田川上流に位置する豊かな森林を管理するものであり、本事業では、舗装工907mを実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 526百万円 総費用(C) 290百万円 分析結果 1.81</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>起終点間の走行時間が、整備前25分から整備後15分に短縮し4割縮減された。</p> <p>利便性・走行の快適性の向上により、通行車両が6倍に増加した。</p> <p>路面修正や維持管理費が4割程度縮減できた。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>花園村が維持管理しており状況は良好である。</p>
-------------------	------------------------------

事業実施による環境の変化	<p>森林所有者の森林施業に対する取組が活性化され、間伐を主体とする森林整備が積極的に進められるようになった。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>本林道は、高野龍神スカイラインと接続しており、効率的な森林整備はもちろん、高野町や龍神村とのアクセスが改善された。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>今後は森林整備の充実に努め、収入間伐や主伐など木材の需要拡大につなげていくことが必要である。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中、効率的な森林整備の推進や木材の利用拡大を図るため、林道整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果指数が1.81と効率性が認められる。特に、走行時間及び施業地までの時間短縮、維持管理費の縮減等が図られている。 ・有効性 森林の適正な維持管理の促進や利用車両の増加等から見て、有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 60
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	和歌山県
地区名	しみずけぼら 清水毛原線	事業実施主体	清水町
関係市町村	清水町	管理主体	清水町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するために既設林道を舗装するものである。</p> <p>本林道は、紀ノ川中流に位置する豊かな森林を管理するものであり、本事業では、舗装工829mを実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 2,490百万円 総費用(C) 839百万円 分析結果 2.97</p>		
事業効果の発現状況	<p>起終点間の走行時間が、整備前20分から整備後12分に短縮し4割縮減された。</p> <p>利便性・走行の快適性が向上したことにより、通行車両が3倍に増加した。</p> <p>整備後の維持管理経費が大幅に縮減された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>清水町と林道愛護組合が共同で維持管理しており状況は良好である。また、年2回程度の草刈り、側溝掃除等については、愛護組合がボランティアで行っている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>舗装前には降雨時に濁水が発生し、飲料水に影響を与えていたが、舗装後はこうした被害が改善された。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>清水町と美里町間を結ぶ幹線林道であるため、森林施業以外にも生活や地域振興にも活用されている。</p>		
今後の課題等	<p>今後は森林整備を積極的に進め、木材の需要拡大につなげていくことが必要である。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中、効率的な森林整備の推進や木材の利用拡大を図るため、林道整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が2.97と効率性が認められる。特に、走行時間及び施業地までの時間短縮、維持管理費の縮減が図られている。 ・有効性 森林の適正な維持管理の促進や利用車両の増加等から見て、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 6 1
------	----------

事業名	林道舗装事業	都道府県	和歌山県
地区名	しがの志賀野線	事業実施主体	野上町
関係市町村	野上町	管理主体	野上町
事業実施期間	H 8 (1年間)	完了後経過年数	5 年間

事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するために既設林道を舗装するものである。</p> <p>本林道は、真国川下流に位置する豊かな森林を管理するものであり、本事業では、舗装工 1 , 3 0 0 m を実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 4 0 4 百万円 総費用 (C) 1 7 1 百万円 分析結果 2 . 3 6</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>舗装工の完成により、車両走行時間が起終点で約 4 分となり、整備前に比べ 6 割程度となった。</p> <p>利便性・走行の快適性の向上により、通行車両台数が 2 倍に増加した。</p> <p>維持管理面経費も大幅に縮減された。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>野上町が維持管理しており、状況は良好である。</p>
-------------------	-------------------------------

事業実施による環境の変化	<p>森林所有者の森林整備に対する姿勢が積極的になり、健全な森林の維持造成を図る取組がなされるようになった。また、森林を利用しシイタケや木炭など特用林産物の生産も行われるようになった。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>連絡線形として整備が完了したことにより、地域住民の生活圏の拡大にもつながった。(整備前は海南市が中心であったが、整備後は海南市のほか貴志川町、岩出町にも拡大)</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>通行車両の増加に伴い、今後は拡幅等の検討も必要となる。</p>
--------	------------------------------------

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中、効率的な森林整備の推進や木材の利用拡大を図るため、林道整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が 2 . 3 6 と効率性が認められる。特に、走行時間及び施業地までの時間短縮、維持管理費の縮減が図られた。 ・有効性 森林の適正な維持管理の促進や利用車両の増加等から見て、有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 6 2

事業名	林道舗装事業	都道府県	和歌山県
地区名	あらし安楽寺線	事業実施主体	桃山町
関係市町村	桃山町	管理主体	桃山町
事業実施期間	H 8 (1年間)	完了後経過年数	5 年間

事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するために既設林道を舗装するものである。</p> <p>本林道は、紀ノ川中流に位置する豊かな森林を管理するものであり、本事業では、舗装工 9 8 0 m を実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 7 6 2 百万円 総費用 (C) 2 8 8 百万円 分析結果 2 . 6 5</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>舗装工の完成により、車両走行時間が起終点で約 7 分となり、整備前に比べ 7 割程度となった。</p> <p>利便性・走行の快適性の向上により、通行車両台数が約 2 . 5 倍に増加した。</p> <p>維持管理経費が 2 割程度縮減された。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>桃山町が維持管理しており、状況は良好である。</p>
-------------------	-------------------------------

事業実施による環境の変化	<p>森林所有者の森林整備に対する姿勢が積極的になり、健全な森林の維持造成を図る取組がなされるようになった。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>地域の主要幹線道路と連絡しているため、森林施業以外にも地域住民の生活道、地域産業の振興にも活用されている。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>通行車量の増加に伴い、大型車の利用も望まれており、今後は拡幅等の検討も必要となっている。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中、効率的な森林整備の推進や木材の利用拡大を図るため、林道整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が 2 . 6 5 と効率性が認められる。特に、走行時間及び施業地までの時間短縮、維持管理費の縮減が図られた。 ・有効性 森林の適正な維持管理の促進や利用車両の増加等から見て、有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 63

事業名	林道舗装事業	都道府県	鳥取県
地区名	とっとりちゅうおう 鳥取中央線	事業実施主体	鳥取県
関係市町村	鳥取市	管理主体	鳥取市
事業実施期間	S53～H8（19年間）	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	<p>昭和48～62年度に開設した既設林道を舗装することにより、林道の機能向上を図る。</p> <p>林道区分：森林基幹道（広域基幹林道） 幅員：5.0m 舗装延長：15,277m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B）1,114百万円 総費用（C）863百万円 分析結果 1.29</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装により、安全性、快適性が増加した結果、交通時間の短縮が図られた。</p> <p>起点から終点の間において到達時間が55分程度と整備前の約7割となった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、鳥取県が整備後、鳥取市が管理している。</p> <p>鳥取市においては、毎年、年間約1,000千円の維持管理費を計上し、側溝清掃・法面草刈りを実施し、維持管理に努めている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>本林道は鳥取市奥部の旧5ヶ村を結び、地域間の移動が横断的に可能となった。</p> <p>森林組合等の労働者の移動が迅速・快適になり、就労環境の改善が図られ森林整備の促進に寄与している。</p> <p>また、椎茸原木の搬出が容易になるなど、林業生産活動の増大に寄与している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>都市部近郊の手頃な散策道として、春・秋には森林レクリエーションの場として利用する人がみられるようになった。</p>		
今後の課題等	<p>森林整備の取組みは、木材価格の低迷、労働者の高齢化等により、未だ十分とは言えず啓発活動は今後とも地道に幅広く行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備、木材生産を行うため林道の機能向上を図ることは必要である。 ・効率性 費用対効果分析の試算結果は1.29で効率性が認められ、舗装による車両通行の安全性、快適性の向上も認められる。 ・有効性 整備後の管理は良好であり、森林整備活動への利用、山村地域の住民等の利用状況からみて有効な事業である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 64

事業名	林道舗装事業	都道府県	鳥取県
地区名	かわいたに 河合谷線	事業実施主体	鳥取県
関係市町村	郡家町、八東町	管理主体	郡家町、八東町
事業実施期間	S56～H8（16年間）	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	<p>昭和43～昭和56年度に開設した既設林道を国庫補助事業と県単独事業を組み合わせで舗装することにより、林道の機能向上を図る。 林道区分：森林基幹道（広域基幹林道） 幅員：5.0m 舗装延長：4,226m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 438百万円 総費用（C） 249百万円 分析結果 1.76</p>		
事業効果の発現状況	<p>路面洗掘等がなくなり、維持管理費が縮減された。</p> <p>安全性、快適性が高まるとともに、走行時間の短縮が図られた。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、鳥取県による整備後、郡家町及び八東町が管理している。 郡家町等においては、毎年、年間約300千円の維持管理費を計上し、側溝清掃・法面草刈りを実施し、維持管理に努めている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>郡家町及び八東町の山間奥部を結び、山間部の横断的移動を可能としていた本林道において、路面洗掘等もなくなり、通行の安全性等が向上し、通行量が増加した。 森林組合等の労働者の移動が迅速・快適になり、就労環境の改善が図られ森林整備の促進に寄与している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>本林道沿線には、氷ノ山後山那岐山国定公園に位置する扇ノ山への登山道及び展望台等があり、春～秋には森林レクリエーションへの場として利用する人が増加している。</p>		
今後の課題等	<p>森林整備の取組みは、木材価格の低迷、労働者の高齢化等により、未だ十分とは言えず啓発活動は今後とも地道に幅広く行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備、木材生産を行うため林道の機能向上を図ることは必要である。 ・効率性 費用対効果分析の試算結果が1.76と効率性が認められる。また、舗装による車両通行の安全性、快適性の向上も認められる。 ・有効性 整備後の管理は良好であり、森林整備活動への利用、山村地域の住民等の利用状況からみて有効な事業である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 65

事業名	林道舗装事業	都道府県	鳥取県
地区名	のぼりだて 幟立線	事業実施主体	若桜町
関係市町村	若桜町	管理主体	若桜町森林組合
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	<p>昭和61年度に開設した既設林道のうち、終点までの1,210m区間を舗装することにより、林道の機能向上を図る。 林道区分：森林管理道(普通林道) 幅員：3.0m 舗装延長：1,210m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B)91百万円 総費用(C)30百万円 分析結果 3.03</p>		
事業効果の発現状況	<p>安全性、快適性が高まるとともに、走行時間の短縮が図られた。 路面洗掘もなくなり、維持管理費が縮減された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、若桜町による整備後、若桜町森林組合が管理している。 若桜町森林組合においては、年間約40千円の維持管理費を計上し、側溝清掃・法面草刈りを実施し、維持管理に努めている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林組合等の労働者の移動が迅速・快適になり、就労環境の改善が図られ森林整備の促進に寄与している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>終点にある地元住民が信仰している若桜弁財天(神社)の維持管理や参拝者の利用にも役立っている。</p>		
今後の課題等	<p>森林整備の取組みは、木材価格の低迷、労働者の高齢化等により、未だ十分とは言えず啓発活動は今後とも地道に幅広く行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産を行うため、林道の機能向上を図ることは不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の試算結果が3.03と効率性が認められる。また、舗装による車両通行の安全性、快適性の向上も認められる。 ・有効性 整備後の管理は良好であり、森林整備活動への利用、山村地域の住民等の利用状況からみて有効な事業である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 66

事業名	林道舗装事業	都道府県	鳥取県
地区名	えんだにひろせ 円谷広瀬2号線	事業実施主体	鳥取県
関係市町村	倉吉市	管理主体	倉吉市
事業実施期間	S56～H8（16年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>本路線は、昭和54～平成4年度に開設され、倉吉市と三朝町に接する森林を南北に縦断する延長8.9Kmの林道で、利用区域の70%は間伐等の手入れを必要とする針葉樹である。これら森林の整備を適切に行うためには、林業従事者の就労条件の改善等が必要であることから整備したものである。</p> <p>林道区分：森林管理道（普通林道） 幅員：5.0m 舗装延長：7,847m</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 358百万円 総費用（C） 340百万円 分析結果 1.05</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>走行の快適性が高まるとともに、路面浸食がなくなり維持管理費が縮減された。</p> <p>完了後5年間に本林道を起点に作業道1路線の整備が行われている。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、鳥取県が整備した後、倉吉市が管理しており、草刈りを始め側溝清掃、安全パトロールを実施している。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>北部では生産森林組合の林業経営意欲が高まり、間伐、枝打ちが進んだ。また、南部では本林道から派生する作業道が開設され森林整備が進んでいる。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>全線舗装されたことにより森林リクリエーションへの活用が高まるとともに大型林業機械の導入もできるようになった。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>必要な間伐等が実施されていない林分もあり、林道を活用した森林施業をPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線に不法投棄が行われていることから、防止策を講じる必要がある。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備を進めるため、基幹となる林道の舗装は不可欠である。今後とも、引き続き森林整備等の基盤として活用することが必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.05と効率性が認められる。今後の維持管理にあたり、必要な草刈り、側溝清掃等を適時に行うことにより、効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 完了後の利用及び管理状況は、概ね良好であり、森林整備への活用状況、山村住民による利用状況からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 67

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	高木森木線	事業実施主体	大東町
関係市町村	島根県大原郡大東町	管理主体	大東町
事業実施期間	H4～H8(5年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	既設林道の機能向上を図り、山村地域の環境及び林業従事者の就業環境の改善を図るために2,689mの舗装を実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 121百万円 総費用(C) 66百万円 分析結果 1.83		
事業効果の発現状況	<p>降雨時の路面洗堀や砂利の飛散がなくなり、維持管理費が減少した。</p> <p>砂利によるスリップがなくなり、通行の安全がより確保された。</p> <p>走行の快適性が向上したことにより、広瀬町と大東町間を移動する通行量が増大した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、大東町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。		
事業実施による環境の変化	交通がより便利になったため、山村地域の環境が改善された。		
社会経済情勢の変化	一般通行車両も増え、地域活性化に役立っている。		
今後の課題等	急カーブや急勾配箇所が残されていることから、今後とも安全通行の確保に努める必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の就業条件の改善等のほか、地域の基幹道として一般車両も多く通行することから、舗装は不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.83と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 68

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	草井谷線	事業実施主体	多伎町
関係市町村	島根県簸川郡多伎町	管理主体	多伎町
事業実施期間	H元～H8（7年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>既設林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するために4,744mの舗装を実施したものである。</p> <p>草井谷線は、多伎町口田儀地区と小田地区を結ぶ総延長5.2kmの林道であるが、利用区域内には要間伐林分が多数を占め、また両地区を結ぶ生活道としての役割も果たす重要な路線である。</p> <p>しかしながら、全延長の内50%が急勾配、急曲線区間であることから、住民の交通の安全、維持管理経費及び災害復旧経費の縮減の為に舗装事業を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 214百万円 総費用（C） 118百万円 分析結果 1.81</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>舗装実施後において、利用区域内において間伐作業道が開設されており、今後、間伐が推進されてきている。</p> <p>口田儀地区から小田地区までの到達時間が15分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>維持管理経費及び災害復旧経費が大幅に縮減されている。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、多伎町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、生活道としての利用も増加し、本林道の整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、高性能林業機械の導入の可能な路網の整備を推進することが必要である。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産、林業従事者の就業条件の改善等に資するため、基幹となる林道の舗装が必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.81と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 69

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	河木谷線	事業実施主体	邑智町
関係市町村	島根県邑智郡邑智町	管理主体	邑智町
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的 林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設林道3,806mの舗装を実施したものである。

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 440百万円 総費用（C） 80百万円 分析結果 5.50
事業効果の発現状況	<p>碎石の農地等への流入がなくなり所有者の負担が減った。また、維持管理の軽減につながった。</p> <p>2輪車の転倒等事故がなくなり、森林所有者が容易に森林整備にいけるようになった。</p> <p>通行の安全が確保されたことにより救急車両等の乗り入れもスピーディーになり、地域住民の安心な暮らしに役立っている。</p>
事業により整備された施設の管理状況	本林道は、邑智町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回（7月頃）には、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、河木谷集落では、本林道が唯一の生活道であり、安心・安全な暮らしの確保につながっている。
社会経済情勢の変化	労働力の効率的で安全な移動が可能となったほか、地域農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>林道法面の風化が激しく、落石があることから、法面保全策を講ずる必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の効率的な施業を行うための就業環境の改善、また、地域住民の生活環境の改善の面からも必要である。 特に、当地区は、地形が急峻であるほか、急勾配の林道が唯一の道となっていることから、舗装が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が5.50と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 70

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	おしいり 押入	事業実施主体	旭町
関係市町村	旭町	管理主体	旭町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため、舗装1,471mを実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 46百万円 総費用（C） 30百万円 分析結果 1.53		
事業効果の発現状況	利用区域内の公団造林地等では、舗装後、枝打ち等の保育が年平均約60ha、新植5.6haのほか、自力による枝打ち、間伐が9ha実施されており、他の地域と比べて施業が促進されている。また、走行の快適性が高まり、森林組合の作業員の就業環境が改善された。		
事業により整備された施設の管理状況	旭町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回には、地元住民による草刈りや側溝掃除等が実施されている。		
事業実施による環境の変化	舗装されたことにより、安易に利用できるようになり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、きめ細やかな森林の手入れができるようになった。		
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の移動や地域産物の輸送が効率的になったことにより、シイタケ栽培など農林業の振興に大きな役割を果たしている。		
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備・舗装が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.53であり、効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 71
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	上今明周布地	事業実施主体	三隅町
関係市町村	三隅町	管理主体	三隅町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため、舗装2,518mを実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 67百万円 総費用（C） 48百万円 分析結果 1.40
事業効果の発現状況	利用区域内には、公社造林地等の造林地があり、舗装後、森林組合の作業員の就労環境が改善された。 上今明集落と周布地集落では、これまで急カーブの多い県道の利用に頼っていたが、林道を舗装したことにより、短時間で連絡できることとなり、生活道としての活用も多くなってきている。
事業により整備された施設の管理状況	三隅町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回には、地元住民による草刈りや側溝掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	舗装されたことにより、安易に利用できるようになり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、きめ細やかな森林の手入れができるようになった。 また、上今明集落等では、これまで県道1本に依存していたが、本林道の整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の移動や地域産物の輸送が効率的になったことにより、農林業の振興に大きな役割を果たしている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備・舗装が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.40であり、効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 72

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	菊竹線	事業実施主体	美都町
関係市町村	美都町	管理主体	美都町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善に資するため、舗装2,111mを実施したものである。</p> <p>なお、当路線においては、走行性が高まり、林業従事者の就業条件が改善されるとともに、維持管理費の軽減、利用区域内に存する2軒の人家の生活環境の改善にも資するものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 49百万円 総費用(C) 40百万円 分析結果 1.23</p>		
事業効果の発現状況	<p>砂利道に比べ、森林への到達時間の縮減が図られた。</p> <p>利用区域内の2軒の人家の町中心部へのアクセス、通勤路としての機能向上が図られた。</p> <p>舗装完了により、町道などへの路盤材の流出防止、維持管理費の軽減が図られた。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>美都町林道維持管理規定に基づき、おおむね良好に管理されている。</p> <p>また、年1回(8月頃)に、地元住民による草刈りや側溝清掃などが実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林への到達時間の縮減が図られ、森林所有者の森林への施業の意欲が高まったほか、林業用車両の通行の安全の確保が図られた。</p> <p>また、これまで町道丸茂三隅線一本に依存していた地域の迂回路として利用されることから、安心な暮らしの確保に寄与している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>平成10年に森林組合の合併がなされ労働力の効率的な移動、機械化が進み、林道の舗装が不可欠となってきつつある。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の林業経営意欲は徐々に改善されてきてはいるが、木材価格の低迷、過疎、高齢化など農山村地域の課題も多く、必要な森林施業が行われていない林分も存在する。</p> <p>今後、小規模所有者の施業の共同化や低コスト化を図る必要がある。</p> <p>また、林道沿線への作業ポイント、待避所の設置が望まれる。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中で、さらなる森林整備の効率化を行う必要がある。既設林道の機能向上は、森林への到達時間の短縮、林業用車両の通行の安全の確保に寄与し、今後の持続的な森林整備に不可欠である。 ・効率性 現状の費用対効果分析は1.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行い効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林への到達時間の短縮、完了後の通行の安全が確保されていることや沿線人家及び地域住民の利用状況から有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 73
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県						
地区名	ふるやしき 古屋敷線	事業実施主体	日原町						
関係市町村	日原町	管理主体	日原町						
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間						
事業の概要・目的	<p>林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善に資する目的で既設林道838mの舗装を実施したものである。また、利用区域内に存する人家の生活環境の改善、林業用作業車の通行の安全、災害の未然防止、維持管理費の軽減を図るものである。</p>								
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td style="text-align: right;">52百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td style="text-align: right;">26百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td style="text-align: right;">2.00</td> </tr> </table>			総便益 (B)	52百万円	総費用 (C)	26百万円	分析結果	2.00
総便益 (B)	52百万円								
総費用 (C)	26百万円								
分析結果	2.00								
事業効果の発現状況	<p>舗装完了後、上流公社造林地まで作業道が新設され、保育がなされた。</p> <p>森林への到達時間の縮減が図られた。</p> <p>利用期域内の1軒の人家の役場へのアクセス、通勤路としての機能向上が図られた。</p> <p>路盤材の流出防止、維持管理費の軽減が図られた。</p>								
事業により整備された施設の管理状況	<p>日原町林道維持管理規程に基づきおおむね良好に管理されている。また、年1回（8月頃）に、地元住民による草刈りや側溝清掃などが実施されている。</p>								
事業実施による環境の変化	<p>森林への到達時間の縮減が図られ、森林所有者の森林への施業の意欲が高まったほか、林業用車両の通行の安全の確保が図られた。また、上流公社造林地への作業道が新設され保育がなされている。</p>								
社会経済情勢の変化	<p>平成10年に森林組合の合併がなされ労働力の効率的な移動、機械化が進み、林道の舗装が不可欠となってきつつある。</p>								
今後の課題等	<p>森林所有者の林業経営意欲は徐々に改善されてきてはいるが、木材価格の低迷、過疎、高齢化など農山村地域の課題も多く、必要な森林施業が行われていない林分も存在する。今後、小規模所有者の施業の共同化や低コスト化を図る必要がある。</p> <p>また、林道沿線への作業ポイント、待避所の設置が望まれる。</p>								
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中で、さらなる森林整備の効率化を行う必要がある。既設林道の機能向上は、森林への到達時間の短縮、林業用車両の通行の安全の確保に寄与し、今後の持続可能な森林整備にとって不可欠である。 ・効率性 現状の費用対効果分析は2.00と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時にい効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の活用状況、関連する作業道の整備、完了後の通行の安全が確保されていることや沿線家及び地域住民の利用状況から有効な施設であると認められる。 								

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 74
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	島根県
地区名	いちのさか 一の坂線	事業実施主体	西郷町
関係市町村	島根県隠岐郡西郷町	管理主体	西郷町
完了後経過年数	H6 ~ H8 (3年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善に資する目的で既設林道2,108mの舗装を実施したものである。また、利用区域内に存する人家の生活環境の改善、林業用作業車の通行の安全、災害の未然防止、維持管理費の軽減を図るものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 56百万円 総費用(C) 54百万円 分析結果 1.04
-----------------------	---

事業効果の発現状況	事業完了に伴い、高性能林業機械を導入し森林整備等を意欲的に行うようになった。 当林道と接続する林道の整備も行われてきている。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	路面補修及び草刈り等の維持管理費が、整備完了後は2~3年に一度程度の草刈りにとどまり、維持管理費が軽減された。また、森林の間伐等が行われ倒木による被害が少なくなった。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四輪自動車で行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	---

社会経済情勢の変化	森林組合等の林業関係団体の統合等に伴い、労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が容易になった。
-----------	--

今後の課題等	森林整備や経営意欲が徐々に改善されているが、木材価格の低迷等により、必要な間伐が行われていない林分も存在することから、積極的な活動についてPRする必要がある。また、町内においても林道沿線に不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産及び林産物の円滑な搬出を行うためには、林道の舗装が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.04と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 75

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	作西線	事業実施主体	湯原町
関係市町村	勝山町・美甘村・湯原町	管理主体	湯原町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	昭和58年度から平成6年度にかけて開設した当路線を維持管理費の縮減と利便性の向上等を目的に森林管理道1,572mの舗装工事を施行したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 58百万円 総費用（C） 56百万円 分析結果 1.04
-----------------------	---

事業効果の発現状況	既設の砂利道を舗装したことにより、路面浸食の維持管理費が縮減された。 表面水の処理等が適切に行われ、災害を未然に防止することができた。
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	既設の砂利道を舗装したことにより、路面浸食がなくなった。 道路整備員や受益者による沿線の草刈りと道路側溝の土砂あげ等が行われている。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが、更に容易になり森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、国道313号を迂回できる舗装道路としても利用されている。
--------------	---

社会経済情勢の変化	本林道より作業道が整備され効率的な森林整備が可能となった。
-----------	-------------------------------

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も在ることから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	---

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が1.04と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 76

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	みまさかちゅうおう 美作中央線	事業実施主体	津山市
関係市町村	津山市	管理主体	津山市
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために1,299mの舗装を実施したものである。
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 46百万円 総費用(C) 41百万円 分析結果 1.12
-----------------------	---

事業効果の発現状況	整備を行ったことにより、森林へのアクセス時間や木材輸送時間の短縮が図られた。 維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。 整備前に比べて2割程度通行車が増えた。(春や秋に都心から訪れる人が増加。) 土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、津山市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。 最近、雇用対策事業等により側溝清掃も実施している。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。 また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、地域特産物の輸送林道沿線の田畑の活用にも大きな役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.12と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 77

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	滝谷線	事業実施主体	津山市
関係市町村	津山市	管理主体	津山市
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために、2,417mの舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 96 百万円 総費用(C) 67 百万円 分析結果 1.43
-----------------------	---

事業効果の発現状況	整備を行ったことにより、森林へのアクセス、木材の輸送時間の短縮が図られた。 維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。 整備前に比べて2割程度通行者が増えた。(春や秋に都心から訪れる人が増加) 土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、津山市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。 最近、雇用対策事業等により側溝清掃も実施している。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。 また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、地域特産物の輸送林道沿線の田畑の活用にも大きな役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.43と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 78

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	馬桑右手線	事業実施主体	奈義町
関係市町村	奈義町	管理主体	奈義町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために、2,780mの舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 99 百万円 総費用（C） 82 百万円 分析結果 1.21
-----------------------	---

事業効果の発現状況	整備を行ったことにより、森林へのアクセスや木材の輸送時間の短縮が図られた。 維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。 勝田町への迂回路として利用する人が増加した。 土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、奈義町が管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回は、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。 また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、集落間を結ぶ生活道としても大きな役割を果たしている。
-----------	--

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.21と効率性が認められる。今後の維持管理にあって、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 79
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	つねともよしきた 常友吉貞線	事業実施主体	旭町
関係市町村	旭町	管理主体	旭町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために、1,145mの舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 80 百万円 総費用（C） 45 百万円 分析結果 1.78
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>整備を行ったことにより、森林へのアクセスや木材の輸送時間の短縮が図られた。</p> <p>維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。</p> <p>整備前に比べて2割程度通行者が増えた。（春や秋に都心から訪れる人が増加）</p> <p>土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。</p> <p>山間部の田、畑へ容易にいけるようになった。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、旭町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回は、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。
-------------------	---

事業実施による環境の変化	悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。 また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、地域特産物の輸送林道沿線の田畑の活用にも大きな役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.78と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 80

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	とちぎたにせん 栃木谷線	事業実施主体	中和村
関係市町村	中和村	管理主体	中和村
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	昭和63年度から平成3年度にかけて開設した当路線を維持管理費の縮減と利便性の向上等を目的に2,661mの舗装工事を実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 77 百万円 総費用（C） 74 百万円 分析結果 1.04		
事業効果の発現状況	路面の整正等の維持管理費が縮減された。 路面水の適切な処理が行われ、災害復旧経費が縮減された。 路面の状況が良好となり安全走行が確保されとともにアクセス時間が短縮された。 冬期間の林道利用確保のための除雪作業が容易になった。		
事業により整備された施設の管理状況	当林道は、林道管理規程に基づき林道の目的に沿った機能を十分に発揮できるよう維持管理を行っており、おおむね良好である。		
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり森林管理の意欲が高まったほか、安全走行の確保等により森林管理の主労者である高齢者が、軽四輪等現地に容易に行けることで、きめ細かな手入れが可能になった。		
社会経済情勢の変化	林業における生産性の向上及び森林の機能発揮を行うための森林整備や木材の搬出作業の労働強度の軽減を図るため林業機械の導入が進んでいる。 一方、林業従事者の高齢化、不在村地主の増加及び木材価格の低迷等による森林林業の停滞が危惧されている。		
今後の課題等	舗装事業による維持管理費の縮減効果は大であるが、現施設が適正に利用できるよう、点検・補修を行い利用者への便益提供を継続していくよう努める。		
評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林へのアクセス性の向上を図ることまた、維持管理費の縮減の点からも必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が、1.04と効果性が認められる。 ・有効性 当林道の利活用の状況、住民の利用状況からみて有効な施設である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 8 1

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	くだりかや 下り茅線	事業実施主体	津山市
関係市町村	津山市	管理主体	津山市
事業実施期間	H6 ~ H8 (3年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために、3, 468 mの舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益 (B) 84 百万円 総費用 (C) 74 百万円 分析結果 1.14
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>整備を行ったことにより、森林へのアクセスや木材の輸送時間の短縮が図られた。</p> <p>維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。</p> <p>整備前に比べて1割程度通行者が増えた。</p> <p>土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。</p> <p>山間部の田、畑へ容易にいけるようになった。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、津山市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回草刈りや側溝掃除等が実施されている。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。</p> <p>また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や地域特産物の輸送林道沿線の田畑の活用にも大きな役割を果たしている。
-----------	--

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.14と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 8 2

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	なかむら2こうせん 中村2号線	事業実施主体	新見市
関係市町村	岡山県新見市	管理主体	新見市
事業実施期間	H 8 (1年間)	完了後経過年数	5年間
事業の概要・目的	中村2号線は、延長2,013mの林道であり、昭和52年度～昭和63年度にかけて開設されたものである。利用区域内森林の整備のほか、新見市福本グラウンドへのアクセス等に活用されていることから、林道の走行性、維持管理の縮減を図るため、平成8年度に延長1,130mの舗装を実施したものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益 (B) 114百万円 総費用 (C) 31百万円 分析結果 3.68		
事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの走行時間が整備前の75%となり、到達時間の短縮が図られた。</p> <p>林道の維持管理費の経費が、路面補修等の人件費、材料代などが整備前の50%となり経費の削減が図られた。</p> <p>林道利用台数が、年間約6,000台、利用人数は約15,000人と大幅に増加した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	新見市が林道等維持管理規程に基づき、管理しており、維持管理状況は概ね良好である。また、関係受益者により、維持管理組合を設立し、年1回程度の草刈り及び側溝清掃等が実施されている。		
事業実施による環境の変化	<p>森林及びへのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でも路面が安定していることからバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p> <p>また、新見市福本グラウンドへの利用者が、アクセス道として利用できる。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>山村地域の基幹産業である林業は、木材価格の長期低迷、採算性の悪化等から停滞し、それに伴い山村は衰退を続けている。このため、十分な森林整備が行われず、間伐等の手入れが不十分な人工林や植林が行われない伐採跡地が見られるようになってきた。</p> <p>今後は、適切な森林施業の効率的な実施の普及啓発、作業道等による作業現場へのアクセスの改善及び高性能林業機械の活用を通じた効率的かつ安定的な林業経営を確立することが課題となっている。</p> <p>一方、林道沿線にある福本グラウンドが新見市及び地域の社会体育の振興に大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、この林道から派生する作業道等の路網の充実を図りたい。</p>		
評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。また、新見市福本グラウンドへのアクセス道としても必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が3.68と効率性が認められる。今後の維持管理にあって、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況及び、新見市福本グラウンドへのアクセス道としての利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 83
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県名	岡山県
地区名	おあたにあきまき 大谷秋正 線	事業実施主体	中央町
関係市町村	中央町	管理主体	中央町
事業実施期間	H8 (1年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林道の機能向上を図り農山村地域の環境や林業従事者の労働環境の改善を図るために、2,389mの舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益 (B) 48 百万円 総費用 (C) 47 百万円 分析結果 1.02
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>整備を行ったことにより森林へのアクセスや木材の輸送時間の短縮が図られた。</p> <p>維持管理経費が軽減できた、特に路面の浸食が少なくなり重労働である路面碎石の敷き均しが無くなった。</p> <p>整備前に比べて2割程度通行者が増えた。(春や秋に都心から訪れる人が増加)</p> <p>土砂等が下流に流れ出す事が少なくなった。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	本林道は、中央町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。 最近では、雇用対策事業等により側溝清掃も実施している。
-------------------	--

事業実施による環境の変化	悪路走行の心配が無くなり容易に車の乗り入れができ、森林所有者の林業経営意欲が高まった。 また、きめ細かな森林の手入れができるようになった。
--------------	--

社会経済情勢の変化	労働力の効率的な移動や、地域特産物の輸送林道沿線の田畑の活用にも大きな役割を果たしている。
-----------	---

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価効果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.02と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 84
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	広島県
地区名	入野線	事業実施主体	東広島市
関係市町村	東広島市	管理主体	東広島市
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、人工林の適切な整備推進やアカマツ林等の整備推進及び市場への素材の搬出コスト削減等を図るために不可欠な林道である。また、地域の生活環境に密着した林道であり、一般車の通行も多く見込まれる路線である。</p> <p>このため、本路線の走行性・安全性の確保とともに、災害の軽減及び長期的な維持管理コストの削減を目的として舗装2,059m(w=4.0m)を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B)79百万円 総費用(C)54百万円 分析結果 1.46</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>走行時間の短縮及び走行性、安全性の向上が図られ、山村生活環境改善と地域の振興に効果を発揮している。</p> <p>全線の舗装により走行時間が整備前に比べて3割程度となった。</p> <p>整備後、当該事業箇所において路体に起因する災害が発生しておらず、災害防止効果が発揮されている。</p> <p>維持管理費の縮減や、路面に起因する災害の防止効果による林道管理のトータルコストの縮減が図られている。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>市が林道管理規程により管理しており、維持管理状況は良好である。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、所有者の林業経営の意欲が高まり高齢者でもバイクや軽四で現場に行けることから森林の手入れが容易になった。</p> <p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意識が高まった。</p> <p>これまで入野集落へのアクセスは市道一本であったが、本整備により集落の生活環境の向上が図られている。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>公共事業においては、維持管理費を含めたトータルコストの更なる縮減が求められている。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>所有者の林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷により森林施策が十分とは言えず積極的にPRする必要がある。</p> <p>林道沿線へのゴミの不法投棄が行われており、防止策を講じる必要がある</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行なうためには 利便性の高い林道の整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.46と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の活用状況、山村住民による利用状況からみて有効な施設である。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 85
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	広島県
地区名	十文字線	事業実施主体	東城町
関係市町村	東城町	管理主体	東城町
事業実施期間	H2～H8（7年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>十文字線は、スギ、ヒノキの人工林の適切な整備推進はもとより、森林の総合的な利用、新見市場への素材の搬出コスト縮減等を図るために不可欠な林道である。</p> <p>また、福代集落と伊瀬集落を結ぶ地域の生活環境に密着した林道であり、一般車の通行も多く見込まれる路線である。</p> <p>このため、本路線の走行性・安全性の確保とともに、災害の軽減及び長期的な維持管理コストの縮減を目的として、舗装3,369m（W=4.0m）を実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 157百万円 総費用（C） 114百万円 分析結果 1.38</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>全線の舗装により吹矢谷から金原までの到達時間が10分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>整備後、当該事業箇所において路体に起因する災害が発生しておらず、災害防止効果が発揮されている。</p> <p>舗装後の維持管理に要する費用が整備前に比べ2割程度となっている。</p> <p>整備による通行性、安全性の向上により、一般車両等の通行台数が30台/日程度増加している。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	東城町が林道管理規程に基づき、側溝清掃・草刈等を実施している。
-------------------	---------------------------------

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p> <p>また、伊瀬集落から、東城工業団地、中央運動公園までの所要時間が1/2に短縮され、本林道の舗装により安心・安全で、便利な暮らしの確保につながっている。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>森林整備の従事者等の高齢化、材価の長期低迷が続いており、森林へのアクセス性の向上、素材生産コストの低減が求められている。</p> <p>また、公共事業においては、維持管理費を含めたトータルコストの更なる縮減が求められている</p>
-----------	--

今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、森林へのアクセス性の向上が不可欠である。また、山村集落の生活環境の向上の観点からも林道の通行性、安全性の確保は必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.38と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備量の増加等からも事業の有用性が認められるほか、地域住民の活用状況からも、有効と認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 86
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	広島県
地区名	沢田線	事業実施主体	東城町
関係市町村	東城町	管理主体	東城町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>沢田線は、スギ、ヒノキの人工林の適切な整備推進はもとより、森林の総合的な利用、新見市場への素材の搬出コスト等を図るために不可欠な林道である。</p> <p>また、町道と接続することにより沢田集落と川東集落が直接結ぶ地域の生活環境に密着した林道であり、一般車の通行も多く見込まれる路線である。</p> <p>このため、本路線の走行性・安全性の確保とともに、災害の軽減及び長期的な維持管理コストの縮減を目的として、舗装1,829m(W=4.0m)を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 70百万円 総費用(C) 64百万円 分析結果 1.09</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>全線の舗装により吹矢谷から金原までの到達時間が5分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>整備後、当該事業箇所において路体に起因する災害が発生しておらず、災害防止効果が発揮されている。</p> <p>舗装後の維持管理に要する費用が整備前に比べ2割程度となっている。</p> <p>整備による通行性、安全性の向上により、一般車両等の通行台数が20台/日程度増加している。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、東城町町が林道管理規程に基づき側溝清掃・草刈等を実施している。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p> <p>また、町道との接続により、沢田集落と川東集落が直接結ばれ、本林道の舗装により便利で安全な暮らしの確保につながっている。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>森林整備の従事者等の高齢化、材価の長期低迷が続いており、森林へのアクセスの改善、素材生産コストの低減が求められている。</p> <p>また、公共事業においては、維持管理費を含めたトータルコストの更なる縮減が求められている。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、森林へのアクセス性の向上が不可欠である。また、山村集落の生活環境の向上の観点からも林道の通行性、安全性の確保は不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.09と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備量の増加等からも事業の有用性が認められるほか、地域住民の活用状況からも、有効性が認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 87
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	広島県
地区名	大鬼山線	事業実施主体	高野町
関係市町村	高野町	管理主体	高野町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>大鬼山線は、スギ、ヒノキの人工林の適切な整備推進はもとより、森林の総合的な利用、三次市場への素材の搬出コスト等を図るために不可欠な林道である。</p> <p>また、沿線に森林のふれあい施設として設置されているオートキャンプ場へのアクセス道路としても重要で、一般車の通行も多く見込まれる路線である。</p> <p>このため、本路線の通行性の向上と安全性の確保とともに、災害の軽減及び長期的な維持管理コストの縮減を目的として、舗装2,680m(W=3.0m)を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 89百万円 総費用(C) 48百万円 分析結果 1.85</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>全線の舗装により頂上までの到達時間が8分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>整備後、当該事業箇所において路体に起因する災害が発生しておらず、災害防止効果が発揮されている。</p> <p>舗装後の維持管理に要する費用が整備前に比べ2割程度となっている。</p> <p>整備による通行性、安全性の向上により、一般車両等の通行台数が20台/日程度増加している。</p> <p>沿線のテレビ・携帯電話中継所の維持管理が容易になった。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、東城町町が林道管理規程に基づき側溝清掃・草刈等を実施している。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p> <p>また、本林道の舗装によりキャンプ場利用者による森林浴等利用が拡大している。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>森林整備の従事者等の高齢化、材価の長期低迷が続いており、森林へのアクセス性の向上、素材生産コストの低減が求められている。</p> <p>また、公共事業においては、維持管理費を含めたトータルコストの更なる縮減が求められている。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、森林へのアクセス性の向上が不可欠である。また、山村集落の生活環境の向上の観点からも林道の通行性、安全性の確保は不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.85と効率性が認められる。 ・有効性 森林整備量の増加等からも事業の有用性が認められるほか、地域住民の活用状況からも、有効性が認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 88
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山口県
地区名	おほらあきがけ 大原秋掛線	事業実施主体	錦町
関係市町村	錦町	管理主体	錦町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、舗装1,854mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 43百万円 総費用(C) 39百万円 分析結果 1.10
事業効果の発現状況	舗装の整備により、路面が安定し、維持管理費の縮減が図られた。 森林整備等における車両通行も容易となった。
事業により整備された施設の管理状況	錦町が森林所有者等の協力を得ながら適切に管理している。
事業実施による環境の変化	維持管理が容易となり、地元受益者の負担も軽減され、森林整備に積極的に取組まれるようになった。
社会経済情勢の変化	木材価格等の低迷と施業者の高齢化等により、計画に沿った森林整備が進み難しくなっている中で、森林整備交付金制度を活用した取り組みが行われてきている。
今後の課題等	林道の支線等を整備することにより森林整備の推進に努めるとともに、維持管理経費の縮減について取り組んでいく必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 適切な森林整備と効率的な木材生産等を行なうためには林道整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.10であり効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を効率的に実施していくこととする。 ・有効性 森林整備、森林整備意欲の高揚、一般車の利用等の状況からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 89
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山口県
地区名	ぬだしんめいばら 沼田神明原線	事業実施主体	錦町
関係市町村	錦町	管理主体	錦町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、舗装1,490mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 35百万円 総費用（C） 32百万円 分析結果 1.09
事業効果の発現状況	舗装の整備により、路面が安定し、維持管理費の縮減が図られた。 森林整備等における車両通行も容易となった。
事業により整備された施設の管理状況	錦町が森林所有者等の協力を得ながら適切に管理している。
事業実施による環境の変化	維持管理が容易となり、地元受益者の負担も軽減され、森林整備が積極的に取組まれるようになった。
社会経済情勢の変化	木材価格等の低迷と施業者の高齢化等により、計画に沿った森林整備が進み難しくなっている中で、森林整備交付金制度を活用した取り組みが行われてきている。
今後の課題等	<p>終点から作業道が伸びているが、路面の状態も悪いので、他の林道との連結も考えて整備していきたい。</p> <p>林道を活用した森林整備の推進に努めるとともに、維持管理費の縮減に取り組む必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な森林整備を行なうためには林道整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.09と効率性が認められる。今後の維持管理にあたっては維持管理費の縮減を図りつつ効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備、森林整備意欲の高揚等の状況からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 90
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山口県
地区名	あおたひがしやま 大田東山線	事業実施主体	美東町
関係市町村	美東町	管理主体	美東町
事業実施期間	H元～H8（8年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	町道（起点）と大規模林道鹿野豊田線美東区間（終点）を連絡する延長約1.0km（幅員4m）の林道のうち、H元年～8年までに開設済みであった約5kmについて、輸送の効率化や維持管理の軽減を目的に舗装を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 168百万円 総費用（C） 152百万円 分析結果 1.11
事業効果の発現状況	森林へのアクセスが容易となり施業地までの時間が従来の30分から10分程度に短縮された。 5年間で148haの施業が実施された。 当林道を起点として一般林道2本、保安林管理道1本、作業道2本が開設され、利用区域内の森林は、路網から500m以内となった。 有害鳥獣の団体駆除作業道としても広範囲に利用されている。
事業により整備された施設の管理状況	当林道は本町が林道管理規程に基づき管理を行っている。
事業実施による環境の変化	林道の全線開設や舗装の実施に伴い利用者が広範囲となり、家族連れの利用も増加している。
社会経済情勢の変化	当林道の山頂付近に携帯電話用無線中継局が2局設置され、一般住民の生活基盤としても活用されるようになってきた。
今後の課題等	町有林が率先して森林の施業に取り組んでいるが、森林所有者の高齢化により施業が遅れている森林も見られるため、森林組合等への委託作業などによる効率的な施業の実施が必要である。 家庭ごみなどの不法投棄等を防止する取り組みが必要である。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 長引く木材価格の低迷の中、効率的かつ効果的に森林整備と木材生産を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.11と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても効率的に実施していくこととする。 ・有効性 森林整備の実施状況や地元住民等の利用状況からみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 9 1
------	----------

事業名	林道舗装事業	都道府県	山口県
地区名	伊良谷線	事業実施主体	川上村
関係市町村	川上村	管理主体	川上村
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、舗装2,274mを実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 87百万円 総費用（C） 71百万円 分析結果 1.23
事業効果の発現状況	路面の流出・洗掘が防止でき維持管理費の縮減が図られた。 走行の快適性が確保され、森林施業等が積極的に実施されるようになった。
事業により整備された施設の管理状況	川上村が雑草木の刈払い及び落石・風倒木の除去等を実施している。
事業実施による環境の変化	森林作業等のための入林が容易となり、森林に対する関心が高まり意欲の向上になっている。特に、公有林地では、積極的な森林整備に取り組んできている。
社会経済情勢の変化	森林施業計画の推進が図られるなど、林業振興につながっている。
今後の課題等	林道を利用した森林整備等を促進するとともに、維持管理費の縮減や災害の未然防止に努める必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 長引く木材価格の低迷の中、効率的かつ効果的に森林整備と木材生産を行うためには、林道の整備は不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析結果が1.23と効率性が認められる。今後も維持管理費の縮減に努めつつ効率的に実施していくこととする。 ・有効性 森林整備の状況、森林所有者の森林整備意欲の高揚などからみて有効性が認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 92
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	徳島県
地区名	池田漆川線	事業実施主体	池田町
関係市町村	徳島県三好郡池田町	管理主体	池田町
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>池田漆川線は、漆川集落と池田町市街地を結ぶ総延長11.5km（利用区域森林面積518ha）で、適切な森林整備の実施や森林整備の担い手の多くが居住する山村地域の生活基盤としても活用するために開設したものである。また、町の花であるサギソウをはじめ珍しい湿原植物が数多く群生している黒沢湿原（県天然記念物指定）へのアクセス道や森林の総合利用の基盤としても重要な位置付けにある。</p> <p>このため、走行の快適性の確保、維持管理経費の縮減等に資するため、舗装を実施したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td>327 百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td>220 百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td>1.49</td> </tr> </table>	総便益（B）	327 百万円	総費用（C）	220 百万円	分析結果	1.49
総便益（B）	327 百万円						
総費用（C）	220 百万円						
分析結果	1.49						
事業効果の発現状況	<p>森林へのアクセスが容易になり人工林に占める保育・間伐の実施率が増加している。</p> <p>漆川集落から池田町市街地までの到達時間が20分となり、整備前に比べて5割程度になった。</p>						
事業により整備された施設の管理状況	<p>整備後の維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回（7月頃）は、地元住民のボランティアによる草刈りが実施されるほか、沿線に町の木である桜の植樹が実施されている。</p>						
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でも安全にバイクや普通車で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、漆川集落等では、これまで県道一本に依存していたが、本林道の整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。</p>						
社会経済情勢の変化	<p>労働力の効率的な移動や地域産物の輸送時間が短縮されたほか、林道沿線の農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。</p>						
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>						
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.49と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 						

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 93
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	徳島県
地区名	白井線	事業実施主体	一宇村・東祖谷山村
関係市町村	一宇村・東祖谷山村	管理主体	一宇村・東祖谷山村
事業実施期間	S60～H8(12年間)	完了後経過年数	5年間

事業の概要・目的	<p>白井線は、東祖谷山村の管生地区と一宇村の白井地区を結ぶ総延長15.1kmの林道であり、利用区域面積も1,374haを占めている。</p> <p>本事業は、林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、舗装を実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 1,325百万円 総費用(C) 426百万円 分析結果 3.11</p>
事業効果の発現状況	<p>管生集落から貞光町への到達時間が整備前に比べ30分程度短縮された。</p> <p>完了後6年間に本林道を起点としてとして作業道の整備が行われており、周辺の森林整備と地すべり地の対策工事の経費が削減されている。</p>
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、一宇村及び東祖谷山村が管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。又、年に1回地元住民のボランティアにより、草刈りや側溝等の掃除が実施されている。</p>
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まり、森林の手入れが十分行えるようになった。</p>
社会経済情勢の変化	<p>地域産物の輸送が容易となり、各産業の振興にも大きな役割を果たしている。</p>
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組みや林業経営意欲が徐々に改善されてきているが木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が3.11と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を行うことにより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 94
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	愛媛県
地区名	いくいよこやま イグイ横山線	事業実施主体	美川村
関係市町村	愛媛県上浮穴郡美川村	管理主体	美川村
事業実施期間	S63～H8（9年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>本線は、森林整備等に不可欠であるほか、地区内の唯一の生活道としても重要な位置付けにある。また、利用区域面積272haのうち89%を人工林が占めており、適切な施業を実施することで森林の有する公益的機能の維持的発揮等を強く求めている。</p> <p>本事業では、林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、総延長5,154mのうち起点から集落までの4,140m（幅員4.0m）を舗装したものである。</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 146百万円 総費用（C） 128百万円 分析結果 1.15</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>人工林面積に占める間伐の実施率が15%となり、事業完了後の着実に施業が実施されている。</p> <p>終点部に位置する集落までの舗装事業完了に伴い、移動スーパーの乗入れ等が可能となり、生活物資の流通が充実してきた。</p> <p>デイサービス等の福祉の充実や緊急車両等の走行に効果を発揮している。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>美川村が地域住民の協力を得ながら管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回（9月頃）には、地元住民による草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の養鶏場や牧草地等の活用、農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>効率的な施業を実施するため、全村を上げて施業団地化を推進しているところであるが、本地区についても早急に取り組む必要がある。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.15と効率性が認められる。今後の維持管理にあって、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 95
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	愛媛県
地区名	梅津線	事業実施主体	内子町
関係市町村	愛媛県喜多郡内子町	管理主体	内子町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	本事業は、林業就業条件の改善、維持管理費の経費削減、車両通行の安全等を図るため、舗装2554m（幅員4.0m）を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 106百万円 総費用（C） 90百万円 分析結果 1.18
事業効果の発現状況	路面の修繕、草刈等に費やしていた多大な労力・費用が縮減された。 走行の快適性・安全性が確保されたため、通行台数が大幅に増加した。（6,000台/年間 10,000台/年間）
事業により整備された施設の管理状況	内子町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、地元の林道管理組合が定期的に修繕・維持管理作業（草刈等）を行っている。
事業実施による環境の変化	森林所有者の森林整備に対する意欲向上が図られ、除間伐等が実施されてきている。
社会経済情勢の変化	森林施業に必要な労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となり、地元産業の振興に大きな役割を果たしている。
今後の課題等	不在村所有者の森林の整備が推進されるよう取り組みを進めている。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 過疎化と木材価格低迷が続く中で森林を適正に管理するためには、林道を整備することが不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.18と効率性が概ね認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適宜に行うことにより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民による利用状況等からみて、有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 96
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	愛媛県
地区名	泉谷線	事業実施主体	五十崎町
関係市町村	愛媛県喜多郡五十崎町	管理主体	五十崎町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、地域の環境改善及び林業従事者の就業環境改善に資するため、舗装1,008m(幅員3.0m)を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 31百万円 総費用(C) 23百万円 分析結果 1.35
事業効果の発現状況	当林道は標高500m付近にあるため、冬季の霜等に起因する路面侵食が頻繁に発生していたが、これらの被害が解消された。 走行の安全性・快適性が確保されたことにより、通行台数も大幅に増加した。(3,000台/年間 5,000台/年間)
事業により整備された施設の管理状況	五十崎町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、春と秋には地元住民のボランティアにより草刈りや側溝掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	除間伐等森林整備が進み、健全な森林の育成が図られてきている。また、森林所有者の林業に対する意欲向上に役立っている。
社会経済情勢の変化	高齢者の割合が高い本地区において、短時間に安心して通行できる道ができたことは、生活面で大きなプラスとなり、北浦～泉谷集落間の往来も活発になった。
今後の課題等	木材集積場所等の整備が遅れているため、これらの整備を進めたい。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 過疎化と木材価格低迷が続く中で森林を適正に管理するためには、林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.35と効率性が認められる。今後の維持管理についても必要な改良を適宜に行うことにより効果的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民による利用状況等からみて、有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 97
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	高知県
地区名	ヤケダキ線	事業実施主体	土佐山村
関係市町村	土佐山村	管理主体	土佐山村
事業実施期間	H5～H8(4年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、地域の環境改善及び林業従事者の就業環境改善に資するため、舗装2,478m(幅員3.0m)を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益(B) 63百万円 総費用(C) 42百万円 分析結果 1.50
事業効果の発現状況	林道の走行時間が8分から5分となった。 路面浸食等が無くなり、維持管理費が縮減された。 走行の安全性・快適性が確保された。
事業により整備された施設の管理状況	土佐山村が適切に管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回は、地元住民により草刈り側溝掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	本林道の舗装完了後は森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意欲が高まったほか、高齢者の方も軽四等により現場に行けることから森林の手入れができるようになった。また、安全・安心な暮らしの確保につながっている。
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の畜産農家やシトウ等の園芸作物等の生産にも活用され、農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分もあることから、さらに積極的な当林道の活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、林道の機能向上のため舗装整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が1.50と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 98
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	高知県
地区名	下川線	事業実施主体	土佐町
関係市町村	土佐町	管理主体	土佐町
事業実施期間	S59～H8（13年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、地域の環境改善及び林業従事者の就業環境改善に資するため、舗装3,014m（幅員3.0m）を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益 93百万円 総費用 64百万円 分析結果 1.45
事業効果の発現状況	走行時間が20分から10分に短縮され、森林へのアクセスが容易になった。 維持管理費が約3割（50円/m・年から33円/m・年）縮減された。 災害復旧費が約7割（623円/km・年から167円/km・年）縮減された。
事業により整備された施設の管理状況	土佐町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理の状態は良好である。また、地元住民により、側溝清掃等を随時行っている。
事業実施による環境の変化	走行性の確保により、森林整備や林産物の搬出等の作業効率が向上したほか、生活道として利用する沿線住民の安全性・快適性が向上した。
社会経済情勢の変化	林産物の搬出等の効率化により、林業経営面においてコスト削減等の効果があった。
今後の課題等	当事業により路面の整備は進んだが、依然として山腹崩壊等の災害発生の可能性があることから、今後とも、適時適切な維持管理が必要である。 また、舗装による走行性の向上により車両の通行量が増加したため、安全通行の確保等について取り組んでいく必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備および林業経営を促進して行くためには、林道の機能向上必要である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.45と効率性が認められる。今後の維持管理にあたっては、必要な改良等を適宜行うことにより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の効率化や生活道としての機能向上のため、有効な事業と認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 99
------	---------

事業名	林道舗装事業	都道府県	高知県
地区名	成川線 <small>なるかわせん</small>	事業実施主体	吾北村
関係市町村	吾北村	管理主体	吾北村
事業実施期間	S53～H8（19年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、地域の環境改善及び林業従事者の就業環境改善に資するため、舗装5,312m（幅員4.0m）を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益（B） 261百万円 総費用（C） 117百万円 分析結果 2.23
事業効果の発現状況	林道内の走行時間が30分から20分となった。 維持管理の経費が約26%縮減した。 災害復旧の経費が約29%縮減した。
事業により整備された施設の管理状況	吾北村が適切に管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に2回（6月・10月）は、地元住民及び役場職員により草刈り、側溝掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意欲が高まったほか、高齢者の方も軽四輪等により現場にいけることから森林の手入れができるようになった。 また、成川集落は、本林道が唯一の生活道であり、安全・安心な暮らしの確保につながっている。
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産品の安全な輸送が可能となり、農林業の振興にも大きな役割を果たしている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存在することから、当林道の積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うには、林道の整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が2.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な舗装を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 100
------	----------

事業名	林道舗装事業	都道府県	高知県
地区名	須山線	事業実施主体	吾北村
関係市町村	吾北村	管理主体	吾北村
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	林道の機能向上を図り、地域の環境改善及び林業従事者の就業環境改善に資するため、舗装2,563m(幅員3.0m)を実施したものである。
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益(B) 81百万円 総費用(C) 47百万円 分析結果 1.72
事業効果の発現状況	林道の走行時間が25分から15分となった。 維持管理の経費が約29%縮減した。 災害復旧の経費が約17%縮減した。
事業により整備された施設の管理状況	吾北村が適切に管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に2回(6月・10月)は、地元住民及び役場職員により草刈り側溝、掃除等が実施されている。
事業実施による環境の変化	本林道の舗装完了後は森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意欲が高まったほか、高齢者の方も軽四等により現場にいけることから森林の手入れができるようになった。 また、須山集落は、本林道が唯一の生活道であり、安全・安心な暮らしの確保につながっている。
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の畜産農家やシトウ等の園芸作物等の生産にも活用され、農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。
今後の課題等	森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存在することから、さらに当林道の積極的な活用についてPRする必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うには、林道の整備が必要不可欠である ・効率性 費用対効果の分析結果が1.72と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な舗装を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 101

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	大山線	事業実施主体	星野村
関係市町村	星野村	管理主体	星野村
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装延長：1,854m 幅員：4.0m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 65百万円 総費用（C） 45百万円 分析結果 1.44</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装整備後、利用区域内において約50%（延べ面積）の森林整備を実施した。</p> <p>維持管理費が年間平均424千円、災害復旧経費が年間平均1,572千円縮減された。</p> <p>森林施業において目的地までの到達時間が短縮された。</p> <p>終点側にある簡易水道施設の修理・点検作業が格段に容易となった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>星野村が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は、おおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行の快適性の向上により森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、簡易水道施設の維持管理が的確に実施できることにより安心・安全な暮らしの確保につながっている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>通行の安全性が向上し、林産物生産における大型機械の導入及び基盤整備（作業道開設）が促進された。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備への取組みは、一定の成果を挙げつつあるが、木材価格の低迷等から、まだ必要な間伐等が未整備の林分も在することから、積極的な活用について、PRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の通行安全確保・作業の効率性の観点から不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が1.44と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に行うこと等により効率的に実施していく。 ・有効性 森林整備への活用状況があがる・水道施設の維持管理が容易になる等、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 102

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	藪線	事業実施主体	矢部村
関係市町村	矢部村	管理主体	矢部村
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装延長：2,856m 幅員：3.6m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 130百万円 総費用（C） 52百万円 分析結果 2.50</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装整備後、利用区域内において約45%（延べ面積）の森林整備を実施した。</p> <p>維持管理費が年間平均60千円縮減された。</p> <p>森林施業において目的地までの到達時間が短縮された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>矢部村が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行の快適性の向上により森林所有者の林業経営意欲が高まるとともに、広域基幹林道との連絡効果が増加した。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>通行の安全性が向上し、林産物生産における大型機械の導入及び基盤整備（作業道開設）が促進された。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備への取組みは、一定の成果を挙げつつあるが、木材価格の低迷等から、まだ必要な間伐等が未整備の林分も在ることから、積極的な活用について、PRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の通行安全確保・作業の効率性の観点から不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が2.50と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していく。 ・有効性 森林整備への活用状況があがるなど、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 103

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	高取支線2号	事業実施主体	矢部村
関係市町村	矢部村	管理主体	矢部村
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装延長：1,795m 幅員：2.8m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 70百万円 総費用(C) 30百万円 分析結果 2.33</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装整備後、利用区域内において約90%(延べ面積)の森林整備を実施した。</p> <p>維持管理費が年間平均60千円縮減された。</p> <p>森林施業において目的地までの到達時間が短縮された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>矢部村が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行の快適性の向上により森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、一般通行量が増加した。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>通行の安全性が向上し、林産物生産における大型機械の導入及び基盤整備(作業道開設)が促進された。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備への取組みは、一定の成果を挙げつつあるが、木材価格の低迷等から、まだ必要な間伐等が未整備の林分も在することから、積極的な活用について、PRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林業従事者の通行安全確保・作業の効率性の観点から不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が2.33と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に行うこと等により効率的に実施していく。 ・有効性 森林整備への活用状況があがる・一般交通量の増加等、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 104

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	こまなき 駒啼線	事業実施主体	添田町
関係市町村	福岡県田川郡添田町	管理主体	添田町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装事業は、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資するため実施。</p> <p>舗装延長：1,280m 幅員3.6m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 156百万円 総費用(C) 46百万円 分析結果 3.39</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装整備後、利用区域内において約20haの森林整備(間伐等)が実施された。</p> <p>維持管理の経費が年間平均230千円軽減されている。</p> <p>舗装完了以来、路面の雨裂等に伴う災害が起きないようになった。</p> <p>森林施業のための目的地までの到達時間が短縮された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>添田町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、一部は毎年地元のボランティアによる草刈りが実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>作業車両以外の乗用車でも現場へ行けるようになったことからきめ細かな手入れができるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>利用区域内に民家があり、本事業実施により生活環境の改善にも大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組は行われつつあるが、木材の低迷等から不十分なため、積極的な活用についてPRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、森林整備の取組等を改善するため、林道の機能向上を図り、また、農山村地域の環境の改善を図ることが不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が3.39と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に行うことにより効率的に実施していく。 ・有効性 森林整備への活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 105

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	別処富士線	事業実施主体	前原市
関係市町村	前原市	管理主体	前原市
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装工：L=5,740m 幅員：4.0m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 322百万円 総費用（C） 170百万円 分析結果 1.89</p>		
事業効果の発現状況	<p>維持管理費、運搬経費等が縮減され、災害の発生が減少した。</p> <p>普通車等での森林整備等が容易となった。</p> <p>舗装され、木材の品質が保たれるようになった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>前原市が林道管理条例に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行性の向上及び森林基幹道との連絡により、間伐・下刈り等の作業が行われるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>本林道は森林基幹道のアクセス道として利用され、また、山間集落を連絡する生活道路としての機能、農林業の生産基盤としての役割も多く、森林の広域的整備が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>他の林道との連絡を図り、施業の共同化・高性能林業機械の導入を推進し、生産性の高い林業経営、公益性の高い森林整備を目指す。現在、間伐の推進を図っているが、間伐手遅れ林分の森林所有者への働きかけが必要となる。また、林道沿線への不法投棄があるため、防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷が続く中で、輸送経費の縮減、木材の高品質が求められ、また、多様化する利用目的に対応するために、林道舗装が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が1.89と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に行うこと等により効率的に実施していく。 ・有効性 森林整備の利用状況、山村住民の利用状況等からみて有効な施設である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 106

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	東原線	事業実施主体	須恵町
関係市町村	須恵町	管理主体	須恵町
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装工：L=2,881m 幅員：3.6～4.0m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 149百万円 総費用（C） 108百万円 分析結果 1.38</p>		
事業効果の発現状況	<p>維持管理の経費の軽減及び森林施業において目的地までの到達時間が短縮された。</p> <p>森林公園施設（保全林）へのアクセス道として、安全に通行できるようになった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>須恵町の臨時職員により、定期的に草刈、側溝掃除等が行われ維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行性の向上により、隣町との連絡効果が高まるとともに、定期的に間伐・下刈等の作業が行われるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林道沿線に森林公園があり、近隣の市町民の森林等とのふれあいに大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>林道沿線への不法投棄が増えているため、対策を講じる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林の公益的機能の発揮を持続するためには、適正な森林整備が必要であり、そのための林道整備及び機能向上を図ることが不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.38と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うことにより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の活用状況、市町民による利用状況等からみて、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 107

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	井野山	事業実施主体	宇美町
関係市町村	宇美町	管理主体	宇美町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道舗装を行い、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境の改善に資する。</p> <p>舗装工：L=1,724m 幅員：3.6m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 84百万円 総費用(C) 69百万円 分析結果 1.22</p>		
事業効果の発現状況	<p>維持管理の経費が約5割の軽減がなされた。</p> <p>森林施業において目的地までの到達時間が短縮された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>溝渠等の維持管理は宇美町で実施し、路面清掃・除草等の管理は、地元の協力により行っているところであり、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>走行性の向上により、間伐、下刈り等の作業が行われるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>舗装実施により、車両の通行がスムーズになり、森林への往来が楽になり、また、頂上の展望台へのアクセス、散歩道としても機能しており、憩いの場となっている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組みは行われつつあるが、木材価格の低迷等から不十分な林分が在するため、積極的な活用にはPRする必要がある。また林道沿線への不法投棄が増えているため、対策を講じる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、森林整備の取組み等を改善するため、林道の機能向上を図り、また、農山村地域の環境の改善を図ることが不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.22と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うことにより効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 付近住民による利用や、森林整備の施設として有効である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 108

事業名	林道舗装事業	都道府県	福岡県
地区名	麻生線	事業実施主体	北九州市
関係市町村	北九州市	管理主体	北九州市
事業実施期間	S60～H8（12年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>本事業は、林道使用者の通行の利便性の向上（走行時間の短縮）や維持管理経費の縮減を図るため舗装事業を実施する。</p> <p>舗装延長：5,881m 幅員：4.0m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 440百万円 総費用（C） 164百万円 分析効果 2.68</p>		
事業効果の発現状況	<p>舗装整備後、利用区域内において約40ha（延べ面積）の森林整備を実施した。</p> <p>林道起点から終点までの到達時間が、45分から23分となり、整備前と比べて約5割程度となった。</p> <p>完了後5年間に、森林管理道（普通林道）1路線、竹林作業路等の整備が行われてきている。</p> <p>舗装整備以来、路線の雨裂等に伴う災害が起きないようにするとともに、維持管理経費が年平均55千円縮減された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、北九州市が整備を行い、林道管理要綱に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、事業完了後、市単独事業等により当該事業対象外の未舗装区間についても舗装工事を実施している。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>到達時間の短縮に伴い、森林へのアクセスが容易になり、高齢者でも安全にバイクや軽四輪車で現場へいけることから、きめ細かな森林の手入れや「合馬たけのこ」の生産性向上など林業経営の効率化につながっている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>労働力の効率的な移動や地域産物の輸送時間が短縮されたほか、森林の適切な整備やこれまで有効利用されていなかった竹材の利用（竹炭）など山村の活性化に大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取り組みや林業経営への意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐が行われていない林分も存在することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うため、また、「合馬たけのこ」やシイタケ栽培など特産林産物の生産・出荷の利便性向上など、山村の活性化のための基盤となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が2.68と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備等への活用状況、山村住民による利用状況の増加等からみて本事業の実施は、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 109

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	后ヶ浦線	事業実施主体	佐賀県
関係市町村	佐賀県佐賀市	管理主体	佐賀県
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設林道の舗装をするものである。</p> <p>また佐賀県が所有する久保泉県有林（93ha）を区域とするもので、災害等の未然防止を図り計画的な森林整備を推進するため、佐賀県が平成6年から8年まで整備したものである。</p> <p>舗装 L = 1,193m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 39百万円 総費用（C） 27百万円 分析結果 1.44</p>		
事業効果の発現状況	<p>終点から起点までの到達時間が5分弱となり、整備前に比べて6割程度となった。</p> <p>路肩部の災害復旧費が事業実施前5年間は、3,500千円に対し事業完了後5年間は発生しておらず経費の削減ができた。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>佐賀県が管理しており、年に1回（8月頃）は、委託により草刈りを実施している。維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道下方への砂利道を原因とした濁水もなくなり、本事業の実施により環境の改善が図られた。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>整備前に比べ、森林整備のための労働力の効率的な移動が可能になった。</p>		
今後の課題等	<p>アスカ - プ等の破損及び老朽化による機能の低下により災害の恐れが懸念されるため、適正な維持管理を継続して行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.44と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 110

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	八丁坂線	事業実施主体	佐賀県
関係市町村	佐賀県多久市・東松浦郡巖木町	管理主体	多久市・巖木町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設林道の舗装をするものである。</p> <p>また区域の一部が天山県立自然公園内で森林浴等による一般者の多数の利用があり、森林の総合利用の基盤としても重要な位置付けにあることから、佐賀県が平成6年から8年まで整備したものである。</p> <p>舗装 L = 8 , 204 m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 285百万円 総費用（C） 221百万円 分析結果 1.29</p>		
事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの到達時間が28分となり、整備前に比べて6割程度となった。</p> <p>路肩部の災害の発生率が減少し経費の削減ができた。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、多久市・巖木町が林道管理条例に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道下方への砂利道を原因とした濁水もなくなり、本事業の実施により環境の改善が図られた。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>整備前に比べ、森林整備のための労働力の効率的な移動が可能になった。</p>		
今後の課題等	<p>アスカ - プ等の破損及び老朽化による機能の低下により災害の恐れが懸念されるため、適正な維持管理を継続して行う必要がある。また全線舗装が完了し、一般車の走行速度も高い傾向にあり交通事故が心配されるため、警戒標識や防護柵等の安全施設の充実を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.29と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 1

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	彦岳線	事業実施主体	佐賀県
関係市町村	佐賀県佐賀郡富士町	管理主体	富士町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善に資するため既設林道の舗装をするものである。</p> <p>また区域のほとんどが天山県立自然公園内で森林浴等による一般者の利用があり、森林の総合利用の基盤としても重要な位置付けにあることから、佐賀県が平成6年から8年まで整備したものである。</p> <p>舗装 L = 6 , 4 1 9 m</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 2 2 5 百万円 総費用（C） 1 5 0 百万円 分析結果 1 . 5 0</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの到達時間が14分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>路肩部の災害の発生率が減少し経費の削減ができた。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、富士町が林道管理条例に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>林道下方への砂利道を原因とした濁水もなくなり、本事業の実施により環境の改善が図られた。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>整備前に比べ、森林整備のための労働力の効率的な移動が可能になった。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>アスカ - プ等の破損及び老朽化による機能の低下により災害の恐れが懸念されるため、適正な維持管理を継続して行う必要がある。また全線舗装が完了し、一般車の走行速度も高い傾向にあり交通事故が心配されるため、警戒標識や防護柵等の安全施設の充実を講ずる必要がある。</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備（舗装）が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.50と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 2

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県						
地区名	浦平線	事業実施主体	富士町						
関係市町村	佐賀県富士町	管理主体	富士町						
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間						
事業の概要・目的	<p>当路線は延長 1,000mの林道である。地区住民にとって重要な役割を果たす当路線も路面の荒廃等で森林施業や車の通行等に支障をきたしていたため、S58.H1に舗装工事を行い、H8年度には連担で310mを舗装し、全線舗装完了となったものである。</p> <p>舗装 L = 310m</p>								
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>8 百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>6 百万円</td> </tr> <tr> <td>分析結果</td> <td>1.33</td> </tr> </table>			総便益(B)	8 百万円	総費用(C)	6 百万円	分析結果	1.33
総便益(B)	8 百万円								
総費用(C)	6 百万円								
分析結果	1.33								
事業効果の発現状況	<p>当路線の全線舗装により、路面荒廃等における維持管理費の縮減の効果が得られた。又、森林へのアクセスも容易になり森林施業の向上にも大きくつながった。</p>								
事業により整備された施設の管理状況	<p>地元住民による年2回程度のボランティアでの草刈り・側溝掃除等を実施している。</p>								
事業実施による環境の変化	<p>舗装を行った事で林道の景観等もよくなり、高齢者の方でも安心して活用できる林道となった。</p>								
社会経済情勢の変化	<p>林道の近隣には農地等もあり、地域産物の収穫・輸送が効率よく行えるようになった。</p>								
今後の課題等	<p>木材価格の低迷等により、森林の間伐や手入れ等がまだ十分とは言えないが、積極的な林道の活用を進め森林施業意欲の向上へ努めていく。</p>								
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.33と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 								

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 3

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	須田～おそえがわ	事業実施主体	富士町
関係市町村	佐賀県富士町	管理主体	富士町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	当路線は延長1,140mの林道である。地区住民にとって重要な役割を果たす当路線も、路面の荒廃等で森林施業や車の通行等に支障をきたしていたため、平成8年度に520mの舗装工事を行ったものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 15百万円 総費用(C) 12百万円 分析結果 1.25		
事業効果の発現状況	当路線の舗装により、路面荒廃等における維持管理費の縮減の効果が得られた。又、走行時の安全性・森林施業の向上にも大きくつながった。		
事業により整備された施設の管理状況	地元住民による年2回程度のボランティアでの草刈り・側溝掃除等を実施している。		
事業実施による環境の変化	舗装を行った事で林道の景観等もよくなり、高齢者の方でも安心して活用できる林道となった。		
社会経済情勢の変化	地域産物の収穫・輸送が効率よく行えるようになった。		
今後の課題等	木材価格の低迷等により、森林の間伐や手入れ等がまだ十分とは言えないが、積極的な林道の活用を進め森林施業意欲の向上へ努めていく。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.25と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 4

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	八久保線	事業実施主体	富士町
関係市町村	佐賀県富士町	管理主体	富士町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	当路線は延長 800mの林道である。地区住民にとって重要な役割を果たす当路線も、路面の荒廃等で森林施業や車の通行等に支障をきたしていたため、平成8年度に780mの舗装工事を行ったものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 31百万円 総費用(C) 23百万円 分析結果 1.35		
事業効果の発現状況	当路線の全線舗装により、路面荒廃等における維持管理費の縮減の効果を得られた。又、走行時の安全性・森林施業の向上にも大きくつながった。		
事業により整備された施設の管理状況	地元住民による年2回程度のボランティアでの草刈り・側溝掃除等を実施している。		
事業実施による環境の変化	舗装を行った事で林道の景観等もよくなり、安心・安全な暮らしの確保につながった。		
社会経済情勢の変化	町道と広域期間林道をつなぐ重要な路線でもあり、観光者等の増加へとつながっている。		
今後の課題等	木材価格の低迷等により、森林の間伐や手入れ等がまだ十分とは言えないが、積極的な林道の活用を進め林業情勢の向上へ努めていく。又、不法投棄の防止へと努める。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.35と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 5

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	小副川線	事業実施主体	富士町
関係市町村	佐賀県富士町	管理主体	富士町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	当路線は延長2,450mの林道である。小副川線は連絡線形でもあり地域における重要な役割を果たしているが、路面の荒廃等で森林施業や車の通行等に支障をきたしていたため、平成8年度に500mの舗装工事を行ったものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 17百万円 総費用(C) 12百万円 分析結果 1.42		
事業効果の発現状況	当路線の舗装により、林道の維持管理費の縮減、地域間の連絡線としての交通の利便性向上につながった。又、森林施業も安全かつ容易に行えるようになった。		
事業により整備された施設の管理状況	地元住民と当路線に隣接する農地所有者により、年1回の草刈り・側溝掃除等を実施している。		
事業実施による環境の変化	舗装を行った事で林道の景観等もよくなり、安心・安全な暮らしの確保につながっている。		
社会経済情勢の変化	路盤の整備により森林施業の効率化と共に林道の近隣の農地所有者による地場産物の収穫から輸送までが広く可能となった。		
今後の課題等	木材価格の低迷等により、森林の間伐や手入れ等がまだ十分とは言えないが、積極的な林道の活用を進め林業情勢の向上へ努めていく。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.42と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 6

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	田中線	事業実施主体	脊振村
関係市町村	佐賀県脊振村	管理主体	脊振村
事業実施期間	S63～H8（9年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>当路線は村道広滝・犬井谷線と県道脊振山公園線とを結ぶ総延長3,628m幅員4.0mの普通林道であり、利用区域88haに及ぶ。当路線の舗装整備により雨水による災害防止、施業地までの時間短縮のみならず軽車両及び一般車輛の通行が容易となる。</p> <p style="text-align: center;">舗装 L = 3 , 6 2 8 m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 63百万円 総費用(C) 59百万円 分析結果 1.07</p>		
事業効果の発現状況	<p>当路線の整備完了と共に個人的作業路の整備が進みつつあり、間伐、枝打ち等の森林整備が確実に進んでいる。</p> <p>通行が容易となったために特に春先から夏場においての一般車輛が多くなった。</p> <p>整備前に比較しても、林道路肩災害の発生率が減少した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本線は当村が管理しているが、林野保護委員の定期的巡視により林道の状況を把握し対応している。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>高い高齢者率で兼業農家の多い本村においては、軽車両での通行が可能となったことから、入山する機会が多くなり森林の手入れのみならず山菜等を得る機会が増えた。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林産物の輸送条が改善されたほか、都市住民が利用することにより山村と都市の交流が生まれ、山林の持つ多面的機能が見直されはじめた。</p>		
今後の課題等	<p>労働条件は改善されているが、木材価格の低迷、高齢化等により意欲が損なわれる面があり、今後の積極的な活用のPRが必要である。また、一般車輛の通行が多くなったことから林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄がおこなわれていることから、防止策を講じる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.07と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 7

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	神有線	事業実施主体	三瀬村
関係市町村	佐賀県神埼郡三瀬村	管理主体	三瀬村
事業実施期間	H 8 (1 年間)	完了後経過数年	5 年間
事業の概要・目的	<p>本路線は、神有集落と平松集落とを最短で結ぶ連絡道として、林業振興はもとより生活道路としての機能も果たしている。しかし、未舗装区間においては、縦断勾配がきつく、降雨のたびに路面が荒れ通行に支障をきたしていた。また路面補修等の維持管理費も高んでいた為、舗装事業を実施した。</p> <p>舗装 L = 9 5 2 m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 55百万円 総費用 (C) 20百万円 分析結果 2.75</p>		
事業効果の発現状況	<p>平松集落～神有集落への移動時間が短縮され整備前に比べ安全性が確保された。また、全線舗装により車輛通行台数が若干ではあるが増加した。</p> <p>整備前は降雨の度にグレーダーによる路面補修が必要だったが整備後は維持管理費の縮減ができた。</p> <p>整備前のボランティアによる林道沿線草刈は、全幅員+保護路肩を対象にして草刈を実施していたが、現在は保護路肩のみの草刈で対応できる。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、三瀬村が管理しているが、年に2回(6月頃、9月頃)に地区住民による林道沿線草刈、側溝清掃が行われている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>事業実施前は、路面も荒れており通行に支障をきたしていたが、実施後は集落と集落を結ぶアクセス的な役割を果たし、森林所有者はもとより地元住民、山菜採取者など多種多様な林道として利用されている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林業機械の大型化に伴い、森林組合が所有するプロセッサ、グラブ等の搬入が容易なり、施業期間の短縮、労働力の省力化が図られている。</p>		
今後の課題等	<p>近年の木材価格の低迷により、林業従事者の生産意欲は衰退し、森林への手入れが遅れている林分が存在する。森林組合と連携を組み間伐等の積極的な取組みをPRする必要がある。又、年々増加する不法投棄についても検討する必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が2.75と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 118

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	横井線	事業実施主体	鳥栖市
関係市町村	佐賀県鳥栖市	管理主体	鳥栖市
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>林道の機能向上を図り、林業従事者の就業環境の改善に資するため、既設林道の舗装をするものである。</p> <p>舗装 L = 2,536m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 76百万円 総費用（C） 46百万円 分析結果 1.65</p>		
事業効果の発現状況	<p>完了後5年間に本林道を起点として、森林管理道（普通林道）1路線の整備を行われてきている。</p> <p>鳥栖市の休養施設である「とりごえ荘」等への道としても利用されている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、鳥栖市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は、おおむね良好である。また、年1回の草刈りを実施している。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林所有者の林業経営意欲が高まっているほか、バイク、軽自動車での森林へのアクセスが容易になった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林業労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が容易となったほか、地元公共施設へのアクセス道として大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家電製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.65と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 1 9

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	高峰線	事業実施主体	巖木町
関係市町村	佐賀県東松浦郡巖木町	管理主体	巖木町
事業実施期間	5年～8年(4年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>この路線の一部は、砂利道で走行性が悪くその砂利が流出し堆積した土砂の処分に労力をかけていた。 このため、未舗装区間の整備により路面の安定及び走行性の確保を図るものとする。</p> <p>舗装 L = 1,923m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 134百万円 総費用(C) 112百万円 分析結果 1.20</p>		
事業効果の発現状況	<p>完了後、安全な走行ができ、災害復旧事業及び維持管理費の軽減がされた。</p> <p>本林道の起点から終点までの所要時間が45分から20分に大幅に短縮され、利用区域内の森林の施業が容易になった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、巖木町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回(7月頃)には、地元住民により草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四輪自動車で行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.20と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面侵食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 120

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	芦原線	事業実施主体	北方町
関係市町村	佐賀県杵島郡北方町	管理主体	北方町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>交通量の増大により、現況砂利道の荒廃が著しいため、舗装にて路面の安定を図ると共に、交通経路の短縮をし、経費の削減を図る。</p> <p>舗装 L = 1,182m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 56百万円 総費用（C） 42百万円 分析結果 1.33</p>		
事業効果の発現状況	<p>パイロット事業によるミカン畑から大町々のミカン選果場までの到達時間が110分となり、整備前に比べて6割程度となった。</p> <p>完了後5年間に本林道を起点として農道1路線の舗装、循環町道の中心を横断する主要林道として交通量の増大が図られ、起点町道側の林道永池線が一部町道となった。</p> <p>平成12年度に防火林道の一部として、隣接市町村との林地の防火路線の一部として活用されるにいたっている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、北方町が整備した後、林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に2回（9月頃）には、地元住民のボランティアによる草刈りや側溝掃除等が実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四輪自動車で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、永池、芦原集落等では、これまで町道一本に依存していたが、本林道の整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。外防火林道の計画路線の一部として、有効に利用されている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線のミカン畑の輸送道路としての活用にも大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.33と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 121

事業名	林道舗装事業	都道府県	佐賀県
地区名	鳥越～殿ノ木庭 線	事業実施主体	塩田町
関係市町村	佐賀県塩田町	管理主体	塩田町
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>舗装事業により、森林資源の開発、生産基盤の確定を図る。</p> <p>舗装 L = 2,006 m</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 42百万円 総費用(C) 40百万円 分析結果 1.05</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの到達時間が、整備前に比べて7割程度と なった。</p> <p>林道維持管理経費が、整備前に比べて5割程度となった。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は塩田町が林道維持管理規定に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回は地元住民による草刈や側溝掃除等が実施されている。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>林業従事者の大半が高齢者であるため、舗装事業による整備完了後はバイクや軽四での通行が容易になり現場へ行きやすくなった。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>本林道は2集落を結ぶ林道であるため、草刈や側溝掃除等を協力しあって行うようになり集落間の連帯感が深まった。</p>
-----------	--

今後の課題等	<p>長引く木材価格の低迷を初めとして、林業従事者の高齢化、また転出による不在者等の増加により、森林の施業が十分に行われていない状況にあるため、今後は林業後継者等の育成に力を入れていく必要がある。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的・効果的な森林整備等を行うためには、既設林道の機能向上を図るための整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.05と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な路面補修等を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 路面浸食の未然防止や通行車両の安全確保等が図られ、有効と認められる。
------	---

完了後の評価個表

整理番号	森3 - 1 2 2
------	------------

事業名	林道舗装事業	都道府県	長崎県
地区名	風名線	事業実施主体	琴海町
関係市町村	長崎県西彼杵郡琴海町	管理主体	琴海町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	舗装することにより輸送の効率化及び維持管理費の軽減を図る。
----------	-------------------------------

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 62百万円 総費用（C） 53百万円 分析結果 1.17</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>舗装されたことにより、作業現場までの移動時間短縮につながり、作業工程のアップに貢献した。</p> <p>悪路の解消により、車両損傷の減少につながったため、地元住民の森林へのアクセス機会が増えた。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>集中豪雨等により路肩が損傷した事例があり、その際には町で復旧工事を行った。現在においても、そのような場合には、地元住民からの情報を得て随時維持補修工事を行っている。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>舗装により悪路が解消され、森林所有者の施業に対する意欲が向上した。また、所有者以外の町民の森林へのアクセス機会が増えた。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>社会経済については、目立った変化は感じられない。</p>
-----------	---------------------------------

今後の課題等	<p>林産物の流通基盤を整備することにより、今後更なる、施業意のを向上を促す必要がある。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 林産物搬出の効率化、林道維持管理軽減及び安全な走行のためには当該事業は必要である。 ・ 効率性 費用対効果分析が1.17と効率性が認められる。今後は作業路等を取り入れ、当路線の効率的な利用を図っていききたい。 ・ 有効性 森林整備への活用、地域住民の生活道としての利用状況があり、有効な施設である。
------	---

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 2 3

事業名	林道舗装事業	都道府県	長崎県
地区名	宇戸線	事業実施主体	平戸市
関係市町村	長崎県平戸市	管理主体	平戸市
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	林道舗装事業により、路面崩壊及び維持管理の軽減・歩行時間の短縮を図る。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	林道舗装事業により、路面崩壊及び維持管理の軽減・歩行時間の短縮を図る。 総便益（B） 158百万 総費用（C） 142百万 分析結果 1.11		
事業効果の発現状況	事業完了により起点側の獅子高越集落の地元住民が平戸斎場への利用が便利になるとともに時間短縮が図られた。また、造林作業場所までの時間短縮が計られた。		
事業により整備された施設の管理状況	舗装事業完了後、年一回の除草剤散布。また、付近住民により一部草刈作業が行われている。		
事業実施による環境の変化	舗装完成により、森林作業者はもとより、観光客及び地元住民の利用が増加した。		
社会経済情勢の変化	森林組合の大型機械導入により、作業の高能率化が計られた。		
今後の課題等	森林所有者による森林整備に対する意欲向上のための勉強会等を行い、間伐等の事業推進を計っていきたい。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 当該林道一帯の森林は間伐等森林整備が急務であるため、当路線の整備は必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析結果が1.11と効率性が認められる。今後は作業路等を取り入れ、当路線の効率的な利用を図っていきたい。 ・有効性 森林整備への活用、地域住民の生活道としての利用状況があり、有効な施設である。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 124

事業名	林道舗装事業	都道府県	長崎県
地区名	小瀬良線	事業実施主体	新魚目町
関係市町村	長崎県南松浦郡新魚目町	管理主体	新魚目町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	林産物搬出の効率化、維持管理軽減及び地元住民の生活安定を図るため、平成6年度より平成8年度まで町単独事業及び国庫補助事業により舗装をL=2,114m実施。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 268百万円 総費用（C） 84百万円 分析結果 3.19		
事業効果の発現状況	舗装完了後、路面洗掘等の被災は見られない。 舗装完了後、補修費等の管理費が軽減された。		
事業により整備された施設の管理状況	町が林道維持管理要項に基づき管理をしており、維持管理状況は良好である。年に2回町が単独で作業員を雇い草刈り、側溝清掃を実施している。		
事業実施による環境の変化	舗装後、自動車等の走行性の向上により森林へのアクセスが容易となったことで森林所有者の経営の意欲が高まった。また、沿線の大水集落では、本町中心部へつながる唯一の道路である本林道の走行性の向上により、生活利便性が上がり沿線の地域住民に安心とゆとりを与えた。		
社会経済情勢の変化	舗装の実施に伴い森林へのアクセスが容易になったことで、森林浴を楽しむ等生活道以外の利用が増えた。		
今後の課題等	林道沿線の大水集落の通勤や通学に利用する生活道路としての使用度が極めて高いものとなっている。今後は、車両の多様化に伴い交通安全標識や歩道等の整備を実施し安心・安全な暮らしの確保につなげていく必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林産物搬出の効率化、林道維持管理軽減及び安全な走行のためには当該事業は必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析が3.19と効率性が認められている。今後も必要な維持管理を適時行うことにより効率的に使用されると思われる。 ・有効性 森林整備への活用状況、地元住民による利用状況からみて有効な施設と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 125

事業名	林道舗装事業	都道府県	長崎県
地区名	富江玉之浦線	事業実施主体	富江町
関係市町村	長崎県南松浦郡富江町	管理主体	富江町
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	林産物搬出の効率化、維持管理軽減を図るため、平成5年度より平成8年度までふるさと林道緊急整備事業及び国庫補助事業により舗装をL=3,515m実施。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 120百万円 総費用(C) 93百万円 分析結果 1.29		
事業効果の発現状況	舗装完了後、路面洗掘等の被災は見られない。 舗装完了後、補修費等の管理費が軽減された。		
事業により整備された施設の管理状況	町が林道維持管理要項に基づき管理をしており、維持管理状況は良好である。年に1回町が単独で作業員を雇い草刈り、側溝清掃を実施している。		
事業実施による環境の変化	舗装後、自動車等の走行性の向上により森林へのアクセスが容易となったことで森林所有者の経営の意欲が高まった。		
社会経済情勢の変化	森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動の輸送が可能となった。また、高性能林業機械の導入により間伐材も容易に搬出できるようになった。また、林道沿線の牧草地の活用により農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。		
今後の課題等	木材価格の低迷等により森林整備が遅れている箇所があるため、今後保育作業の推進と林道の積極的活用をPRする必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 林産物搬出の効率化、林道維持管理軽減及び安全な走行のためには当該事業は必要である。 ・効率性 費用対効果の分析が1.29と効率性が認められている。今後も必要な維持管理を適時行うことにより効率的に使用されると思われる。 ・有効性 森林整備への活用状況からみて有効な施設と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 2 6

事業名	林道舗装事業	都道府県	長崎県
地区名	棹崎湊線	事業実施主体	上県町
関係市町村	上県町	管理主体	上県町
事業実施期間	H6～H8(3年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	林道舗装L=1,660m、W=4.0mを行うことにより、林産物搬出の効率化、及び路面補修等の維持管理費の軽減を図る。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果の試算結果は以下のとおりである。 総便益(B) 77百万円 総費用(C) 60百万円 分析結果 1.28		
事業効果の発現状況	路面洗掘等の、被災がなくなった。 完了後5年間に本林道を終点とする森林管理道(間伐林道)の整備が行われた。 平成7年～平成8年度で環境省が建設した、対馬野生動物保護センターへの道路として使用されている。		
事業により整備された施設の管理状況	上県町が林道維持管理要綱に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。 また、年に1回上県町開発公社に委託して草刈、側溝掃除等を行っている。		
事業実施による環境の変化	砂利道に比べ、軽トラックの走行性の向上、バイクの転倒等の安全性がたかまるなど、森林へのアクセスが容易になったことで、森林所有者の林業経営の意欲がさらに高まった。		
社会経済情勢の変化	本林道終点付近に、平成7年～平成8年度で環境省が、対馬野生動物保護センターを建設し、現在年間約12千人が訪れている。		
今後の課題等	本路線中間付近を終点とする林道が整備されたこともあり、森林所有者の森林整備や林業経営意欲が徐々に改善されているが、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、対馬野生動物保護センターへ行く一般車両も含め森林整備の重要性をPRする必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 価格低迷が続く林産物の品質向上、効率化に舗装が大きな役割を果たしており、当該事業は必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果の分析結果が1.28と効率性が認められている。今後必要な維持管理を適時に行うこと等により、効率的に使用されると思われる。 ・有効性 森林整備への活用状況、野生動物保護センターへの通行利用状況からみて、有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 127

事業名	林道舗装事業	都道府県	大分県
地区名	宇津尾木栗ヶ畑線	事業実施主体	犬飼町
関係市町村	大分県大野郡犬飼町	管理主体	犬飼町
事業実施期間	H元～H8（8年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>本林道は、犬飼町の北部を東西に縦断する林道で、昭和63年度に全線開通した。その後、林道の機能向上を図り、農山村地域の環境改善及び林業従事者の就業環境の改善を図るために、平成元年度より、舗装工 L=11579.48mを、事業費 232,660千円 で平成 8 年までの事業期間 8 年間で行った。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 503百万円 総費用（C） 332百万円 分析結果 1.52</p>
-----------------------	---

事業効果の発現状況	<p>林道の舗装により、主たる施業地までの到達時間が 8 分となり、整備前と比べ 4 割程度となり、就労条件の改善がなされた。</p> <p>移動の効率化に伴い、森林経営者の経営意欲が高まり、間伐、下刈り等適切な森林整備が行われている。</p> <p>町道宮脇・三ノ岳線の災害時には迂回路として利用され、安心・安全な生活の確保に寄与している。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>犬飼町が林道規程に基づき管理しており、維持管理状態は概ね良好である。草刈りの一部は、地元の林業研究グループに委託している。路面の舗装により、維持管理費が年間400千円程度削減されている。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>本地域で骨格的な役割を果たす林道を舗装したことにより、きめ細かな森林施業が実施され、健全な森林が育成されている。</p> <p>路面舗装により流出土砂が減少し、河川環境の改善が図れている。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併により、より効率的な労働力の投下が出来ようになった。</p> <p>通行の安全・快適性が図れたため、林道沿線に存在する三ノ岳なかよしパークの来場者が増加し、地域の活性化につながっている。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>一般車両の乗り入れが増大したために安全面についての細心の注意が必要になった。（山火事防止等の看板設置等）</p>
--------	---

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備だけでなく、集落間の連携、観光地へのアクセス道としても、大きな役割を果たしており、本事業は必要性不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.52と効率性が認められる。今後の維持管理費にあっても、必要な改良を行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の推進や維持管理経費の縮減とともに、地域住民の生活道路としての活用されおり、有効性が認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 128

事業名	林道舗装事業	都道府県	大分県
地区名	いたと 板戸線	事業実施主体	宇目町
関係市町村	大分県南海部郡宇目町	管理主体	宇目町
事業実施期間	H元～H8（8年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	大分県南部宇目町に位置する板戸山の周辺には、スギヒノキをはじめ森林資源が豊富に存在するが、地形が急峻であるために十分な路網が整備されていない。林道板戸線は、板戸山のふもとに位置し、唯一、周辺地域へアクセスが可能な道であり、その頻度は非常に高い。このため、林道の機能向上、林業従事者の就業環境の改善を目的に、林道の舗装を実施するものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。 総便益（B） 117百万円 総費用（C） 111百万円 分析結果 1.05		
事業効果の発現状況	本事業により林産物の輸送コストが約15%縮減した。 起点から終点までの走行時間が約10分間、主たる施業対象地までの到達時間においても約10分間の短縮が見られる。 草刈り等の維持管理費が約1,000千円の縮減ができた。 災害の発生が減少し、約1500千円が縮減できた。		
事業により整備された施設の管理状況	開設後より、宇目町が管理を行っているが、今後とも草刈り等の適正な維持管理を行って行く。		
事業実施による環境の変化	林道の舗装により、現場へのアクセス時間が短縮され、輸送コストも縮減されたことにより、森林所有者の経営意欲が高まり、間伐、下刈り等の森林整備が促進された。また、林道添いのエノハの養殖場においては、豪雨の際、林道の路面洗掘等による濁水の流入量が減少し、環境の改善がみられた。		
社会経済情勢の変化	地域の森林組合の施設が充実しつつあり、林産物の搬出が増加している。		
今後の課題等	本事業の実施により現場への通勤時間の短縮等、労働条件の改善が図られたが、今後、より一層のPRを行い、森林施業の効率化を図り、森林整備の推進を行う必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、林業従事者の労働条件の改善、効率的な流通網を整備していくためには必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.05と効率性が認められる。今後の維持管理費にあたっては、必要な改良を行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、施設の維持管理の縮減状況等から見て有効であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 2 9

事業名	林道舗装事業	都道府県	大分県
地区名	しみずのもと 清水の元線	事業実施主体	前津江村
関係市町村	大分県日田郡前津江村	管理主体	前津江村
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	前津江村柚木地区と村中心部である大野地区を結ぶ清水の元線は、林業経営の効率化、安定化に大きな役割を果たすとともに、両地区を最短距離で連絡している。そのため、本林道の舗装をすることにより、林道の機能向上を図り、地域の生活環境の改善及び就労環境の改善に資するため、4,173.97mを舗装した。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。 総便益（B） 184百万円 総費用（C） 132百万円 分析結果 1.39		
事業効果の発現状況	本事業の実施により起点から終点までの走行時間が約20分、主たる施業対象地までの走行時間も約20分縮減した。 草刈り等の維持管理費が約350千円程度縮減された。 本林道の通行台数が、一般利用も含めて、17000台程度増加した。		
事業により整備された施設の管理状況	完成後から前津江村が林道管理規程に基づき管理を行っている。今後とも、適正な管理を行っていく。		
事業実施による環境の変化	森林所有者が作業道等を開設する等、木材生産や森林整備に対する意欲の向上につながった。		
社会経済情勢の変化	この林道が整備されたことにより、間伐等の森林整備が積極的に実施されるようになるとともに、平成13年度に整備された集成材加工施設への木材の運搬、通勤等にも利用されている。 なお、近年、本村ではイノシシによる農産物への被害が甚大になっているが、その有害駆除等の際にも大いに役に立っている。		
今後の課題等	交通量の増加に伴い、カーブが急な部分においてカーブミラー等の安全施設を整備し、交通事故防止を行っていく必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備の基盤としてだけでなく、集落間の連携にも大きな役割を果たしており必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.39と効率性が認められる。今後の維持管理費にあたって、必要な改良を行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の活性化や維持管理経費の縮減とともに、地域住民の生活道路としての有効性が高く、有効な施設であると考えられる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 130

事業名	林道舗装事業	都道府県	大分県
地区名	鬼ヶ城台原線	事業実施主体	国見町
関係市町村	大分県東国東郡国見町	管理主体	国見町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	鬼ヶ城台原線は尾根をまたぎ国見町台原地区と深迫地区を連絡しており、周辺の森林施業に用いる林道として幹線的な役割を果たしている。また、大分市場に最短距離で連絡しているため、周辺地域の材の搬出経路として重要な役割を果たしている。このため、林道の機能向上、農山村地域の環境の改善及び林業従事者の就業環境の改善を目的に、既設林道を舗装するものである。		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は、以下のとおりである。 総便益（B） 46百万円 総費用（C） 42百万円 分析結果 1.10		
事業効果の発現状況	起点から終点まで、主たる施業対象地までの時間がいずれも約5分ほど短縮された。 草刈り、路面修繕等の維持管理費が約500千円ほど短縮された。 地域住民の生活道としての利用が高まり、年間約4000台ほどが利用するようになった。		
事業により整備された施設の管理状況	開設後から国見町において維持管理しているが、現在年2回程度の除草作業等行い適切に管理されている。		
事業実施による環境の変化	山林内に容易に入ることができるようになり、森林所有者による間伐等の森林整備が実施されるようになっている。		
社会経済情勢の変化	本線の沿線には温泉宿泊施設が隣接しており、路線整備により観光客の往来が容易となり、観光振興が図られている。		
今後の課題等	一般の通行も認められたため、法面保護工、安全施設工を設置し、車両の通行の安全を図る必要がある。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備だけでなく集落間の連携、地元の産業の活性化にも大きな役割を果たしており、評価も高く必要性不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.10と効率性が認められる。今後の維持管理費にあたって、必要な改良を行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備の推進や維持管理経費の縮減とともに、地域住民の生活道路としても有効性が高いと認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3-131

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	おおいしこし 大石越線	事業実施主体	五ヶ瀬町
関係市町村	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町	管理主体	五ヶ瀬町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間

事業の概要・目的	<p>広域基幹林道大石越線は、五ヶ瀬町の坂本地区から大石地区を経て荒谷地区とを結ぶ総延長15,999m、利用区域面積1,360haの林道である。本林道は、林業生産の基盤、地域住民の生活道、緊急時の迂回路、森林の総合利用のアクセス道等として重要な役割を果たしている。</p> <p>当該事業は、本林道の利用者の利便性の向上及び安全性の確保、地域における適切な森林整備と山村振興を目的に、五ヶ瀬町が平成4年度から8年度に実施したものである。</p>
----------	--

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 567百万円 総費用（C） 285百万円 分析結果 1.99</p>
-----------------------	--

事業効果の発現状況	<p>三ヶ所坂本地区から鞍岡荒谷地区までの到達時間が20分となり、整備前に比べて5割程度となった。</p> <p>災害復旧経費について、整備前と整備後の5カ年を比較すると約4千5百万円程度抑制されており、大幅な経費節減が図られている。</p> <p>山菜、新緑、紅葉と年間を通じて森林空間利用目的の通行者が多く見受けられ、事業実施後はその数がさらに増加している。</p> <p>「九州発祥の地」と言われる祇園山と揺岳の山間を通過する路線であり、登山者の利用が増加している。また、路線内の大石越では山開きの行事が行われ、大型バスでの登山者も増加している。</p> <p>完了後5年間に本林道を起点として、作業道等4路線の整備が行われてきている。</p>
-----------	---

事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、五ヶ瀬町が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況は良好である。また、地元住民による草刈りや側溝掃除等が年に1～2回は実施されている。</p>
-------------------	--

事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、舗装後は短時間での集落間の移動が可能となり、地域生活の利便性が大きく向上した。また、森林空間利用を目的とした林道利用者が大幅に増加し、都市と山村の交流が促進されている。</p>
--------------	--

社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴い西臼杵管内での労働力の効率的な配分が可能となったほか、林産物の生産や輸送が効率的に行えるようになった。また、森林浴を求める都会の人々の利用が増え、林道沿線の集落では「村おこし」や都市との交流等地域の活性化が図られている。</p>
-----------	---

今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えない状況であり、積極的な取組の啓発が必要である。</p> <p>また、森林空間利用の目的での林道利用者が増加するにつれて、山林へのゴミの投棄、林産物の盗掘等が増えていることから、利用マナーの普及啓発が必要である。</p>
--------	--

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.99と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。
------	--

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 132

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	森山線	事業実施主体	延岡市
関係市町村	延岡市	管理主体	延岡市
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>舗装することによって交通の安全確保が図り、維持管理を容易にするため。</p> <p>舗装工 延長5,736m 174,435,000円</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 335百万円 総費用（C） 266百万円 分析結果 1.26</p>		
事業効果の発現状況	<p>北川町から北浦町までの到達時間が20分となり、整備前に比べて8割程度となった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、延岡市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、年に1回（8月頃）には、草刈りや側溝掃除等を実施している。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業経営意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。</p> <p>また、北川町北浦町では、本整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林施行に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、林道沿線の牧草地等の活用、農畜産業の振興にも大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p> <p>また、林道沿線への家庭電化製品等の不法投棄が行われていることから、防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.26と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 133

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	登尾線	事業実施主体	北郷村
関係市町村	北郷村	管理主体	北郷村
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>舗装整備することにより、交通の安全確保が図られ、維持管理も容易にできるため。</p> <p>舗装延長 1,036m 28,000,000円</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 45百万円 総費用(C) 38百万円 分析結果 1.18</p>		
事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの到達時間が短縮され、森林へのアクセスが容易となった。</p> <p>本路線は、道路勾配がきつく、降雨後には路面が荒れて補修作業が1週間から10日程度かかっていたが、舗装により路面が安定し、降雨後の整備が容易になった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は北郷村が維持管理しており、状況はおおむね良好である。また、年に1回(7月頃)には、計画的に村で草刈りや側溝清掃等が実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、舗装したことにより、濁水の発生が減少した。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林施業に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.18と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 134

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	坂元線	事業実施主体	北郷村
関係市町村	北郷村	管理主体	北郷村
事業実施期間	H7～H8(2年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>舗装整備することにより、交通の安全確保が図られ、維持管理も容易にできるため。</p> <p>舗装延長 880m 22,000,000円</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 36百万円 総費用(C) 30百万円 分析結果 1.20</p>		
事業効果の発現状況	<p>起点から終点までの到達時間が短縮され、森林へのアクセスが容易となった。</p> <p>本路線は、道路勾配がきつく、降雨後には路面が荒れて補修作業が1週間から10日程度かかっていたが、舗装により路面が安定し、降雨後の整備が容易になった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は北郷村が維持管理しており、状況はおおむね良好である。また、年に1回(7月頃)には、計画的に村で草刈りや側溝清掃等が実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、森林所有者の林業意欲が高まったほか、高齢者でもバイクや軽四で現場へ行けることから、きめ細かな森林の手入れができるようになった。また、舗装したことにより、濁水の発生が減少した。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林施業に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となった。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されてきているが、木材価格の低迷等により、未だ十分とは言えず、必要な間伐等が行われていない林分も存することから、積極的な活用についてPRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.20と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 135

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	横瀬口線	事業実施主体	北浦町
関係市町村	北浦町	管理主体	北浦町
事業実施期間	S63～H8（9年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	舗装整備することにより、交通の安全確保が図られ、維持管理も容易にできるため。 舗装延長 7,401m 156,220,000円		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 300百万円 総費用（C） 253百万円 分析結果 1.19		
事業効果の発現状況	森林へのアクセスが改善され、保育施業等が適宜実施されている。 安全な通行が確保された。 路盤の洗掘による災害が常時発生していたが、舗装と併せて排水施設が整備され、災害発生が減少した。		
事業により整備された施設の管理状況	町で維持管理している。		
事業実施による環境の変化	開設後、例年通行不能となる事態を生じていたが、近年は発生していない。維持管理上も安定している。		
社会経済情勢の変化	当該林道を整備したことで、町外からの入山者が増加した。		
今後の課題等	適切な維持管理を継続していくこと。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等行うために、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果が1.19と効率性が認められる。道路の勾配が急で、年間降水量が多いため定期的に路面が流出しているが、今後も通行の安全の確保し、林道施設の有効利用を図るためにも効率的に実施していくこととする。 ・有効性 路盤の洗掘による災害が常時発生していたが、舗装と併せて排水施設が整備され、災害発生が減少したことから有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 136

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	椎葉・五家荘線	事業実施主体	椎葉村
関係市町村	椎葉村	管理主体	椎葉村
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	森林整備のコスト削減及び利用者の利便性を図る。 舗装延長 4,039m 106,836,000円		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 118百万円 総費用（C） 113百万円 分析結果 1.04		
事業効果の発現状況	人家戸数も多く、急勾配であるため、移動時間短縮など大変効果的であった。 村有林、民有林等森林整備が盛んな地域であって、間伐等の作業へのアクセスが容易になった。		
事業により整備された施設の管理状況	椎葉村が維持管理を行っており、管理状況としてはおおむね良好である。集落内は側溝清掃、草刈りを年2回、地域の人々がボランティアで行っている。 ただし、集落外の終点側6.9kmについては森林組合に整備を依頼して管理している状況で特徴的なのが、当地は冬場が積雪が多く、村の重機により、度々除雪を行っている。		
事業実施による環境の変化	舗装が整備されたことにより、森林へのアクセスが容易になった。また、渓流釣りが有名などところで全面舗装となったことで利便性が増し、県外からの釣り客が増加してきた。		
社会経済情勢の変化	舗装が整備されたことにより、熊本県泉村との交流の場が増え、人の流れが若干ながら変わってきた。		
今後の課題等	長引く不況の影響で住宅建設等の需要が落ち込み、外国産材の流入で木材価格が低迷を続けている。また、林業従事者についても、後継者不足から減少の一途をたどっており、これらの対策として林業機械を活用した低コストで効率的な作業システムを確立しながら林家離れに歯止めをかける対策が急務である。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林管理をしなくなることは結果的に、山林荒廃を招き、その影響は下流域の都市部へ波及する。森林管理には林道の整備が必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.04と効率性が認められる。林道舗装は移動時間の短縮を図ることができる最良の施策であるといえる。また、地域間の交流にも大きく影響を与え、広域的産業圏の形成が図れる。 ・有効性 舗装事業は森林整備、地域間交流、特用林産等生産の観点から、有効な施策と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 137

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	現在谷線	事業実施主体	椎葉村
関係市町村	椎葉村	管理主体	椎葉村
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	森林整備のコスト削減及び利用者の利便性を図る。 舗装延長 2,270m 67,899,000円		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。 総便益（B） 83百万円 総費用（C） 71百万円 分析結果 1.17		
事業効果の発現状況	平成5年災で法面が崩壊した災害が発生し、しばらくの間、全面通行止めとなり、迂回を余儀なくされた。		
事業により整備された施設の管理状況	椎葉村が維持管理を行っており、管理状況としてはおおむね良好である。地形的にも山の頂上付近を通過しているため、溪流等の氾濫による影響は少ない。しかし、土質は脆弱で年6回ほど村のオペレーターによる小規模落石等の除去を行っている。また、年2回、起・終点に位置する集落の人々がボランティアで側溝清掃や草刈りをして管理に協力してくれている。		
事業実施による環境の変化	舗装が整備されたことにより、集落間の交流が盛んになった。また、森林整備についても山林所有者が移動手段として主にバイクを使用される方がいるため、下刈作業等への移動に容易になった。		
社会経済情勢の変化	当地区の林道整備を進めた結果、沿道に村の特用林産物であるしいたけのほた場が数多くでき、効率的な収穫が可能になった。		
今後の課題等	長引く不況の影響で住宅建設等の需要が落ち込み、外国産材の流入で木材価格が低迷を続けている。また、林業従事者についても、後継者不足から減少の一途をたどっており、これらの対策として林業機械を活用した低コストで効率的な作業システムを確立しながら、林家離れに歯止めをかける対策が急務である。		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 適切な森林整備の可否は、下流域の都市部へも影響するため、その基盤となる当該事業は必要不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.17と効率性が認められる。また、林道舗装は移動時間の短縮を図ることができる最良の施策であり、地域間の交流にも大きく影響を与えることから効率性も高い。 ・有効性 舗装事業は森林整備、地域間交流、特用林産等生産の観点から、有効な施策と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 138

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	尾八重・銀鏡線	事業実施主体	西都市
関係市町村	西都市	管理主体	西都市
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>舗装整備することにより、交通の安全確保が図られ、維持管理も容易にできるため。</p> <p>舗装延長 1,643m 33,000,000円</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 53百万円 総費用(C) 43百万円 分析結果 1.23</p>		
事業効果の発現状況	<p>尾八重集落から打越集落までの到達時間が舗装整備前と比べ3分短縮になった。 林産物搬出車等の安全性が向上した。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、西都市が林道管理規程に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。また、地元の林道整備協力会にお願いして、年2回程度草刈や側溝清掃等が実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易になり、高齢者及び市外森林所有者もバイクや自家用車で現場へ行けることから、きめ細かい森林の手入れができるようになった。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>整備した林道の沿線に、県指定の天然記念物「有楽椿」があり、市内外から観光客が訪れるため、観光振興にも大きな役割をはたしている。</p>		
今後の課題等	<p>不特定多数の人がこの林道利用するため、山林に自生している貴重な花木等が盗掘されるようになったため防止策を講ずる必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効率的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が1.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効果的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な整備と認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 139

事業名	林道舗装事業	都道府県	宮崎県
地区名	花立高原線	事業実施主体	北郷町
関係市町村	北郷町	管理主体	北郷町
事業実施期間	H6～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>舗装整備することにより、交通の安全確保が図られ、維持管理も容易にできるため。</p> <p>舗装延長 1,471m 38,651,000円</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 61百万円 総費用（C） 55百万円 分析結果 1.11</p>		
事業効果の発現状況	<p>本路線は、町道間に位置し山仮屋地区と町中心部を結び到着時間が、大きく短縮された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、北郷町の林道管理規定に基づき管理しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>観光施設（花立公園）・森林へのアクセスが容易になり、山仮屋地区では、これまで県道一本に依存していたが、本林道の整備により安心・安全な暮らしの確保につながっている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併に伴う労働力の効率的な移動や地域産物の輸送が可能となったほか、花立公園・山仮屋地区とのアクセスの活用にも大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>森林所有者の森林整備の取組や林業経営意欲が徐々に改善されいていると思われるが、木材価格の低迷等により、まだ十分とはいえず、必要な間伐等が行われていない林分も多くみられ積極的な活用についてもPRする必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 木材価格の低迷等が続く中で、効果的・効果的な森林整備、木材生産等を行うためには、基幹となる林道の整備が不可欠である。 ・効率性 費用対効果分析の結果が、1.11と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良を適時に行うこと等により効率的に実施していくこととしている。 ・有効性 森林整備へ活用状況、山村住民による利用状況等からみて有効な施設であるとみとめられる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 140

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	うしろやま 後山線	事業実施主体	加世田市
関係市町村	鹿児島県加世田市	管理主体	加世田市
事業実施期間	H2～H8（7年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 4,728m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 189百万円 総費用（C） 156百万円 分析結果 1.21</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道走行性の向上により林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業従事者の林業労働の軽減が図られた。</p> <p>利用区域内森林において保育や間伐等の森林整備が延べ40ha実施されるなど、森林整備の実行率が向上している。</p> <p>路面の洗掘等に要する維持管理経費が軽減された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>加世田市が管理主体となり、林道の清掃や補修等を委託により実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性が向上し、林業労働力の効率的な移動や林産物の運搬コストの軽減が図られるようになったことから、より効率的な森林施業や林業生産活動を実施するための基盤が整備された。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬コストの軽減が図られ、また、林道走行の快適性が向上したことから、高齢者がバイク等で容易に施業が必要な森林に到達することができるようになったことから、利用区域内森林に係る森林整備の実行率が向上している。</p> <p>また、森林を保健休養の場として利用する者が増加している。</p>		
今後の課題等	<p>人工林が成熟期を迎える中、木材価格は依然として低迷しており、森林所有者の施業意欲が向上しない状況にあることから、林業生産性の向上に係るPRを行い、施業意欲を向上させる必要がある。また、一方では、長伐期施業による森林の整備や管理を検討する必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な森林整備や林業生産活動の実施、地域住民の利便性の確保を行う上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.21と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な補修等を実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民等による利用状況からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 141

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	小永吉線	事業実施主体	吹上町
関係市町村	鹿児島県吹上町	管理主体	吹上町
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 3,557m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 138百万円 総費用（C） 101百万円 分析結果 1.37</p>		
事業効果の発現状況	<p>施業を必要とする森林への到達時間や路線通過時間が短縮され、効率的な森林整備や林産物等の運搬が行えるようになり、林業生産コスト等の低減が図られた。</p> <p>路面洗掘等の補修に要する維持管理経費が低減した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が可能となり、利用区域内森林の間伐等森林整備の実施率が向上している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は吹上町が管理規程を定めて路肩や法面の草刈り、側溝掃除を業務委託により実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>舗装道路になり普通乗用車でも林道の通行が容易となったため、森林を保健休養の場として利用する者の入林が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併により広域的な林業労働者の確保が出来るようになり、保育や間伐等森林整備の取り組みは強化されつつある。</p>		
今後の課題等	<p>道路の舗装により、保育や間伐等森林施業の必要な森林へのアクセスは格段に容易となったが、木材価格の低迷等により、間伐等の森林整備が遅れている森林もあることから、今後とも森林整備の積極的な実施に係るPRを行う必要がある</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬、林道の維持管理経費の縮減を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.37と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 142

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	もんぜんたらざこ 門前鋤迫線	事業実施主体	金峰町
関係市町村	鹿児島県金峰町	管理主体	金峰町
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 4,410m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 174百万円 総費用（C） 145百万円 分析結果 1.20</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が10%上昇した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道を生活道路として利用する地域住民が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、平成11年に制定した金峰町林道管理条例に基づき金峰町が年2回の草刈りや側溝清掃等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林へのアクセスが容易となり森林所有者の施業意欲が高まった。 また、観光資源である金峰山へのアクセス道路として活用が図られるなど、森林施業以外への利用形態が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>森林組合の合併により広域的な林業労働者の確保が行えるようになり、保育や間伐等森林整備の取り組みは強化されつつある。</p>		
今後の課題等	<p>道路の舗装により保育や間伐等の森林整備を必要とする森林へのアクセスは格段に短縮されたが、木材価格の低迷等により間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、今後とも積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な森林整備の実施や林産物等の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.20と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な補修を実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 4 3

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	川床線	事業実施主体	東町
関係市町村	鹿児島県東町	管理主体	東町
事業実施期間	H元～H8（8年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道は急勾配や曲線半径の小さい箇所が多く、降雨時に路面洗掘等による通行の支障とその補修が必要であったことから、林道の利便性の向上と維持管理経費の縮減を図ることを目的として林道の舗装を行ったものである。</p> <p>舗装延長 3,374m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 143百万円 総費用（C） 118百万円 分析結果 1.21</p>		
事業効果の発現状況	<p>降雨等による路面洗掘が防止され、林道通行の支障の解消と維持管理経費の縮減が図られた。</p> <p>林道の走行性が向上し、森林施業を必要とする森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境の改善が図られている。</p> <p>林道の走行性の向上により、効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬が行われ、林業生産活動等のコスト縮減に繋がっている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>通常の維持管理については地域住民が実施し、災害発生時には、災害復旧事業による機能回復が図られており、適切な維持管理が行われている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬が行えるようになり、林業生産性が向上したことから、森林整備を実施した森林が増加している。また、森林を保健休養の場として利用する者が増加しており、森林の有する公益的機能の高度発揮がなされつつある。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林業従事者の就業環境の改善が図られ、林産物等の効率的な運搬が行えるようになったことから林業生産性が向上し、間伐等森林整備の実施率が向上している。</p>		
今後の課題等	<p>間伐等森林整備の実施率は徐々に向上してきているが、木材価格の低迷等から未だに必要な間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住人の生活環境の改善等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.21と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 4 4

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	横尾岳線	事業実施主体	鹿屋市
関係市町村	鹿児島県鹿屋市	管理主体	鹿屋市
事業実施期間	S48～H8（22年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 10,687m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 547百万円 総費用（C） 443百万円 分析結果 1.23</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が10%上昇した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道を生活道路として利用する地域住民が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は鹿屋市が林道沿線に発生する竹や雑草の除去、側溝清掃等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p> <p>なお、地元少年団の親子のボランティアによる草刈り等も実施されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p> <p>また、林道の中間点付近に展望台があり、地元少年団によるアジサイの植栽や桜、ツツジの開花シーズンに行楽客が多数訪れるなど、林業以外への利用形態も増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬による林業生産性の向上、林道沿線に存する茶農家等の産業振興にも大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>木材価格の低迷等から必要な間伐等森林整備が遅れている森林が見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p> <p>また、林道利用者の増加に伴い林道通行マナーの低下が見受けられることから、マナー向上に資する普及啓発を行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 145

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	おおさこ 大迫線	事業実施主体	大根占町
関係市町村	鹿児島県大根占町	管理主体	大根占町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 2,849m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 138百万円 総費用（C） 115百万円 分析結果 1.20</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が向上した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道を生活道路として利用する地域住民が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は大根占町が林道沿線に発生する竹や雑草の除去、側溝清掃等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p> <p>また、林道終点付近には神川大滝公園が存しており、桜やツツジの花見や森林浴等に訪れる行楽客による利用が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬による林業生産性の向上が図られたとともに、林道沿線における大根の栽培や県内1の生産額を誇る葉たばこ農家等の生産性の向上が図られるなど、地域の産業振興に大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>木材価格の低迷等により間伐等森林整備のが遅れている森林が見受けられることから、施業団地の集団化等を推進ししつつ積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬、林業従事者の就労環境や地域住民の生活環境の改善等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.20と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民等の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 1 4 6

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	新田線	事業実施主体	田代町
関係市町村	田代町	管理主体	田代町
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 2,880m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 150百万円 総費用（C） 116百万円 分析結果 1.29</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が向上した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>当路線沿線において特定保安林整備緊急治山事業等、他事業による森林整備にも活用されている。</p> <p>当林道の近隣に存する花瀬公園に訪れる行楽客等にも活用されており、一般車両の利用が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は田代町が林道沿線に発生する竹や雑草の除去、側溝清掃等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬による林業生産性の向上が図られたとともに、林道沿線における大根の栽培や県内1の生産額を誇る葉たばこ農家等の生産性の向上が図られるなど、地域の産業振興に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、林道の維持管理については、路面洗掘等に起因する維持管理経費が縮減された。</p>		
今後の課題等	<p>木材価格の低迷等により間伐等森林整備のが遅れている森林が見受けられることから、施業団地の集団化等を推進しつつ積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬、林業従事者の就労環境や地域住民の生活環境の改善等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.29と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民等の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 147

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	岳野山線	事業実施主体	有明町
関係市町村	鹿児島県有明町	管理主体	有明町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 1,629m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 163百万円 総費用（C） 134百万円 分析結果 1.22</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が向上した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道を生活道路として利用する地域住民が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は有明町が沿線の除草や側溝掃除等を実施しつつ管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性の向上等により自家用車やバイクでの森林へのアクセスが容易となったことから、高齢者や不在村森林所有者（都市部在住）の林業経営意欲が高まり、間伐等の遅れている森林の森林整備が推進されてきている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>木材価格は依然として低迷しているが、林道整備に伴い効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬が可能となり、林業生産コストの低減が図られことから採算性が向上し、主伐や間伐、植栽（単層林）などが促進されつつある。</p>		
今後の課題等	<p>森林整備を推進するためには、林業生産性の向上等についてPRを行いつつ、森林所有者の林業経営意欲を高めることが必要である。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.22と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 148

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	文字ヶ岡線	事業実施主体	霧島町
関係市町村	鹿児島県霧島町	管理主体	霧島町
事業実施期間	H7～H8（2年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 1,140m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 58百万円 総費用（C） 40百万円 分析結果 1.45</p>		
事業効果の発現状況	<p>路面洗掘等による林道通行の支障が解消され、林道の維持管理経費が縮減された。</p> <p>林道の走行性の向上により効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬が可能となり、林業生産コストが縮減されたことから、間伐対象森林（人工林～齢級）に占める間伐等森林整備の実施率が47%と向上している。</p> <p>林業従事者の就業環境の改善が図られ、高齢者等でも容易に施業の必要な森林にアクセスできるようになったことから植栽や下刈等の保育施業の実施が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は霧島町が林道管理条例に基づき定期的に草刈りや側溝掃除等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性が向上し、施業が必要な森林への到達時間が短縮されたこと、林道走行の快適性が向上したことにより、普通乗用車やバイクでの通行が容易となったこと等から、高齢者や不在村森林所有者（都市部在住）の林業経営意欲が高まり、間伐等の森林整備が推進されつつある。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>原木価格が依然として低迷している中であって、効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬等が可能となり、また、林業従事者の就業環境の改善が図られ、林業生産性が向上したことから、主伐や間伐、植栽等の森林施業の実施率が向上し、林業生産活動の活性化が推進されつつある。</p>		
今後の課題等	<p>当林道の利用区域に隣接する森林（16、19林班）についても作業路等を整備し、利用区域内の未施業森林と一体的に施業が実施ができるよう施業団地の集団化等を計画する必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.45と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 149

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	おおおか 大岡線	事業実施主体	薩摩町
関係市町村	薩摩町	管理主体	薩摩町
事業実施期間	H5～H8（4年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 1,911m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 100百万円 総費用（C） 74百万円 分析結果 1.35</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が向上した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道沿線の竹林では、早掘タケノコの生産も始まった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は薩摩町が整備し町で管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性が向上し、施業が必要な森林への到達時間が短縮されたこと、林道走行の快適性が向上したことにより、普通乗用車やバイクでの通行が容易となったこと等から、高齢者や不在村森林所有者（都市部在住）の林業経営意欲が高まり、間伐等の森林整備が推進されつつある。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>効率的な資材等の運搬が可能となり、運搬経費の縮減が図れたこと等から、森林整備の推進のほか、林道沿線に存する竹林において早掘タケノコの生産も始まり、農林家の所得向上への意欲が高まっている。</p>		
今後の課題等	<p>間伐等森林整備の実施率は徐々に向上してきているが、木材価格の低迷等から未だに必要な間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.35と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 150

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	遠目木線	事業実施主体	上甕村
関係市町村	鹿児島県上甕村	管理主体	上甕村
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道の林道走行性の向上を図りより効率的な森林整備の実施と、地域住民の利便性の向上、林道維持管理経費の軽減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 5,272m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 245百万円 総費用（C） 203百万円 分析結果 1.21</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道の走行性が向上し、施業を必要とする森林への到達時間が短縮されたことから森林所有者の森林施業に対する意欲が向上し、保育や間伐の実施率が向上した。</p> <p>林業労働力の効率的な移動が行えるようになり、林業労働の軽減が図られた。</p> <p>林道から集材路等の路網整備が行われ、適切な維持管理が行われている森林面積が徐々に増えている。</p> <p>林道を生活道路として利用する地域住民が増加している。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は上甕村が整備し村で管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性が向上し、施業が必要な森林への到達時間が短縮されたこと、林道走行の快適性が向上したことにより、普通乗用車やバイクでの通行が容易となったこと等から、高齢者や不在村森林所有者（都市部在住）の林業経営意欲が高まり、間伐等の森林整備が推進されつつある。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>原木価格が依然として低迷している中であって、効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬等が可能となり、また、林業従事者の就業環境の改善が図られ、林業生産性が向上したことから、主伐や間伐、植栽等の森林施業の実施率が向上し、林業生産活動の活性化が推進されつつある。</p> <p>また、地域住民の生活環境等においては、村管理の産廃処分場へ通じる道路でもあり、生活環境の維持・改善及び地域産業においても大きな役割を果たしている。</p>		
今後の課題等	<p>間伐等森林整備の実施率は徐々に向上してきているが、木材価格の低迷等から未だに必要な間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.21と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 151

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	立石線	事業実施主体	東町
関係市町村	鹿児島県東町	管理主体	東町
事業実施期間	H2～H8（7年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道は急勾配や曲線半径の小さい箇所が多く、降雨時に路面洗掘等による通行の支障とその補修が必要であったことから、林道の利便性の向上と維持管理経費の縮減を図ることを目的として林道の舗装を行ったものである。</p> <p>舗装延長 3,756m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 206百万円 総費用（C） 168百万円 分析結果 1.23</p>		
事業効果の発現状況	<p>降雨等による路面洗掘が防止され、林道通行の支障の解消と維持管理経費の縮減が図られた。</p> <p>林道の走行性が向上し、森林施業を必要とする森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境の改善が図られている。</p> <p>林道の走行性の向上により、効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬が行われ、林業生産活動等のコスト縮減に繋がっている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本路線は地形が急峻で脆弱な地質である立地条件に開設されているが、町が適切に管理しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>原木価格が依然として低迷している中であって、効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬等が可能となり、また、林業従事者の就業環境の改善が図られ、林業生産性が向上したことから、主伐や間伐、植栽等の森林施業の実施率が向上し、林業生産活動の活性化が推進されつつある。</p>		
今後の課題等	<p>間伐等森林整備の実施率は徐々に向上してきているが、木材価格の低迷等から未だに必要な間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 152

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	城ヶ平線	事業実施主体	上屋久町
関係市町村	鹿児島県上屋久町	管理主体	上屋久町
事業実施期間	H4～H8（5年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>当林道は、町道「香附子線」上屋久町宮之浦を起点とし、同地区の町道「宮之浦循環線」に連絡する線形であり、林業・林産物への活用のみならず多数の一般車輛の通行があることから、これらの利便性の向上と維持管理経費の縮減を目的として林道の舗装を実施したものである。</p> <p>舗装延長 3,537m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 215百万円 総費用（C） 155百万円 分析結果 1.39</p>		
事業効果の発現状況	<p>降雨等による路面洗掘が防止され、林道通行の支障の解消と維持管理経費の縮減が図られた。</p> <p>林道の走行性が向上し、森林施業を必要とする森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境の改善が図られている。</p> <p>林道の走行性の向上により、効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬が行われ、林業生産活動等のコスト縮減に繋がっている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は上屋久町が沿線の除草や側溝掃除等を実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>原木価格が依然として低迷している中であって、効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬等が可能となり、また、林業従事者の就業環境の改善が図られ、林業生産性が向上したことから、主伐や間伐、植栽等の森林施業の実施率が向上し、林業生産活動の活性化が推進されつつある。</p> <p>また、林道整備に伴い、森林を森林浴等の保健休養の場として利用する者が増加している。</p>		
今後の課題等	<p>本路線は宮之浦地区内に存しており、一般の歩行者や車両の通行量が増加傾向にあるため、安全で利便性の高い林道として維持管理されるよう努める必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.39と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 153

事業名	林道舗装事業	都道府県	鹿児島県
地区名	ほま母間線	事業実施主体	徳之島町
関係市町村	鹿児島県徳之島町	管理主体	徳之島町
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>既設林道は急勾配や曲線半径の小さい箇所が多く、降雨時に路面洗掘等による通行の支障とその補修が必要であったことから、林道の利便性の向上と維持管理経費の縮減を図ることを目的として林道の舗装を行ったものである。</p> <p>舗装延長 1,484m</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 102百万円 総費用（C） 83百万円 分析結果 1.23</p>		
事業効果の発現状況	<p>降雨等による路面洗掘が防止され、林道通行の支障の解消と維持管理経費の縮減が図られた。</p> <p>林道の走行性が向上し、森林施業を必要とする森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境の改善が図られている。</p> <p>林道の走行性の向上により、効率的な林業労働力の移動や林産物等の運搬が行われ、林業生産活動等のコスト縮減に繋がっている。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当林道は、整備後、徳之島町により適切な管理が行われており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>森林施業の必要な森林への到達時間が短縮され、林業従事者の就業環境が改善されるとともに、効率的な林産物の運搬等が行えるようになり、林業生産性が向上している。</p> <p>このことから、間伐等の森林整備の実施率が向上し、適切な維持管理がなされている森林が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>原木価格が依然として低迷している中であって、効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬等が可能となり、また、林業従事者の就業環境の改善が図られ、林業生産性が向上したことから、主伐や間伐、植栽等の森林施業の実施率が向上し、林業生産活動の活性化が推進されつつある。</p> <p>また、地域住民の高齢化が進む中、訪問看護車両等の医療用車両や地域住民が生活道として活用する傾向が増加している。</p>		
今後の課題等	<p>間伐等森林整備の実施率は徐々に向上してきているが、木材価格の低迷等から未だに必要な間伐等の森林整備が遅れている森林も見受けられることから、積極的な森林整備の実施に係るPRを行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な林業労働力の移動や林産物の運搬、林業従事者の就業環境や地域住民の生活環境の改善、林道の維持管理経費の縮減等を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が1.23と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な補修等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況や地域住民の利用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 154

事業名	林道舗装事業	都道府県	沖縄県
地区名	エーガイ線	事業実施主体	大宜味村
関係市町村	沖縄県大宜味村	管理主体	大宜味村
事業実施期間	H6～H8（3年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>本路線は、昭和59年度～平成元年度に開設された延長3,251m、幅員4.0mの林道であり、当初砂利道として整備された。</p> <p>その後、林道の機能向上を図り、林業従事者の就業環境や農山村地域における生活環境の改善に資するため、既設林道の舗装を実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 329百万円 総費用（C） 93百万円 分析結果 3.54</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道舗装により走行性が向上し、林業労働力の移動や林産物の運搬等が効率的になるとともに、林業従事者等の就業環境が改善された。</p> <p>当該林道沿線の集落間のアクセス時間が短縮され、地域住民の生活環境が改善された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>当該林道は平成11年度に村道へと編入され、大宜味村によって良好に管理されている。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性の向上により、利用区域内の森林整備が従前よりも積極的に実施されるようになった。</p> <p>林道終点付近において、従前からダムの建設工事が実施されており、工事用車両等の通行により林道に轍等が形成されるなどにより走行性が悪かったが、舗装後においては良好な走行性が確保されるとともに、林道の維持経費の縮減にもつながっている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>また、林道沿線には、良好な眺望や特異な自然植生のあるネクマチチ岳と塩屋富士があり、林道の走行性の向上により自然とのふれあいを求めて森林に入り込む者が増加している。</p>		
今後の課題等	<p>森林整備については、積極的な実施が行われつつあるが、林業・林産業をとりまく厳しい諸情勢から、未だに森林整備が遅れている森林も見受けられる。このため、積極的な森林整備の実施に係る啓発普及を行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林の有する機能を高度に発揮させるための森林整備を行う上で、その基幹となる林道の整備は必要不可欠である。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が3.54と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良等を適時に実施する等により効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備への活用状況、地域住民等の利用状況、林業以外の事業における活用状況等からみて有効性が認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 155

事業名	林道舗装事業	都道府県	沖縄県
地区名	瀬嵩線	事業実施主体	名護市
関係市町村	沖縄県名護市	管理主体	名護市
事業実施期間	H3～H8（6年間）	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>瀬嵩林道は、東側海岸沿いの国道331号線名護国頭線瀬嵩を起点として、島のほぼ中央部の市道多野岳線を終点として昭和32年度から52年度にかけて開設された延長8,885m、幅員4.0mの林道である。 当初は砂利道で開設され、機能の向上と維持管理費の軽減を目的として舗装事業を実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益（B） 403百万円 総費用（C） 196百万円 分析結果 2.06</p>		
事業効果の発現状況	<p>森林組合作業班の効率的な移動や地域産物の輸送が可能になったほか、林道沿線の森林整備にも大きな役割を果たしている。</p> <p>瀬嵩集落から仲尾次集落までの到達時間が30分となり、整備前に比べて6割程度となった。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道の日常的な管理は名護市が実施しており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>林道の走行性の向上から効率的な森林整備が行えるようになった。 また、林道終点付近には、多野岳いこいの村の宿泊施設やレクリエーション施設、名護市のログハウス、キャンプ場があり、これまでも利用されてきたところであるが、林道の走行性の向上により、利用者が増加している。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林道沿線には、障害者授産施設があり、職員や入所者の通勤、関係者の訪問において利用しやすい林道になったと好評である。</p>		
今後の課題等	<p>森林の有する公益的機能を高度に発揮させるため、除間伐等の森林整備が必要であり、森林所有者の森林整備への取組や林業経営意欲が一層高まるよう工夫する必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 効率的な森林整備の実施や地域住民の生活環境の改善、林道維持管理経費の削減を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.06と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、必要な改良や補修を適時に実施しつつ、効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林整備のみならず、通勤、保養施設へのアクセスに利用されており、市民にとっても有効な施設であると認められる。 		

完了後の評価個表

整理番号 森3 - 156

事業名	林道舗装事業	都道府県	沖縄県
地区名	万勢山支線	事業実施主体	石垣市
関係市町村	石垣市	管理主体	石垣市
事業実施期間	H8(1年間)	完了後経過数年	5年間
事業の概要・目的	<p>本路線は、昭和63年度～平成元年度に開設された延長1,786m、幅員4.0mの林道で、当初砂利道として整備された。</p> <p>その後、林道の機能向上を図り、林業従事者の就業環境や農山村地域の生活環境の改善に資するため既設林道の舗装を実施したものである。</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の試算結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益(B) 91百万円 総費用(C) 42百万円 分析結果 2.17</p>		
事業効果の発現状況	<p>林道沿線には、森林組合の木炭生産施設や苗木生産施設があり、林道整備により大型車の乗り入れが可能となったことから活発な林業経営が行われている。</p> <p>林道の敷き砂利等の維持管理経費が縮減された。</p>		
事業により整備された施設の管理状況	<p>林道の管理は、石垣市が一部を森林組合に委託しながら行っており、維持管理状況は良好である。</p>		
事業実施による環境の変化	<p>効率的な林業労働力の移動や資材等の運搬が可能となり、これまでに増して森林施業が実施されるようになってきている。</p>		
社会経済情勢の変化	<p>林道沿線には、他事業により整備された林間歩道、林間広場、花木の植栽、遊具施設、休憩施設等があり、林道の舗装によりマイカーでの乗り入れが容易になったことから、これまで以上に市民の憩いの場として活用されている。</p> <p>また、林道沿線には、牧草地があり畜産業の振興にも寄与している。</p>		
今後の課題等	<p>林道利用者の増加に伴い林道沿線にゴミの散乱等が目立つようになるなど、林道通行マナーの低下が見受けられることから、林道通行に係るマナーの向上に資する普及啓発を行う必要がある。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 森林整備や地域住民等の生活環境の改善、林道の維持管理経費の削減を図る上で必要性が認められる。 ・効率性 現時点における費用対効果分析の結果が2.17と効率性が認められる。今後の維持管理にあっても、適時に必要な改良や補修を実施する等により、効率的に行うこととしている。 ・有効性 森林施業への活用状況、地域住民等の利用状況等からみて有効性が認められる。 		